

# 授業概要 保育科

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
文章表現Ⅰ	演習	2	必修	必修	必修	1年・前期	先川尚美 手塚早苗
							担当形態：クラス分け・オムニバス
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項					
		領域に関する専門的事項（国語）					
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>学生時代及び社会生活において、小論文やレポート、報告、伝達、記録等、自分の考えや、伝えるべき事柄を的確な文章によって表現することが求められる。授業では、基本的な日本語の表現技術、伝える力を身に付けることを目的とし、実践的な練習を通して、文の構造、分かりやすく明快な文章を書く技術や、ビジネス文書、手紙等の基本的な書き方を学ぶ。（先川）</p> <p>社会人になると、伝えたい情報、知識、自らの考え等を他者に正確にわかりやすく伝達するスキルが求められる。授業では、人前で話す際の心構え、準備、技術を、トレーニングを重ねることにより、「話す」「伝える」力の向上を目指す。（手塚）</p>						
到達目標	<p>① 基本的な日本語の表現技術、伝える力を身に付ける。</p> <p>② 実践的な練習を通して文の構造、分かりやすく明快な文章、ビジネス文書、手紙等の基本的な書き方を学ぶ。</p> <p>③ 敬語表現を含めた心構え、分かりやすい文章力を身に付ける。</p> <p>④ 自己紹介による自己表現、これらのトレーニングを通して、よりよく「伝える」を考える。</p>						
授業の進め方	<p>様々な資料、例文等を題材に、日本語の文章表現を多角的に学ぶ。課題に則した文章を書くという実践を通し、文章表現力を養う。（先川）</p> <p>テキストプリントを配付し、発音・発声・読み方を実践中心に学ぶ。また、短いスピーチを考え、互いに発表し、聴き合うことでプレゼン技術の向上を目指す。自ら進んで発言・発表する姿勢を強く求める。（手塚）</p>						
時間外学修学修上の助言	自ら進んで発言・発表をする姿勢を求める。						
授 業 計 画	<p>（先川）</p> <p>第1回 文章を書く目的 : 思考を文章化する、簡潔な表現</p> <p>第2回 文の構造 : 文章における主語と述語の関係</p> <p>第3回 敬語表現Ⅰ : 敬語の特徴、尊敬語と謙譲語</p> <p>第4回 敬語表現Ⅱ : 丁寧語と美化語、敬意表現、敬語の誤った使い方</p> <p>第5回 文章の書き方Ⅰ : 手紙、ビジネス文書の書き方</p> <p>第6回 文章の書き方Ⅱ : レポート、小論文の書き方</p> <p>第7回 履歴書の書き方 : 履歴書、エントリーシート、メールの書き方</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>（手塚）</p> <p>第9回 読むⅠ : その基礎—呼吸法、発音、アクセント他</p> <p>第10回 読むⅡ : その実践—聞き手に、わかりやすく読む</p> <p>第11回 絵本の読み聞かせ : グループで絵本を読み合う</p> <p>第12回 話すⅠ : その基礎—一人前に立って話す</p> <p>第13回 話すⅡ : その基礎—場面に応じた話し方</p> <p>第14回 話すⅢ : プレゼンテーションの実践</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験（先川） 定期試験は実施しない（手塚）</p>						
評 価 方 法	定期試験（90%）、平常点（10%）、提出レポート、平素の受講態度等を加味する。（先川） 定期試験なし、平常点と提出物で評価する。（手塚）						
教 科 書	使用しない。 授業プリントを配付する。						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
心理学の世界	講義	2	選択	選択	選択	1年・前期	田 鍋 佳 子
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	保育関係の仕事に限らず、広く活用できるよう、楽しみながら積極的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>① 現代社会に生きるため、自分や周りの人間の理解と関係の維持、又は、専門分野の仕事に心理学の知識が参考になると考える。本講義は、人間の心と行動を理解しようとして、欧米で発達し展開されてきた学問を紹介することが主の目的である。</p> <p>② 講義は具体的に次の3つの内容で構成される。(1)心理学の概念・用語(2)個人の心的過程(3)個人と集団とのかかわり これらを中心にし、授業を聴きながらこれらについてノートを取ることが学修にとって重要である。</p>						
到 達 目 標	人の基本的認知能力について概観し、個人と個人ないし社会と個人の関係において生じる心理的事象について考察する。その上で、私たち自身が実際に組織や広く社会の中で、よりよいパフォーマンスを生み出すためにはどうしたらよいかを考え、実践へとつなげていく。						
授業の進め方	授業は、配付資料に基づき行う。 毎時間、講義内容に関連した課題を課す。						
時間外学修学修上の助言	まずは、授業をしっかりと聴き、課題をしっかりと提出すること。その中で、自分の興味・関心のある分野を見つけ、自学自習のきっかけにするとよい。						
授 業 計 画	<p>第1回 心理学的発想と心理検査法 : 様々な心理検査手法を学ぶ</p> <p>第2回 感覚・知覚・認知 : 人間の基本的な感覚・知覚・認知能力について概観する</p> <p>第3回 記憶のメカニズム(1) : 記憶の種類と基本的なメカニズムを理解する</p> <p>第4回 記憶のメカニズム(2) : 記憶のバイアス・誤りについて理解し、司法面接法を学ぶ</p> <p>第5回 ストレスとコーピング : ストレスの仕組みを知り、疾病との関連を理解する</p> <p>第6回 言語と発達 : 新生児の言語発達段階を学び、その諸問題について議論する</p> <p>第7回 言語コミュニケーション(1) : 成人の言語コミュニケーションの諸問題について概観する</p> <p>第8回 言語コミュニケーション(2) : 成人の言語コミュニケーションの諸問題について概観する</p> <p>第9回 自己理解の心理過程 : 自己概念の種類と形成過程について学ぶ</p> <p>第10回 他者理解の心理過程 : 他者を理解する際に陥りやすい認知バイアスについて学ぶ</p> <p>第11回 他者存在の影響 : 他者が物理的に存在することによる心理的影響について学ぶ</p> <p>第12回 集団意思決定(1) : 集団で議論する際に陥りやすい問題点について学ぶ</p> <p>第13回 集団意思決定(2) : よりよい意思決定に至るための集団技法を学ぶ</p> <p>第14回 非対面コミュニケーション : インターネット、SNS等、非対面状況でのコミュニケーションの利便性と危険性について学ぶ</p> <p>第15回 まとめ : 総括</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
評 価 方 法	課題提出(100%)						
教 科 書	使用しない。資料を授業時に配付する。						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
くらしと憲法	講義	2	選択	必修	必修	2年・前期	高野 俊太郎
							担当形態：単独
科目に含める必要事項							
受講する上での注意事項	講義において触れる各種法律は、社会人として、最低限知っておくべきものが大半である。将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くこと検討している者はもちろん、そうでない受講者も、今後社会で活動するにあたって、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>日本国憲法は、自由権・平等権等の人権規定を定めて、国民に当然保障されるべき権利・自由を高らかに宣言するとともに、それを脅かす国家権力の濫用が行われないような統治機構の仕組みについて規定している。</p> <p>本講義では、主に国民に保障されている自由権・平等権・社会権等の人権規定につき概説する。その際、憲法違反を争って裁判となった事例・憲法が日常生活に関係する事例等を挙げて、その問題点を学生自身が探求することで、憲法の理念とその重要性につき理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、憲法以外にも、生活を送る上で必要となる法的知識について、具体的事例をあげて紹介、解説を行う。</p>						
到達目標	<p>① 法学全般・憲法学の基本的な考え方を理解させる。</p> <p>② 法律全般に対する理解を深め、今後の社会生活の一助とさせる。</p>						
授業の進め方	毎回必要なレジュメを配付の上、講義形式で授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	世の中で、日々発生する様々な事件に関心を持ち、法的観点からどのような解決が可能であるのかを検討すること。						
授 業 計 画	<p>第1回 憲法の必要性和日本の法体系における憲法の位置付け</p> <p>第2回 基本的人権総論（人権を保障される者の範囲）</p> <p>第3回 基本的人権総論（人権保障の限界）</p> <p>第4回 法の下での平等総説と実際に平等権の侵害が問題となった事例の考察</p> <p>第5回 精神的自由権総説、思想良心の自由、学問の自由、表現の自由</p> <p>第6回 報道の自由及び取材の自由と他の利益との調整</p> <p>第7回 新しい人権、プライバシー権、名誉権</p> <p>第8回 信教の自由と政教分離原則</p> <p>第9回 経済的自由権総説、職業選択の自由、居住移転の自由</p> <p>第10回 財産権</p> <p>第11回 社会権総説、生存権、環境権</p> <p>第12回 教育を受ける権利</p> <p>第13回 勤労の権利及び義務</p> <p>第14回 国民の権利・自由を守るための統治機構の仕組み（三権分立）</p> <p>第15回 憲法の重要性についての総括等</p> <p>定期試験</p>						
評 価 方 法	定期試験（100％）						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>						
備 考	実務経験のある教員：検察庁、法律事務所における検事、弁護士の実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																																
文章表現Ⅱ	演習	2	選択	選択	必修	1年・後期	南 部 正 人																																																
							担当形態：クラス分け・単独																																																
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項																																																					
		領域に関する専門的事項（国語）																																																					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。																																																						
授 業 の 目的・概要	① 文字やことばのコミュニケーション手段としての役割について学ぶ。 ② コミュニケーション能力の意義について学ぶ。 ③ 読解力と表現力の関係について学ぶ。 ④ 文章表現と理解力の関係について学ぶ。 ⑤ 意思伝達の基本と注意点について学ぶ。																																																						
到 達 目 標	① 文字とことばの役割を理解する。 ② 文章や会話の要点を的確に捉えた簡潔な文章を作成する。 ③ 他人の考えを理解し適切に対応するために、文章にすることができる。 ④ 自分の考えを、読む人の気持ちを考えて書くことができる。																																																						
授業の進め方	各回毎にテーマとなる課題を決めて文章作成を行う。																																																						
時間外学修学修上の助言	日頃からニュース等に耳を傾け、内容を正確にとらえる訓練をすること。 子どもたちの感性や人格に影響するということを理解し、正しい表現や丁寧な言葉遣いに留意すること。																																																						
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>読解力と表現力</td> <td>コミュニケーション手段としての文字やことばの重要性を理解する</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>簡潔な文章</td> <td>新聞のコラムを丁寧に書写し、内容を要約する</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>論理的な文章1</td> <td>新聞の社説を丁寧に書写し、内容を要約文する</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>論理的な文章2</td> <td>新聞の社説を丁寧に書写し、内容を要約文する</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>客観的文章</td> <td>新聞記事の内容を正確に短い文章に要約する</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>紹介文1</td> <td>新聞等の人物紹介文を読み、内容を短い文章にまとめる</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>紹介文2</td> <td>伝記や偉人伝等を読み、その人物の紹介文を作成する</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>紹介文3</td> <td>身近な人物の人物や人間性を伝える人物紹介文を作成する</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>紹介文4</td> <td>童話や絵本を選定し、選定理由がわかる本の紹介文を作成する</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>聞き取り1</td> <td>読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>聞き取り2</td> <td>読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>聞き取り3</td> <td>読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>連絡文1</td> <td>保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>連絡文2</td> <td>保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>連絡文3</td> <td>保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>定期試験</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	読解力と表現力	コミュニケーション手段としての文字やことばの重要性を理解する	第2回	簡潔な文章	新聞のコラムを丁寧に書写し、内容を要約する	第3回	論理的な文章1	新聞の社説を丁寧に書写し、内容を要約文する	第4回	論理的な文章2	新聞の社説を丁寧に書写し、内容を要約文する	第5回	客観的文章	新聞記事の内容を正確に短い文章に要約する	第6回	紹介文1	新聞等の人物紹介文を読み、内容を短い文章にまとめる	第7回	紹介文2	伝記や偉人伝等を読み、その人物の紹介文を作成する	第8回	紹介文3	身近な人物の人物や人間性を伝える人物紹介文を作成する	第9回	紹介文4	童話や絵本を選定し、選定理由がわかる本の紹介文を作成する	第10回	聞き取り1	読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる	第11回	聞き取り2	読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる	第12回	聞き取り3	読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる	第13回	連絡文1	保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する	第14回	連絡文2	保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する	第15回	連絡文3	保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する		定期試験	
第1回	読解力と表現力	コミュニケーション手段としての文字やことばの重要性を理解する																																																					
第2回	簡潔な文章	新聞のコラムを丁寧に書写し、内容を要約する																																																					
第3回	論理的な文章1	新聞の社説を丁寧に書写し、内容を要約文する																																																					
第4回	論理的な文章2	新聞の社説を丁寧に書写し、内容を要約文する																																																					
第5回	客観的文章	新聞記事の内容を正確に短い文章に要約する																																																					
第6回	紹介文1	新聞等の人物紹介文を読み、内容を短い文章にまとめる																																																					
第7回	紹介文2	伝記や偉人伝等を読み、その人物の紹介文を作成する																																																					
第8回	紹介文3	身近な人物の人物や人間性を伝える人物紹介文を作成する																																																					
第9回	紹介文4	童話や絵本を選定し、選定理由がわかる本の紹介文を作成する																																																					
第10回	聞き取り1	読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる																																																					
第11回	聞き取り2	読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる																																																					
第12回	聞き取り3	読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる																																																					
第13回	連絡文1	保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する																																																					
第14回	連絡文2	保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する																																																					
第15回	連絡文3	保護者に子供の様子を知らせる文章を作成する																																																					
	定期試験																																																						
評 価 方 法	毎時間提出する課題の評価15回分を累計（90%）。更に、定期試験（10%）による。																																																						
教 科 書	使用しない。																																																						
参 考 書 参 考 資 料 等	新聞朝刊一部、童話及び絵本																																																						
備 考	課題提出の用紙は、光塩短大指定の原稿用紙を使用すること。 新聞は北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞から一紙を選択し朝刊を各自で用意すること。 実務経験のある教員：北海道内の道立高校における国語教育に関する実務経験を活かした授業を行う。																																																						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
国際文化	講義	2	選択			1年・後期	南部ユンクィアンしず子 ほか																																													
							担当形態：オムニバス																																													
		科目に含める必要事項																																																		
受講する上での注意事項	国際社会へ広く目を向けて、楽しみながら積極的かつ主体的に受講すること。																																																			
授 業 の 目的・概要	<p>国際文化とは、世界の国々に目を向け、その国の歴史、自然、経済、教育等について学びながら、各国の現在の状況を把握し、それを根拠として成り立つ文化を理解することである。</p> <p>他国の文化への理解を深め、柔軟な発想で社会の諸問題に対応できる洞察力や問題解決能力を養うとともに、改めて日本の文化を敬愛する心を育てる。</p>																																																			
到達目標	<p>① 世界の国々に目を向け、文化や歴史について理解を深め、国際交流の視点から考察する。</p> <p>② 世界各国の異文化とのかかわりについて相互理解する。</p>																																																			
授業の進め方	本講義では、ビデオやスライド、外国人講師による授業も含めながら、各国の文化を肌で感じられる講義を通して理解を深める。																																																			
時間外学修学修上の助言	普段から国際社会に広く目を向け、自ら興味をもって調べ、知識を広げること。																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>国際文化の概論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>日本の文化 I</td> <td>年中行事と行事食</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>日本の文化 II</td> <td>日本茶の基礎知識：歴史と伝来</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>日本の文化 III</td> <td>日本茶の基礎知識：正しい茶の淹れ方</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ヨーロッパの文化 I</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ヨーロッパの文化 II</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ヨーロッパの文化 III</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>アメリカの文化 I</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>アメリカの文化 II</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>イスラムの文化 I</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>イスラムの文化 II</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>アジアの文化 I</td> <td>台湾の歴史：日本とのかかわり</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>アジアの文化 II</td> <td>台湾の文化：食生活から音楽まで</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>アジアの文化 III</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>アジアの文化 IV</td> <td></td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回	国際文化の概論		第2回	日本の文化 I	年中行事と行事食	第3回	日本の文化 II	日本茶の基礎知識：歴史と伝来	第4回	日本の文化 III	日本茶の基礎知識：正しい茶の淹れ方	第5回	ヨーロッパの文化 I		第6回	ヨーロッパの文化 II		第7回	ヨーロッパの文化 III		第8回	アメリカの文化 I		第9回	アメリカの文化 II		第10回	イスラムの文化 I		第11回	イスラムの文化 II		第12回	アジアの文化 I	台湾の歴史：日本とのかかわり	第13回	アジアの文化 II	台湾の文化：食生活から音楽まで	第14回	アジアの文化 III		第15回	アジアの文化 IV	
第1回	国際文化の概論																																																			
第2回	日本の文化 I	年中行事と行事食																																																		
第3回	日本の文化 II	日本茶の基礎知識：歴史と伝来																																																		
第4回	日本の文化 III	日本茶の基礎知識：正しい茶の淹れ方																																																		
第5回	ヨーロッパの文化 I																																																			
第6回	ヨーロッパの文化 II																																																			
第7回	ヨーロッパの文化 III																																																			
第8回	アメリカの文化 I																																																			
第9回	アメリカの文化 II																																																			
第10回	イスラムの文化 I																																																			
第11回	イスラムの文化 II																																																			
第12回	アジアの文化 I	台湾の歴史：日本とのかかわり																																																		
第13回	アジアの文化 II	台湾の文化：食生活から音楽まで																																																		
第14回	アジアの文化 III																																																			
第15回	アジアの文化 IV																																																			
評価方法	レポート・提出物等（90%）、平常点（10%）平素の受講態度等を加味する。																																																			
教科書	使用しない。																																																			
参考書 参考資料等	適宜紹介する。																																																			
備 考	提出物の期限厳守。																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
手話	演習	2	選択	選択	選択	2年・前期	若 浜 ひろ子 藤 井 義 子																																													
							担当形態：クラス分け・複数																																													
科目に含める必要事項																																																				
受講する上での注意事項	全国手話検定4・5級合格を目指す。 保育関係の業務に限らず、広く活用できるよう、楽しみながら積極的に受講すること。																																																			
授 業 の 目的・概要	聴覚障がい者の言語である「手話」の基本を学ぶ。 外見では分かりにくい聴覚障がいについての理解を深めながら、実際に聴覚障がい者と接した時に、適切な対応ができ、かつ積極的にコミュニケーションできるように指導する。 聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができるように指導する。また、聴覚障がい者が社会生活を送る上での様々なバリアについて考察し、理解をする。																																																			
到 達 目 標	① 聴覚障がい者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を修得する。 ② 手話について学び、実践を通して簡単な日常会話ができる。 ③ 聴覚障がい者の社会生活を理解できる。																																																			
授業の進め方	授業に必要な資料は、プリントを配付して理解を深め、授業は実技と講義で進める。																																																			
時間外学修学修上の助言	各自でも手話を学べるように復習をすること。 講師の手話表現をしっかりと見て、積極的に手を動かすこと。																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス 聴覚障がいの基礎知識 I 伝えあってみましょう</td> <td>「授業の目的、注意事項について」 「聴覚障がい者・コミュニケーションについて」 「身振りでつたえる」</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>手話の基礎知識(1) 自己紹介をしましょう①</td> <td>「手話について」 「挨拶・自己紹介・指文字」</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>自己紹介をしましょう②</td> <td>「家族を紹介する」</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>聴覚障がいの基礎知識 II</td> <td>①「DVD鑑賞・聴覚障がい者の生活を考える」 ②「福祉制度について」</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>聴覚障がいの基礎知識 III 自己紹介をしましょう③</td> <td>「聴覚障がい者の生活について～講師の体験～」 「趣味について話す」</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>自己紹介をしましょう④</td> <td>「数字を使って話す」</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>聴覚障がいの基礎知識 IV 自己紹介をしましょう⑤</td> <td>「聴覚障がい者の労働について」 「仕事について話す」</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>自己紹介をしましょう⑥</td> <td>「住所を紹介する」</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>聴覚障がいの基礎知識 V 自己紹介をしましょう⑦</td> <td>「耳の仕組み・聞こえの仕組みについて」 「復習・自己紹介のまとめ」</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>話し合ってみましょう①</td> <td>「1日・1カ月に関する手話」</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>手話の基礎知識(2) 話し合ってみましょう②</td> <td>「ろう教育について」 「1年に関する手話」</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>話し合ってみましょう③</td> <td>「会話の演習」まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>話し合ってみましょう④</td> <td>「会話の演習」(保育園での会話練習)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>話し合ってみましょう⑤</td> <td>「会話の演習」(会話の模擬場面)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>読み取り・手話表現のまとめ 定期試験</td> <td>「検定試験について」「模擬練習」</td> </tr> </table>							第1回	ガイダンス 聴覚障がいの基礎知識 I 伝えあってみましょう	「授業の目的、注意事項について」 「聴覚障がい者・コミュニケーションについて」 「身振りでつたえる」	第2回	手話の基礎知識(1) 自己紹介をしましょう①	「手話について」 「挨拶・自己紹介・指文字」	第3回	自己紹介をしましょう②	「家族を紹介する」	第4回	聴覚障がいの基礎知識 II	①「DVD鑑賞・聴覚障がい者の生活を考える」 ②「福祉制度について」	第5回	聴覚障がいの基礎知識 III 自己紹介をしましょう③	「聴覚障がい者の生活について～講師の体験～」 「趣味について話す」	第6回	自己紹介をしましょう④	「数字を使って話す」	第7回	聴覚障がいの基礎知識 IV 自己紹介をしましょう⑤	「聴覚障がい者の労働について」 「仕事について話す」	第8回	自己紹介をしましょう⑥	「住所を紹介する」	第9回	聴覚障がいの基礎知識 V 自己紹介をしましょう⑦	「耳の仕組み・聞こえの仕組みについて」 「復習・自己紹介のまとめ」	第10回	話し合ってみましょう①	「1日・1カ月に関する手話」	第11回	手話の基礎知識(2) 話し合ってみましょう②	「ろう教育について」 「1年に関する手話」	第12回	話し合ってみましょう③	「会話の演習」まとめ	第13回	話し合ってみましょう④	「会話の演習」(保育園での会話練習)	第14回	話し合ってみましょう⑤	「会話の演習」(会話の模擬場面)	第15回	読み取り・手話表現のまとめ 定期試験	「検定試験について」「模擬練習」
第1回	ガイダンス 聴覚障がいの基礎知識 I 伝えあってみましょう	「授業の目的、注意事項について」 「聴覚障がい者・コミュニケーションについて」 「身振りでつたえる」																																																		
第2回	手話の基礎知識(1) 自己紹介をしましょう①	「手話について」 「挨拶・自己紹介・指文字」																																																		
第3回	自己紹介をしましょう②	「家族を紹介する」																																																		
第4回	聴覚障がいの基礎知識 II	①「DVD鑑賞・聴覚障がい者の生活を考える」 ②「福祉制度について」																																																		
第5回	聴覚障がいの基礎知識 III 自己紹介をしましょう③	「聴覚障がい者の生活について～講師の体験～」 「趣味について話す」																																																		
第6回	自己紹介をしましょう④	「数字を使って話す」																																																		
第7回	聴覚障がいの基礎知識 IV 自己紹介をしましょう⑤	「聴覚障がい者の労働について」 「仕事について話す」																																																		
第8回	自己紹介をしましょう⑥	「住所を紹介する」																																																		
第9回	聴覚障がいの基礎知識 V 自己紹介をしましょう⑦	「耳の仕組み・聞こえの仕組みについて」 「復習・自己紹介のまとめ」																																																		
第10回	話し合ってみましょう①	「1日・1カ月に関する手話」																																																		
第11回	手話の基礎知識(2) 話し合ってみましょう②	「ろう教育について」 「1年に関する手話」																																																		
第12回	話し合ってみましょう③	「会話の演習」まとめ																																																		
第13回	話し合ってみましょう④	「会話の演習」(保育園での会話練習)																																																		
第14回	話し合ってみましょう⑤	「会話の演習」(会話の模擬場面)																																																		
第15回	読み取り・手話表現のまとめ 定期試験	「検定試験について」「模擬練習」																																																		
評 価 方 法	定期試験：実技・筆記(80%) 平常点：レポート提出、小テスト(読み取り)、受講態度(20%)																																																			
教 科 書	さっぽろの手話(公益社団法人札幌聴覚障害者協会)																																																			
参 考 書 参 考 資 料 等	わたしたちの手話学習辞典Ⅰ(一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局) わたしたちの手話学習辞典Ⅱ(一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局)																																																			
備 考	特に記載事項なし。																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
情報処理	演習	2	必修	必修	必修	1年・後期	中山 理智恵
							担当形態：クラス分け・単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	世の中のあらゆるところで情報通信技術が使われている現代に於いて、コンピュータやネットワークは、必要不可欠なものとなり、安全かつ有益に使いこなすことの重要性が高まっています。 この講義では、情報処理の基礎知識として、コンピュータの基本構成やオフィスツールの操作方法について学び、最終的には、実践的な側面からも完成度の高いドキュメントやプレゼン資料を作成できるテクニックと情報セキュリティなどを含めた幅広い知識を修得し、進化する情報社会の中でICTを適切に活用できる能力の会得を目的とします。						
到達目標	① 基礎知識をしっかりとマスターし、様々な例題に応じたドキュメントを独力で作成するための応用力と思考力を身に付ける。 ② 個々の基本的資質を高め、この授業をきっかけとして学んだことを保育の現場でも実践できる能力を養う。						
授業の進め方	アプリケーションごとに操作技法を説明し、各回で説明した内容に対応した演習問題と指定課題を出題して、修得状況を確認します。操作上の疑問点はその都度対応します。また、修得状況によっては、その後の授業内容を工夫しながら進めるとともに、アプリケーションごとに作成した操作ガイドを参考資料として授業内で配付し、課題回答時等に活用してもらいます。演習問題と課題作成については、授業内で解説します。						
時間外学修学修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>キーボード入力に不慣れな場合は、タイピングアプリなどを利用して自主的に練習をしておいて下さい。</li> <li>説明した内容に応じた演習問題を提示するので、授業内で完成できない場合は、配付する操作ガイド（プリント）を効果的に活用して完成させて下さい。</li> </ul>						
授 業 計 画	第1回 ガイダンス（授業の進め方・留意事項）、PC基本操作について解説 第2回 Wordによる文書作成Ⅰ：文字書式・段落書式の設定、罫線作成 第3回 Wordによる文書作成Ⅱ：インデント・タブの設定、段組み設定 第4回 Wordによる文書作成Ⅲ：ページレイアウトの設定、差し込み印刷 第5回 Wordによる文書作成Ⅳ：SmartArtの作成、図形の作成、図の挿入 第6回 Wordによる文書作成Ⅴ：ヘッダー/フッターの設定、ページ番号の設定 第7回 Wordによる課題作成：（ビジネス文書） 第8回 Wordによる課題作成：（園だより） 第9回 Wordによる課題作成：（クラスだより） 第10回 Excelによるデータ処理Ⅰ：効率的なデータ入力と表作成 第11回 Excelによるデータ処理Ⅱ：四則演算と関数を利用した計算、グラフの作成 第12回 Excelによる課題作成 第13回 PowerPointによるプレゼンテーション資料作成Ⅰ：基本操作 第14回 PowerPointによるプレゼンテーション資料作成Ⅱ：応用操作 第15回 まとめとふりかえり 定期試験は実施しない						
評 価 方 法	指定課題の提出（80%）、平常点（20%）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	アプリケーションごとに作成した独自の操作ガイド（プリント）を授業内で配付する。 それ以外の参考資料は授業内で説明する。						
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定する提出物については、授業内で口頭や紙面にて提示するので休まず出席して下さい。</li> <li>指定課題は、成績評価と修得状況を把握する上で重視するので提出期日を守り忘れずに提出して下さい。</li> </ul>						



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																
芸術鑑賞・教養講座Ⅰ	演習	1	必修			1年・通年	保育科教員 ほか																																
							担当形態：オムニバス																																
		科目に含める必要事項																																					
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 本学キャンパスで行われる特別授業・講演や学外での芸術鑑賞・特別講座等を含むため各自開講日時を確認して受講すること。																																						
授 業 の 目的・概要	美術や音楽等の芸術を鑑賞し知性や感性を磨く。また、社会で求められるマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を高める。 芸術鑑賞 (美術館やコンサートホール等で実際に鑑賞する。) 教養講座 (時代の流れに即した内容をテーマにした講演会を受講する。) 特別授業 (外部講師による特別に開講される授業を受講する。) マナー講座 (社会で求められているマナーや知識の授業を受講する。)																																						
到達目標	① 美術や音楽等の芸術を鑑賞し、知性や感性を磨き、豊かな教養を身に付ける。 ② 社会で求められているマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を身に付ける。																																						
授業の進め方	各回のテーマに添った講演・講座の受講、美術・音楽等の鑑賞をする。 レポート・ワークシートを作成する。																																						
時間外学修学修上の助言	講座を通じて関心を抱いたテーマに関連した文献にあたる等、受講者各自で発展的な学修をすること。																																						
授 業 計 画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">第1回</td> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">} オリエンテーション</td> <td></td> </tr> <tr><td>第2回</td><td></td></tr> <tr><td>第3回</td><td></td></tr> <tr><td>第4回</td><td></td></tr> <tr><td>第5回</td><td></td></tr> <tr><td>第6回</td><td></td></tr> <tr><td>第7回</td><td></td></tr> <tr><td>第8回</td><td></td></tr> <tr><td>第9回</td><td></td></tr> <tr><td>第10回</td><td></td></tr> <tr><td>第11回</td><td></td></tr> <tr><td>第12回</td><td></td></tr> <tr><td>第13回</td><td></td></tr> <tr><td>第14回</td><td></td></tr> <tr> <td>第15回</td> <td></td> <td style="text-align: center;">} まとめ</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回	} オリエンテーション		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		第10回		第11回		第12回		第13回		第14回		第15回		} まとめ
第1回	} オリエンテーション																																						
第2回																																							
第3回																																							
第4回																																							
第5回																																							
第6回																																							
第7回																																							
第8回																																							
第9回																																							
第10回																																							
第11回																																							
第12回																																							
第13回																																							
第14回																																							
第15回		} まとめ																																					
評価方法	提出物等(50%)、平常点(50%) 平素の受講態度等を加味する。																																						
教科書	使用しない。																																						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。																																						
備 考	提出物の期限厳守。																																						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																
芸術鑑賞・教養講座Ⅱ	演習	1	必修			2年・通年	保育科教員 ほか																																
							担当形態：オムニバス																																
		科目に含める必要事項																																					
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 本学キャンパスで行われる特別授業・講演や学外での芸術鑑賞・特別講座等を含むため各自開講日時を確認して受講すること。																																						
授 業 の 目的・概要	美術や音楽等の芸術を鑑賞し知性や感性を磨く。また、社会で求められるマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を高める。 芸術鑑賞 (美術館やコンサートホール等で実際に鑑賞する。) 教養講座 (時代の流れに即した内容をテーマにした講演会を受講する。) 特別授業 (外部講師による特別に開講される授業を受講する。) マナー講座 (社会で求められているマナーや知識の授業を受講する。)																																						
到達目標	① 美術や音楽等の芸術を鑑賞し、知性や感性を磨き、豊かな教養を身に付ける。 ② 社会で求められているマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を身に付ける。																																						
授業の進め方	各回のテーマに添った講演・講座の受講、美術・音楽等の鑑賞をする。 レポート・ワークシートを作成する。																																						
時間外学修学修上の助言	講座を通じて関心を抱いたテーマに関連した文献にあたる等、受講者各自で発展的な学修をすること。																																						
授 業 計 画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">第1回</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 70%;">オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td rowspan="14" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>全学行事</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>美術鑑賞</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>健康管理講座</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>テーブルマナー</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>芸術鑑賞</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>中国料理特別授業</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>食育講座</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>学園歌</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>特別講座</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>等</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回		オリエンテーション	第2回	}		第3回		第4回	全学行事	第5回	美術鑑賞	第6回	健康管理講座	第7回	テーブルマナー	第8回	芸術鑑賞	第9回	中国料理特別授業	第10回	食育講座	第11回	学園歌	第12回	特別講座	第13回	等	第14回		第15回	まとめ
第1回		オリエンテーション																																					
第2回	}																																						
第3回																																							
第4回		全学行事																																					
第5回		美術鑑賞																																					
第6回		健康管理講座																																					
第7回		テーブルマナー																																					
第8回		芸術鑑賞																																					
第9回		中国料理特別授業																																					
第10回		食育講座																																					
第11回		学園歌																																					
第12回		特別講座																																					
第13回		等																																					
第14回																																							
第15回		まとめ																																					
評 価 方 法	提出物等 (50%)、平常点 (50%) 平素の受講態度等を加味する。																																						
教 科 書	使用しない。																																						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。																																						
備 考	提出物の期限厳守。																																						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
英語Ⅰ	演習	2	必修	必修	必修	1年・前期	盛合直人
			フランス語Ⅰとどちらかを必修				担当形態：クラス分け・単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。英語Ⅰを履修しなければ、英語Ⅱ・英語Ⅲの科目選択はできない。また、英語Ⅰからフランス語Ⅱへの履修はできない。						
授 業 の 目的・概要	<p>目的</p> <p>グローバル化を見据えた「使える英語」の学校教育を目指し、日本の英語教育開始年齢は年々早期化している。2018年～2020年にかけて小・中・高の英語教育が変化の時代に入ります。帰国子女や、海外生活経験のある保護者が近年豪華傾向にあり、未就学児の保育現場においても、英語に関連した活動を導入するところが益々増えている。</p> <p>本授業では、保育士・幼稚園教諭としてこれから関わってゆく幼児たちに「英語は楽しい！」という印象を与え、「もっとできるようになりたい！」という興味や意欲をもたせられるようになるための基礎を作ることとする。</p> <p>授業概要</p> <p>① 苦手意識を作らないための心構え・土台となる理念を学び、実践的ノウハウ、歌やゲーム等、現場に合わせて応用できる具体的なアイデアを修得する。</p> <p>② 保育・幼児教育の場は常にチームワークが求められるので、本授業も2人ペア、あるいは少人数のグループに分かれ協力し合って一つの課題に取り組む練習を多く取り入れる。毎時間ポートフォリオを提出する。</p>						
到達目標	学期終了時には学生自身が「英語は楽しい!」「もっとできるようになりたい!」と思えるようになっていくこと、また、「学んだことを子どもたちにも教えてあげたい!」という熱意を持って、将来携わる幼児教育・保育で活かせるようになることを目標とする。						
授業の進め方	各回ごとに修得目標を設定し、それに合わせた書き込み式のプリントを使用。学んだことをその場で実践する形式をとる。レベル、修得状況に応じて進めていく。						
時間外学修学修上の助言	<p>① 普段から、幼児英語教育・英語学習に関する情報を意識して収集する。</p> <p>② 子どもと同じように「これは英語で何ていうんだろう?」と興味を持ち、調べて発見する習慣を身に付ける。</p>						
授 業 計 画	<p>第1回 英語基礎知識の確認 / オリエンテーション(受講心得、持参するもの等)</p> <p>第2回 毎回のルーティン (あいさつ、天気、曜日、日付) / 自己紹介をする 【発表】</p> <p>第3回 英語の音を楽しむ (発音の基礎、基本の単語練習、インターネットの活用法)</p> <p>第4回 英語で指示出し (コツとポイント、実演) (英語話者の体験談)</p> <p>第5回 絵本の読み聞かせ① 準備、下調べのポイント(外国の絵本や布絵本についても学ぶ)</p> <p>第6回 絵本の読み聞かせ② 実演とフィードバック 【発表】</p> <p>第7回 絵本の読み聞かせ③ ストーリータイムをプランニング</p> <p>第8回 英語の歌① 準備の仕方、インターネットの活用法</p> <p>第9回 英語の歌② 自分で振り付け、リードする 【発表】</p> <p>第10回 英語のゲーム① 広い場所での体を動かすゲーム、狭い場所を活用したゲーム(flashcard)など</p> <p>第11回 英語のゲーム② ゲームタイムをプランニングしてみよう</p> <p>第12回 英語で伝える (コミュニケーションのコツとポイント)(ケガや病気の表現を学ぶ)</p> <p>第13回 乳幼児の世話をするうえで、知っておくべき英語表現を学ぶ</p> <p>第14回 幼児向け英語レッスンをプランニング</p> <p>第15回 総まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
評価方法	ポートフォリオ・小テスト(50%)、提出物(25%)、発表(25%)などを総合的に見て評価する。						
教科書	使用しない。 授業プリントを配付する。						
参考書 参考資料等	保育所保育指針(厚生労働省編、フレーベル館) 幼稚園教育要領(文部科学省編、フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館)						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
フランス語Ⅰ	演習	2	必修	必修	必修	1年・前期	ヤヤウィ・セドリック
			英語Ⅰとどちらかを必修				担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。フランス語Ⅰを履修しなければフランス語Ⅱの科目選択はできない。また、フランス語Ⅰから英語Ⅱへの履修はできない。						
授 業 の 目的・概要	フランス語で日常生活のコミュニケーションを取るための基本を学ぶ。						
到 達 目 標	① フランス語で自己紹介ができる。 ② フランス語で相手についてたずねる。						
授業の進め方	会話を優先した授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	前の授業で学修した語彙やスピーチ・アクト、文法ポイントを復習して、覚える。						
授 業 計 画	第1回 アルファベット 第2回 教室でよく使う表現 第3回 出会い1（動詞の直説法現在-名詞の性） 第4回 出会い2（疑問文型） 第5回 出会い3（en, au, aux について-所有形容詞） 第6回 出会い4（数字） 第7回 出会い5（疑問形容詞） 第8回 紹介1（疑問文） 第9回 紹介2（否定文） 第10回 紹介3（不定冠詞と定冠詞） 第11回 紹介4（名詞の複数形） 第12回 紹介5（前置詞 à, deと定冠詞） 第13回 紹介6（人称il / elle） 第14回 繰り返し学修 第15回 まとめ 定期試験						
評 価 方 法	口頭試験（80%）、平素の受講態度（20%）。						
教 科 書	EN SCENE I Nouvelle édition 場面で学ぶフランス語1（三修社）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
英語Ⅱ	演習	2	選択	選択	選択	1年・後期	盛合直人
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	英語Ⅰの単位を修得した者に限る。 なお、英語Ⅲを履修するためには、本科目の単位を修得する必要がある。						
授 業 の 目的・概要	<p>幼児に英語を「教える」手法と技術を学び、自ら発見し、調べ、学び、創造力や応用力を伸ばすことを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>① 現場での活動を意識して歌・ゲーム・ダンス等を取り入れた英語言語活動を行う。  ② テーム・ティーチングを基本とし、教える側・教えられる側を交互にシミュレーションする。  ③ 伝えるための工夫を体験をもとに自分で考える。  ④ 語彙数を増やし、基礎的な文法を理解して個人の英語力を高めるための課題に取り組む。</p>						
到達目標	現実的な幼児向けの英語レッスン、英語活動を、状況に合わせて計画できる、あるいは導く基本を体得する。						
授業の進め方	毎回到修得目標を設定し、それに合わせたプリントなどを使用する。 既習事項をその場で実践する形式をとる。達成レベルや修得状況に応じて対応する。 授業のまとめのポートフォリオを毎回記入し提出する。						
時間外学修学修上の助言	① 日頃から、幼児英語教育・英語学習に関する情報を意識して収集する。 ② 「これは英語で何ていうんだろう？」と興味と関心を持ち、調べる習慣を身に付ける。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション、毎回のルーティン（あいさつ、天気、曜日、日付） 第2回 音と発音（発音の基礎、基本の単語練習、インターネットの活用法） 第3回 英語の歌① 準備の仕方、インターネットの活用法、発表、フィードバック 第4回 英語の歌② 歌に合わせて、オリジナルの振り付けをつける 【発表】 第5回 英語の歌③ オリジナルの歌を作る（振り付けも加える） 【発表】 第6回 英語の指示 英語での指示出し表現と依頼の表現を学ぶ。実演 第7回 英語の絵本① 絵本の読み聞かせ（準備、下調べのポイント、実演とフィードバック） 第8回 英語の絵本② 絵本の読み聞かせ 【発表】 第9回 英語で紙芝居（準備のコツ、ポイントと応用） 第10回 英語で工作①（折り紙の説明や、道具や材料の説明。コミュニケーション力の実践） 第11回 英語で工作②（折り紙の折り方を英語で説明する） 【発表】 第12回 英語の学び① フラッシュカードの使い方、レッスンプランニング 【発表】 第13回 英語の学び② タブレット（ICT）の活用 第14回 幼児向け英語レッスンをプランニング 第15回 総まとめ 定期試験は実施しない						
評価方法	実践型の授業なので出席状況と参加が最も重視される（50%）。加えて各回の提出物（25%）、発表（25%）等から総合的に評価。						
教科書	使用しない。 資料は適宜紹介する。授業プリントを配付する。						
参考書 参考資料等	“First Steps in Reading English” by I.A. Richards / Christine Gibson (IBC publishing.co) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
フランス語Ⅱ	演習	2	選択	選択	選択	1年・後期	ヤヤウィ・セドリック
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	フランス語Ⅰの単位を修得した者に限る。						
授 業 の 目的・概要	フランス語で日常生活のコミュニケーションを取るための基本を学ぶ。						
到 達 目 標	① フランス語で趣味について話す。 ② フランス語で家族を紹介する。						
授業の進め方	会話を優先した授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	前の授業で学修した語彙やスピーチ・アクト、文法ポイントを復習して、覚える。						
授 業 計 画	第1回 専攻と余暇1（部分冠詞） 第2回 専攻と余暇2（好きなこと） 第3回 専攻と余暇3（中性代名詞 en） 第4回 専攻と余暇4（中性代名詞 y） 第5回 家族1（提示表現） 第6回 家族2（否定の冠詞 de） 第7回 家族3（形容詞の変化（1）） 第8回 家族4（形容詞の変化（2）） 第9回 持ち物1（これは何ですか？） 第10回 持ち物2（中に何が入っているの？） 第11回 持ち物3 指示形容詞（この、その、あの） 第12回 持ち物4（誰のものですか） 第13回 持ち物5 フランスの大学のシステム 第14回 繰り返し学修 第15回 まとめ 定期試験						
評 価 方 法	口頭試験（80%）、平素の受講態度（20%）。						
教 科 書	EN SCENE I Nouvelle édition 場面で学ぶフランス語1（三修社）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																														
英語Ⅲ	演習	2	選択	選択	選択	2年・前期	盛 合 直 人																														
							担当形態：単独																														
		科目に含める必要事項																																			
受講する上での注意事項	英語Ⅰ、英語Ⅱの単位を修得した者に限る。																																				
授 業 の 目的・概要	<p>Simple conversation and communication skills (speaking, listening, reading and writing) will be developed in a group environment using practical travel situations. Portofolio should be submitted everytime and Quizzes will be given regularly.</p> <p>(英語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法表現をおさらいし、旅行英会話に挑戦する。) (毎時間ポートフォリオの提出と定期的に小テストを行う。)</p>																																				
到達目標	<p>Students will be able to perform a variety of oral communicative tasks. (様々な場面における英語力向上を目指す。)</p>																																				
授業の進め方	<p>プリント等を使用しながら授業を進める。 レベルや到達度、修得状況に応じて進めていく。</p>																																				
時間外学修学修上の助言	<p>受身になるのではなく、積極的に授業に参加し発言することが望ましい。</p>																																				
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回 Talking about travel experiences</td> <td>旅の経験や思い出を述べる</td> </tr> <tr> <td>第2回 At airport immigration and customs</td> <td>空港の入国と税関</td> </tr> <tr> <td>第3回 Asking and following directions</td> <td>道順を尋ねたり、説明したりする</td> </tr> <tr> <td>第4回 Making reservatins</td> <td>ホテルやレストラン飛行機などの予約をする</td> </tr> <tr> <td>第5回 At restaurant 1 (order, recomendations)</td> <td>レストランでの注文など</td> </tr> <tr> <td>第6回 At restaurant 2 (menue,trouble and payment)</td> <td>料理とメニュー、トラブルや会計など</td> </tr> <tr> <td>第7回 Making skit and rollplay 1</td> <td>スキットを作成しロールプレイする 1</td> </tr> <tr> <td>第8回 Shopping 1 (find out items and to try on clothes)</td> <td>商品を探す、試着する</td> </tr> <tr> <td>第9回 Shopping 2 (discount negotiation or bargaining /trouble and customer service)</td> <td>値引き交渉と割引/トラブルとお客様相談窓口</td> </tr> <tr> <td>第10回 Making skit and rollplay 2</td> <td>スキットを作成しロールプレイする 2</td> </tr> <tr> <td>第11回 At hospital (receiving medical examination)</td> <td>病院での診察や病状を伝える</td> </tr> <tr> <td>第12回 At pharmacy and drugstore</td> <td>薬局とドラッグストアー</td> </tr> <tr> <td>第13回 Making travel plan</td> <td>旅行の計画を立てる</td> </tr> <tr> <td>第14回 Presentation</td> <td>旅行の計画を発表する</td> </tr> <tr> <td>第15回 Review</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回 Talking about travel experiences	旅の経験や思い出を述べる	第2回 At airport immigration and customs	空港の入国と税関	第3回 Asking and following directions	道順を尋ねたり、説明したりする	第4回 Making reservatins	ホテルやレストラン飛行機などの予約をする	第5回 At restaurant 1 (order, recomendations)	レストランでの注文など	第6回 At restaurant 2 (menue,trouble and payment)	料理とメニュー、トラブルや会計など	第7回 Making skit and rollplay 1	スキットを作成しロールプレイする 1	第8回 Shopping 1 (find out items and to try on clothes)	商品を探す、試着する	第9回 Shopping 2 (discount negotiation or bargaining /trouble and customer service)	値引き交渉と割引/トラブルとお客様相談窓口	第10回 Making skit and rollplay 2	スキットを作成しロールプレイする 2	第11回 At hospital (receiving medical examination)	病院での診察や病状を伝える	第12回 At pharmacy and drugstore	薬局とドラッグストアー	第13回 Making travel plan	旅行の計画を立てる	第14回 Presentation	旅行の計画を発表する	第15回 Review	まとめ
第1回 Talking about travel experiences	旅の経験や思い出を述べる																																				
第2回 At airport immigration and customs	空港の入国と税関																																				
第3回 Asking and following directions	道順を尋ねたり、説明したりする																																				
第4回 Making reservatins	ホテルやレストラン飛行機などの予約をする																																				
第5回 At restaurant 1 (order, recomendations)	レストランでの注文など																																				
第6回 At restaurant 2 (menue,trouble and payment)	料理とメニュー、トラブルや会計など																																				
第7回 Making skit and rollplay 1	スキットを作成しロールプレイする 1																																				
第8回 Shopping 1 (find out items and to try on clothes)	商品を探す、試着する																																				
第9回 Shopping 2 (discount negotiation or bargaining /trouble and customer service)	値引き交渉と割引/トラブルとお客様相談窓口																																				
第10回 Making skit and rollplay 2	スキットを作成しロールプレイする 2																																				
第11回 At hospital (receiving medical examination)	病院での診察や病状を伝える																																				
第12回 At pharmacy and drugstore	薬局とドラッグストアー																																				
第13回 Making travel plan	旅行の計画を立てる																																				
第14回 Presentation	旅行の計画を発表する																																				
第15回 Review	まとめ																																				
評 価 方 法	<p>Grading will be based on participation attendance, group presentation and examination. 小テスト(15%)、課題(25%)、ポートフォリオ(30%)、授業参加・発表(30%)</p>																																				
教 科 書	<p>使用しない。</p>																																				
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>“Talk a Lot” by David Martin (EFL Press) English conversation for beginners by Kuwahara kenji (Natsume Press)</p>																																				
備 考	<p>特に記載事項なし。</p>																																				

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																								
体育理論	講義	1	選択	必修	必修	1年・後期	渡 邊 望																								
							担当形態：単独																								
		科目に含める必要事項																													
受講する上での注意事項	保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望の履修者はいずれも必修である。																														
授 業 の 目的・概要	<p>生涯にわたり心身ともに健康な体であるための基本的な知識の理解を深めるとともに、生活習慣の見直しができるようにすることで、自らの健康を管理するだけでなく、より健康的なライフスタイルを確立できる能力を養う。</p> <p>また、女性の体のしくみや、心と体の関連性について学び、健康づくりの一助となることを目的とする。</p>																														
到 達 目 標	<p>① 健康の保持・増進をするための基本的な知識を身に付け、心身の健康を自ら管理できるようにする。</p> <p>② 運動がもたらす効果の科学的理解を深め、実践できる能力を身に付ける。</p> <p>③ 女性としての体のしくみについて理解する。</p> <p>④ 幼児期の運動遊びの意義と発育発達に即した運動あそびについて学び、実践力を養う。</p>																														
授業の進め方	必要な資料は、プリントを配付し、パワーポイントを使用して授業を進めていく。																														
時間外学修学修上の助言	健康志向ブームでいろいろな情報が氾濫している中で、正しい知識を持って見極めることができるよう心がける。																														
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 健康の捉え方</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>運動と健康</td> <td>: 生活習慣病と運動の効果</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>女性の健康 ①</td> <td>: 飲酒と喫煙、ダイエット</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>女性の健康 ②</td> <td>: 月経・妊娠と健康</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>からだのしくみや機能</td> <td>: 体温調節と熱中症</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>からだを動かすしくみ</td> <td>: 骨と筋肉の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>幼児期運動指針</td> <td>: 幼児期における身体活動の現状と運動の意義</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>幼児期の運動あそびについて</td> <td>: 発達の年齢に応じた運動あそびと実践例</td> </tr> </table> <p>定期試験</p>							第 1 回	オリエンテーション	: 健康の捉え方	第 2 回	運動と健康	: 生活習慣病と運動の効果	第 3 回	女性の健康 ①	: 飲酒と喫煙、ダイエット	第 4 回	女性の健康 ②	: 月経・妊娠と健康	第 5 回	からだのしくみや機能	: 体温調節と熱中症	第 6 回	からだを動かすしくみ	: 骨と筋肉の構造と機能	第 7 回	幼児期運動指針	: 幼児期における身体活動の現状と運動の意義	第 8 回	幼児期の運動あそびについて	: 発達の年齢に応じた運動あそびと実践例
第 1 回	オリエンテーション	: 健康の捉え方																													
第 2 回	運動と健康	: 生活習慣病と運動の効果																													
第 3 回	女性の健康 ①	: 飲酒と喫煙、ダイエット																													
第 4 回	女性の健康 ②	: 月経・妊娠と健康																													
第 5 回	からだのしくみや機能	: 体温調節と熱中症																													
第 6 回	からだを動かすしくみ	: 骨と筋肉の構造と機能																													
第 7 回	幼児期運動指針	: 幼児期における身体活動の現状と運動の意義																													
第 8 回	幼児期の運動あそびについて	: 発達の年齢に応じた運動あそびと実践例																													
評 価 方 法	定期試験（80%）、提出物（10%）、平常点（10%）平素の受講態度や課題の取り組み等を加味する。遅刻・欠席は減点する。																														
教 科 書	使用しない。																														
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>																														
備 考	提出物の期限厳守。																														



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																																																		
体育実技	実技	1	選択	必修	必修	1年・前期	渡 邊 望																																																																		
							担当形態：クラス分け・単独																																																																		
		科目に含める必要事項																																																																							
受講する上での注意事項	<p>保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望の履修者はいずれも必修である。          運動ができる服装（ジャージ等）で参加すること。使用する用具の準備や後片付けを積極的に行うこと。          ピアス・ネックレス等の装飾品は、自他ともにケガ防止のためはすすこと。</p>																																																																								
授 業 の 目的・概要	<p>① 心身ともに健康であるためには、運動やスポーツを主体的に行うことが不可欠の要件であることから、各種の運動種目を通じて、自らが体を動かす楽しさを味わい、生涯にわたって運動の習慣を身に付ける。また、自己の体力向上に効果的な運動を行うとともに自分に合ったスポーツライフを実現できる。          ② ゲーム形式を通じて仲間と協力し、体を動かす楽しさを共有することで交流を深め、コミュニケーションを図る。</p>																																																																								
到 達 目 標	<p>① 運動の楽しさや喜びを味わい、自ら進んで運動に取り組むことができる。          ② 自己の体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付け実践することができる。          ③ 仲間と協力してスポーツを楽しめる能力を身に付ける。</p>																																																																								
授業の進め方	ウォーミングアップとしてラジオ体操や体づくりのトレーニング、ストレッチ等でしっかり体を動かしてから各運動種目を行う。																																																																								
時間外学修学修上の助言	事故やけが防止のため準備運動は、しっかりと行うこと。																																																																								
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 授業内容の説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>体力測定・ラジオ体操</td> <td>: 柔軟性、上体起こし、平衡性、縄跳び</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>レクリエーション ①</td> <td>: からだほぐし運動、仲間づくり</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>レクリエーション ②</td> <td>: からだを使った運動</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ボール運動</td> <td>: ボールを使った運動</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ボールゲーム ①</td> <td>: ドッチボール</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ボールゲーム ②</td> <td>: パスゲーム</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>縄跳び</td> <td>: 縄を使った運動</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>長縄跳び</td> <td>: 長縄跳び、ダブルダッチ</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>有酸素運動 ①</td> <td>: ウォーキングの正しいフォーム</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>有酸素運動 ②</td> <td>: エアロビクス</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>バドミントン ①</td> <td>: ルール理解・チーム作り</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>バドミントン ②</td> <td>: ダブルス戦</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>バドミントン ③</td> <td>: シングルス戦</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>ミニバレー ①</td> <td>: ルール理解・チーム作り</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>ミニバレー ②</td> <td>: 練習試合</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>ミニバレー ③</td> <td>: チーム戦</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>バレーボール ①</td> <td>: サーブ・レシーブ練習</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>バレーボール ②</td> <td>: パス練習・ラリーボール</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>バレーボール ③</td> <td>: チーム戦</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>体力測定</td> <td>: 縄跳び発表（個人課題）</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>まとめ</td> <td>: 振り返りとリクエスト</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回	オリエンテーション	: 授業内容の説明	第2回	体力測定・ラジオ体操	: 柔軟性、上体起こし、平衡性、縄跳び	第3回	レクリエーション ①	: からだほぐし運動、仲間づくり	第4回	レクリエーション ②	: からだを使った運動	第5回	ボール運動	: ボールを使った運動	第6回	ボールゲーム ①	: ドッチボール	第7回	ボールゲーム ②	: パスゲーム	第8回	縄跳び	: 縄を使った運動	第9回	長縄跳び	: 長縄跳び、ダブルダッチ	第10回	有酸素運動 ①	: ウォーキングの正しいフォーム	第11回	有酸素運動 ②	: エアロビクス	第12回	バドミントン ①	: ルール理解・チーム作り	第13回	バドミントン ②	: ダブルス戦	第14回	バドミントン ③	: シングルス戦	第15回	ミニバレー ①	: ルール理解・チーム作り	第16回	ミニバレー ②	: 練習試合	第17回	ミニバレー ③	: チーム戦	第18回	バレーボール ①	: サーブ・レシーブ練習	第19回	バレーボール ②	: パス練習・ラリーボール	第20回	バレーボール ③	: チーム戦	第21回	体力測定	: 縄跳び発表（個人課題）	第22回	まとめ	: 振り返りとリクエスト
第1回	オリエンテーション	: 授業内容の説明																																																																							
第2回	体力測定・ラジオ体操	: 柔軟性、上体起こし、平衡性、縄跳び																																																																							
第3回	レクリエーション ①	: からだほぐし運動、仲間づくり																																																																							
第4回	レクリエーション ②	: からだを使った運動																																																																							
第5回	ボール運動	: ボールを使った運動																																																																							
第6回	ボールゲーム ①	: ドッチボール																																																																							
第7回	ボールゲーム ②	: パスゲーム																																																																							
第8回	縄跳び	: 縄を使った運動																																																																							
第9回	長縄跳び	: 長縄跳び、ダブルダッチ																																																																							
第10回	有酸素運動 ①	: ウォーキングの正しいフォーム																																																																							
第11回	有酸素運動 ②	: エアロビクス																																																																							
第12回	バドミントン ①	: ルール理解・チーム作り																																																																							
第13回	バドミントン ②	: ダブルス戦																																																																							
第14回	バドミントン ③	: シングルス戦																																																																							
第15回	ミニバレー ①	: ルール理解・チーム作り																																																																							
第16回	ミニバレー ②	: 練習試合																																																																							
第17回	ミニバレー ③	: チーム戦																																																																							
第18回	バレーボール ①	: サーブ・レシーブ練習																																																																							
第19回	バレーボール ②	: パス練習・ラリーボール																																																																							
第20回	バレーボール ③	: チーム戦																																																																							
第21回	体力測定	: 縄跳び発表（個人課題）																																																																							
第22回	まとめ	: 振り返りとリクエスト																																																																							
評 価 方 法	平常点（70%）、技能点（30%） 授業運営においての積極的に取り組む態度等を加味する。																																																																								
教 科 書	使用しない。																																																																								
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）          幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）          幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>																																																																								
備 考	特に記載事項なし。																																																																								

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
キャリア教育	演習	2	必修	選択	選択	1年・後期	保育科教員 ほか
							担当形態：オムニバス
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 将来、社会の一員として職に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	本演習では、社会人に必要な基礎力やマナーを身に付け、社会人としての資質を磨くことを目的とする。 また「職業キャリア」にとどまらず、個人の環境や状況、人生の節目や転機に応じて柔軟に、他者・社会とのかかわりのなかで、自分の人生を主体的に創造していく力を身に付け、キャリア教育本来の目標でもある「人間力」や「生きる力」の育成を目指す。						
到達目標	① 自己理解を深めることを通して、社会への関心を深め働くことの意義を知る。 ② 社会で求められているスキルや能力、姿勢について学ぶ（社会人基礎力）。 ③ 卒業後のキャリアを自ら考えることができる。						
授業の進め方	授業担当者による社会人基礎力の養成講座と、外部講師による講義・質疑応答を行う。						
時間外学修学修上の助言	講義を通じて関心を抱いたテーマに関連した文献にあたる等、受講者各自で発展的な学修をすること。						
授 業 計 画	第1回 授業オリエンテーション、キャリアとは何か：学科長講話・オリエンテーション 第2回 社会から求められる資質 第3回 就職活動について：就職活動の実際 第4回 キャリア形成と職業理解Ⅰ：保育者としての資質、社会人としての資質 第5回 キャリア形成と職業理解Ⅱ：幼稚園教諭の仕事内容、現職による仕事のやりがいについての紹介 第6回 一般常識的知識・文章読解力：読む・書く・考える 第7回 キャリア形成と自己理解：自己分析 第8回 社会人としてのマナー：社会人として必要なマナー 第9回 書いて伝える力Ⅰ：自己PR・志望動機の作り方、エントリーシートの書き方 第10回 書いて伝える力Ⅱ：論作文 第11回 円滑なコミュニケーションⅠ：言葉の表現、話し方、伝え方の工夫 第12回 円滑なコミュニケーションⅡ：他者理解を深める、聞き上手になること 第13回 ストレスマネジメント：ストレス評価とリラクゼーション、「生きる力」 第14回 話して伝える力Ⅰ：面接試験の基本 第15回 話して伝える力Ⅱ：面接試験（集団）に向けて 定期試験は実施しない						
評価方法	提出物等（40%）、平常点（60%）平素の受講態度等を加味する。						
教科書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	授業内で適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育原理	講義	2	選択	必修	選択	1年・後期	工 藤 ゆかり
							担当形態：単独
教育の基礎的理解に関する科目		科目に含める必要事項 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
受講する上での注意事項	本授業は、中核的な内容であり他の教科目と全てつながっていることを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授業の目的・概要	乳幼児期は人間形成の基礎を培う上で重要な時期であり、保育に携わる者には人間性と保育の専門性が求められている。また、今日の社会環境、育児環境の変化から保育ニーズへの多様化が進み、保育には質の高い養護と教育の機能を果たすことへの期待が高まっている。個々の子どもが現在をより良く生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培うことができるよう、保育の基本となる保育原理を学ぶ。また、乳幼児期の子どもの発達特性を理解し、遊びや生活を通して成長していくために保育者にはどのような援助が求められているかを学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 我が国の保育の意義と目標について理解する。</li> <li>② 日本や諸外国の保育の歴史や、その底流にある保育思想について理解する。</li> <li>③ 保育の内容と方法、計画について事例などを通して理解する。</li> </ol>						
授業の進め方	授業計画に沿い、視聴覚機器や板書、プリント等を活用し、グループワーク等を取り入れながら進める。						
時間外学修学修上の助言	授業の中で紹介された書籍に目を通したり、興味をもったテーマについて積極的に調べたりし、卒業後に活用できる総合力の向上を目指すようにすること。						
授業計画	第1回 講義のガイダンス 第2回 保育の意義と理念及び目標 第3回 保育基盤としての子ども観 第4回 子ども理解から出発する保育 第5回 子どもが育つ環境の理解 第6回 保育内容・方法の原理1 第7回 保育内容・方法の原理2 第8回 保育の計画と実践の原理 第9回 健康・安全と特別な支援を必要とする子どもへの対応 第10回 欧米の保育の歴史を振り返る 第11回 日本の保育の歴史を振り返る 第12回 保育者に求められる専門性 第13回 在園児の保護者及び地域に対する子育て支援の理念と実際 第14回 保育の評価と苦情対応及び保育者の研修 第15回 保育の現状と課題 定期試験						
評価方法	定期試験（70%）、提出物等平常点（30%）、平素の授業態度等を加味する。						
教科書	つながる保育原理（井上孝之・小原敏郎・三浦主博、みらい）						
参考書 参考資料等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）						
備考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
教育原理	講義	2	選択	必修	必修	2年・前期	西 博 志																																													
							担当形態：クラス分け・単独																																													
教育の基礎的理解に関する科目		科目に含める必要事項																																																		
		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想																																																		
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 教育史及び社会的・制度的・経営的事項を踏まえ、教育の基本姿勢を身に付けること。																																																			
授 業 の 目的・概要	本講義は、保育所、幼稚園、認定こども園の指導者を目指す者に必要な教育学全般の知識を教授し、あわせて教育者に求められる資質を育成することを目的とする。 ① 教育の基本とその意義を学ぶ。 ② 教育が社会に必要な理由について学ぶ。 ③ 教育が人間の成長と発達に果たす役割を学ぶ。 ④ 教育は目的や場面に応じ多様であることを学ぶ。 ⑤ 教員は歴史や社会の変化の中で変容することを学ぶ。																																																			
到達目標	① 教育の基本及び意義を理解する。 ② 社会で教育が果たす役割について理解する。 ③ 人間の成長と発達には教育が必要であることを理解する。 ④ 目的や場面に応じて多様な教育活動が必要であることを理解する。 ⑤ 歴史や社会の変化の中で教育が果たす役割について理解する。																																																			
授業の進め方	各回でテーマを設定し、それに沿って授業を行う。授業中の様々な発問に対して、積極的に発言する等意欲的な取り組みの姿勢を求める。テーマに沿った小レポートを完成させ、授業の内容を身に付ける。																																																			
時間外学修学修上の助言	授業後、各回のテーマについて、各自でより深く考察を重ね、教育者としての意識を高めることが大切である。																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション・教育とは何か</td> <td>教育の基本原則と教育学の諸概念について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>なぜ教育が必要か</td> <td>教育の本質及び目的と意義を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>学校のはじまりと学校制度</td> <td>教育機関としての学校について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>子どもの発達と教育</td> <td>子どもの発達を踏まえた教育的諸課題について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>教師の役割と研修</td> <td>子どもの成長に果たす教師の役割と資質の向上について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>教育課程の編成と学力</td> <td>教育課程の目的と編成及び学力の向上について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>家庭や地域の役割</td> <td>子どもの成長に果たす家庭や地域の役割及び生涯教育について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>教科外の教育活動</td> <td>時代や社会の変化に対応する教育活動について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>日本の学校制度</td> <td>日本の学校制度について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>近代教育制度の成立</td> <td>教育の思想や学校制度の変遷について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>教育思想の変遷①西洋</td> <td>西洋の教育家の思想について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>教育思想の変遷②東洋</td> <td>日本を含めた東洋の教育家の思想について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>子どもの権利</td> <td>子どもの人権を守る世界の動きについて学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>特別支援教育</td> <td>特別支援教育及び障がいについての基礎を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>新しい教育課題について</td> <td>現代社会における教育課題を歴史的視点から学ぶ</td> </tr> </table> 定期試験							第1回	オリエンテーション・教育とは何か	教育の基本原則と教育学の諸概念について学ぶ	第2回	なぜ教育が必要か	教育の本質及び目的と意義を学ぶ	第3回	学校のはじまりと学校制度	教育機関としての学校について学ぶ	第4回	子どもの発達と教育	子どもの発達を踏まえた教育的諸課題について学ぶ	第5回	教師の役割と研修	子どもの成長に果たす教師の役割と資質の向上について学ぶ	第6回	教育課程の編成と学力	教育課程の目的と編成及び学力の向上について学ぶ	第7回	家庭や地域の役割	子どもの成長に果たす家庭や地域の役割及び生涯教育について学ぶ	第8回	教科外の教育活動	時代や社会の変化に対応する教育活動について学ぶ	第9回	日本の学校制度	日本の学校制度について学ぶ	第10回	近代教育制度の成立	教育の思想や学校制度の変遷について学ぶ	第11回	教育思想の変遷①西洋	西洋の教育家の思想について学ぶ	第12回	教育思想の変遷②東洋	日本を含めた東洋の教育家の思想について学ぶ	第13回	子どもの権利	子どもの人権を守る世界の動きについて学ぶ	第14回	特別支援教育	特別支援教育及び障がいについての基礎を学ぶ	第15回	新しい教育課題について	現代社会における教育課題を歴史的視点から学ぶ
第1回	オリエンテーション・教育とは何か	教育の基本原則と教育学の諸概念について学ぶ																																																		
第2回	なぜ教育が必要か	教育の本質及び目的と意義を学ぶ																																																		
第3回	学校のはじまりと学校制度	教育機関としての学校について学ぶ																																																		
第4回	子どもの発達と教育	子どもの発達を踏まえた教育的諸課題について学ぶ																																																		
第5回	教師の役割と研修	子どもの成長に果たす教師の役割と資質の向上について学ぶ																																																		
第6回	教育課程の編成と学力	教育課程の目的と編成及び学力の向上について学ぶ																																																		
第7回	家庭や地域の役割	子どもの成長に果たす家庭や地域の役割及び生涯教育について学ぶ																																																		
第8回	教科外の教育活動	時代や社会の変化に対応する教育活動について学ぶ																																																		
第9回	日本の学校制度	日本の学校制度について学ぶ																																																		
第10回	近代教育制度の成立	教育の思想や学校制度の変遷について学ぶ																																																		
第11回	教育思想の変遷①西洋	西洋の教育家の思想について学ぶ																																																		
第12回	教育思想の変遷②東洋	日本を含めた東洋の教育家の思想について学ぶ																																																		
第13回	子どもの権利	子どもの人権を守る世界の動きについて学ぶ																																																		
第14回	特別支援教育	特別支援教育及び障がいについての基礎を学ぶ																																																		
第15回	新しい教育課題について	現代社会における教育課題を歴史的視点から学ぶ																																																		
評価方法	定期試験（60％） 受講姿勢（関心・意欲・態度）（20％） 小レポート（20％）																																																			
教科書	使用しない。																																																			
参 考 書 参 考 資 料 等	やさしい教育原理（田島一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著 有斐閣） 新しい教育原理 第2版（広岡義之 ミネルヴァ書房） その他の教育原理及び教職概論等、授業中適宜資料を配付する。																																																			
備 考	各自で参考となる書籍を用意することが望ましい。 実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校等における教育に関する実務経験を活かした授業を行う。																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子ども家庭福祉	講義	2	選択	必修	/	1年・後期	磯部 ゆかり
							担当形態：クラス分け・単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>子どもの権利を踏まえ、子どもの福祉とは何かを理解し、子ども、保護者、子育て家庭を支える機関、制度等を学ぶ。</p> <p>① 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷  ② 子どもの人権擁護  ③ 子ども家庭福祉の制度と実施体系  ④ 子ども家庭福祉の現状と課題  ⑤ 子ども家庭福祉の動向と展望</p>						
到達目標	<p>① 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。  ② 子どもの人権擁護について理解する。  ③ 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。  ④ 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。  ⑤ 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</p>						
授業の進め方	<p>テキストを基本に進めていく。  プリントは必要に応じて配付する。  DVD等、映像を通して理解を深める。</p>						
時間外学修学修上の助言	<p>・事前にテキストに目を通しておくこと。  ・新聞やニュース等から、こどもと子どもを持つ家庭の現状や、問題の把握を常に心がけること。</p>						
授 業 計 画	<p>第1回 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷Ⅰ：子ども家庭福祉の理念、概念  第2回 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷Ⅱ：子ども家庭福祉、子どもの人権擁護の歴史の変遷  第3回 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷Ⅲ：現代社会と子ども家庭福祉  第4回 子どもの人権擁護：児童の権利に関する条約と子どもの人権擁護、現代社会の課題  第5回 子ども家庭福祉の制度と実施体系Ⅰ：子ども家庭福祉の制度と法体系  第6回 子ども家庭福祉の制度と実施体系Ⅱ：子ども家庭福祉の実施体系  第7回 子ども家庭福祉の制度と実施体系Ⅲ：児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職  第8回 子ども家庭福祉の現状と課題Ⅰ：少子化と地域子育て支援  第9回 子ども家庭福祉の現状と課題Ⅱ：母子保健と子どもの健全育成  第10回 子ども家庭福祉の現状と課題Ⅲ：多様な保育ニーズへの対応  第11回 子ども家庭福祉の現状と課題Ⅳ：子ども虐待・DVとその防止  第12回 子ども家庭福祉の現状と課題Ⅴ：障がいのある子どもや少年非行等への対応  第13回 子ども家庭福祉の現状と課題Ⅵ：貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応  第14回 子ども家庭福祉の動向と展望Ⅰ：次世代育成支援と子ども家庭福祉推進、地域における連携・協働・ネットワーク  第15回 子ども家庭福祉の動向と展望Ⅱ：子ども家庭福祉の諸外国の動向</p>						
評価方法	定期試験70% 提出課題等30%、(提出物、受講態度等)						
教科書	子ども家庭福祉(喜多一恵監修、みらい) 保育福祉小六法(みらい)						
参考書 参考資料等	子どもと家庭の福祉を学ぶ(松本園子著、ななみ書房) 新保育士養成講座 児童家庭福祉(新保育士養成講座編纂委員会編、全国社会福祉協議会)						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
社会福祉	講義	2	選択	必修	/	1年・前期	遠藤光博
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	我が国を取り巻く社会保障体制、特に少子高齢化対策や子育て支援策、児童虐待等について、その現状や課題についての学修を、新聞等を通じてしておくことが望ましい。特に児童虐待のニュース等には関心を持って、新聞、ニュース等で把握しておくことが望ましい。						
授 業 の 目的・概要	<p>欧米（主に英国）や我が国の社会福祉の変遷や、その社会的背景を学修し、現在の我が国の社会福祉制度を概観する。その上で、高齢者福祉、公的扶助、障がい者福祉、少子化対策について講義を行う。様々な支援の具体的な方法と支援者に必要とされる視点、姿勢もあわせて学修する。</p> <p>少子化対策については、国の施策の動向を学修しながら、将来について学生自身が考える場とする。</p> <p>また、社会福祉援助技術の基礎を学びながら、対人支援者としての姿勢について考える場を持ち、支援を必要とする人たちの権利擁護やノーマライゼーション理念、人権意識の現状についても学ぶ。</p> <p>① 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷  ② 社会福祉の制度と実施体系  ③ 社会福祉における相談援助  ④ 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み  ⑤ 社会福祉の動向と課題</p>						
到 達 目 標	<p>① 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉におけるこども家庭支援の視点について理解する。</p> <p>② 社会福祉の制度や実施体系等について理解する</p> <p>③ 社会福祉における相談援助について理解する</p> <p>④ 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する</p> <p>⑤ 社会福祉の動向と課題について理解する</p>						
授業の進め方	各講義ごとにレジュメを作成配付して授業を進める。事例検討についてはレポート作成を課す。また、支援の実際についてはスライド等の使用もしながら授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	保育も含め、子ども支援は単に「子ども支援」に限らず、親子関係や家族、生活経験や状況に視点を広げると色々な課題が見えてくる。広い視野で対人支援に当たられるよう、広く子どもに関する情報収集を意識して授業に臨んでほしい。						
授 業 計 画	<p>第1回 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷Ⅰ：社会福祉の理念と概要・歴史の変遷</p> <p>第2回 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷Ⅱ：子ども家庭支援と社会福祉</p> <p>第3回 社会福祉の制度と実施体系Ⅰ：社会福祉の制度と法体系</p> <p>第4回 社会福祉の制度と実施体系Ⅱ：社会福祉行財政と実施機関</p> <p>第5回 社会福祉の制度と実施体系Ⅲ：社会福祉施設、社会福祉の専門職</p> <p>第6回 社会福祉の制度と実施体系Ⅳ：社会保障及び関連制度の概要</p> <p>第7回 社会福祉における相談援助Ⅰ：相談援助の理論</p> <p>第8回 社会福祉における相談援助Ⅱ：相談援助の意義と機能</p> <p>第9回 社会福祉における相談援助Ⅲ：相談援助の対象と過程</p> <p>第10回 社会福祉における相談援助Ⅳ：相談援助の方法と技術</p> <p>第11回 社会福祉における利用者保護に関わる仕組みⅠ：情報提供と第三者評価</p> <p>第12回 社会福祉における利用者保護に関わる仕組みⅡ：利用者の権利擁護と苦情解決</p> <p>第13回 社会福祉の動向と課題Ⅰ：少子高齢化社会における子育て支援</p> <p>第14回 社会福祉の動向と課題Ⅱ：共生社会の現実と障がい者施策</p> <p>第15回 社会福祉の動向と課題Ⅲ：在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向</p> <p>定期試験</p>						
評 価 方 法	定期試験（70%）、提出課題（20%）、平素の受講態度（10%）等を加味する。						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	保育・教育ネオシリーズ7 社会福祉（阿部寛編著、同文書院）						
備 考	実務経験のある教員：北海道内の福祉施設における社会福祉に関する実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子ども家庭支援論	講義	2	選択	必修	/	2年・前期	久野 真知子
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>対人援助サービスの仕事に関わる人々には、目の前にいる支援の対象者を尊重する姿勢を持って話に耳を傾け受容すること、専門的な援助関係に基づいて生活上の困りごとを解決していくパートナーとなることが求められる。</p> <p>この授業は、ソーシャルワークを念頭におきながら、講義及び演習により理解を深めることを目的とする。</p> <p>① 子ども家庭支援の意義と役割  ② 保育士による子ども家庭支援の意義と基本  ③ 子育て家庭に対する支援の体制  ④ 多様な支援の展開と関係機関との連携</p>						
到達目標	① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。						
授業の進め方	テキストと板書を基本とする。必要に応じて映像資料を用いたり、プリントを配付する。						
時間外学修学修上の助言	ニュース等で報道される子どもを取り巻く話題に目を向け、問題の実際を知り、どのような支援が必要なのか考えてみる。						
授 業 計 画	第1回 子ども家庭支援の意義と役割Ⅰ : 子ども家庭支援の意義と役割・必要性 第2回 子ども家庭支援の意義と役割Ⅱ : 子ども家庭支援の目的と機能 第3回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅰ : 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 第4回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅱ : 子どもの育ちの喜びの共有 第5回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅲ : 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 第6回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅳ : 保育士に求められる基本的態度 (受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等) 第7回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅴ : 家庭の状況に応じた支援 第8回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅵ : 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 第9回 子育て家庭に対する支援の体制Ⅰ : 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第10回 子育て家庭に対する支援の体制Ⅱ : 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第11回 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ : 子ども家庭支援の内容と対象 第12回 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ : 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第13回 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ : 地域の子育て家庭への支援 第14回 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ : 要保護児童等及びその家庭に対する支援 第15回 多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅴ : 子ども家庭支援に関する現状と課題 定期試験						
評価方法	定期試験70% 平常点30% (出席、提出物、受講態度等を加味する。)						
教科書	子ども家庭支援論 (松村和子編著、建帛社)						
参考書 参考資料等	保育所保育指針 (厚生労働省編、フレーベル館) 幼稚園教育要領 (文部科学省編、フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館)						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
社会的養護Ⅰ	講義	2	選択	必修	/	1年・前期	磯部 ゆかり
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	子どもの権利とは何か。権利擁護のための制度や社会的養護の意義、取り組みを理解する。 ① 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 ② 社会的養護の基本 ③ 社会的養護の制度と実施体系 ④ 社会的養護の対象・形態・専門職 ⑤ 社会的養護の現状と課題						
到達目標	① 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ② 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③ 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ④ 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ⑤ 社会的養護の現状と課題について理解する。						
授業の進め方	テキストを基本に進めていく。 プリントは必要に応じて配付する。 DVD等、映像を通して理解を深める。						
時間外学修学修上の助言	・事前にテキストに目を通しておくこと。 ・新聞やニュース等から、こどもと子どもを持つ家庭の現状や、問題の把握を常に心がけること。						
授 業 計 画	第1回 現代社会における社会的養護の意義、歴史の変遷Ⅰ：社会的養護の理念、概念 第2回 現代社会における社会的養護の意義、歴史の変遷Ⅱ：社会的養護の歴史の変遷 第3回 社会的養護の基本Ⅰ：子どもの人権擁護と社会的養護 第4回 社会的養護の基本Ⅱ：子ども、子育て家庭の現状 第5回 社会的養護の基本Ⅲ：社会的養護の基本原則 第6回 社会的養護の基本Ⅳ：社会的養護における保育士等の倫理、責務 第7回 社会的養護の制度と実施体系Ⅰ：社会的養護の制度、法体系 第8回 社会的養護の制度と実施体系Ⅱ：社会的養護の仕組み、実施体系 第9回 社会的養護の対象・形態・専門職Ⅰ：社会的養護の対象 第10回 社会的養護の対象・形態・専門職Ⅱ：家庭養護と施設養護 第11回 社会的養護の対象・形態・専門職Ⅲ：社会的養護に関わる専門職 第12回 社会的養護の現状と課題Ⅰ：社会的養護に関する社会的状況 第13回 社会的養護の現状と課題Ⅱ：施設等の運営管理 第14回 社会的養護の現状と課題Ⅲ：被措置児童等の虐待防止 第15回 社会的養護の現状と課題Ⅳ：社会的養護と地域福祉 定期試験						
評 価 方 法	定期試験70% 提出課題等30%、(提出物、受講態度等)						
教 科 書	学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会 保育と社会的養護Ⅰ～社会的養護の原理(大竹智 みらい) 保育福祉小六法(みらい)						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守。						



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育者論	講義	2	選択	必修	必修	2年・後期	工 藤 ゆかり
							担当形態：単独
教育の基礎的理解に関する科目		科目に含める必要事項 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育は、一人ひとりの子どもの人生のスタートに寄り添い、子どものよりよい成長発達を促す営みである。近年の子どもを取り巻く環境の変化に伴い、保育施設や保育者に求められる役割は多様化し、高い専門性を求められている。このことから保育者の専門性や仕事内容を学ぶとともに、子どもの育ちを支える自らの成長について自覚を高める。						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育に従事することの意義や保育者の役割・仕事内容について理解し、実践への意欲をもつ。</li> <li>② 保育者として成長することへの自覚をもち、実践への意欲をもつ。</li> <li>③ 内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。</li> </ul>						
授業の進め方	授業計画に沿い、視聴覚機器や板書、プリント等を活用し、グループワーク等を取り入れて進める。						
時間外学修学修上の助言	講義の中で紹介された書籍に目を通したり、提示されたテーマを調べたりし、卒業後に活用できる総合力の向上を目指すようにすること。						
授 業 計 画	第1回 講義のガイダンス 第2回 保育者とは 第3回 保育者と保育の本質 第4回 保育者の役割と倫理 第5回 保育者の歴史 第6回 保育者の資質 第7回 保育者の専門性 第8回 保育者の養成 第9回 保育者の業務 第10回 保育者のマナー 第11回 現代における望ましい保育者像 第12回 保育者の研修・服務 第13回 保育者と環境作り 第14回 保育者の協働 第15回 保育者と法令 定期試験						
評 価 方 法	定期試験（70%）、提出物等平常点（30%）、平素の受講態度等を加味する。						
教 科 書	新版保育者論（谷田貝公昭編著、一藝社）						
参 考 書 等 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
教育・保育心理学	講義	2	選択	必修	必修	1年・前期	新 井 翔
							担当形態：クラス分け・単独
教育の基礎的理解に関する科目		科目に含める必要事項					
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
受講する上での注意事項	保育・幼児教育関係の仕事に限らず乳幼児の心身の発達について基本的概念と視点を理解し、広く活用できるよう、楽しみながら積極的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>① 自分や周りの人間の理解と関係の維持、又は、専門分野の仕事に心理学の知識が参考になると考える。本講義は人間の心と行動を理解しようとして、欧米で発達し展開されてきた学問を紹介することが主な目的である。</p> <p>② 講義は具体的に3つの内容で構成される。(1)心理学の概念・用語(2)心理学の方法(3)心理学者(人と主な概念)を中心にし、授業を聴きながらこれらについてノートを取ることが学修にとって重要である。</p>						
到 達 目 標	<p>① 子ども理解に関する心理学発展の先達の考え及び近年の代表的努力の理解。 1) 約50個の代表的子ども理解に関する心理学の概念・用語の理解と習熟。 2) 子ども理解に貢献した心理学者約10人の代表的な概念についての認識。</p> <p>② 子どもの発達と理解を支援する保育者・教師としての役割と心構えを学習する。</p> <p>③ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、具体的な内容を理解している。</p> <p>④ 主体的学習を支える動機付け・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。</p>						
授業の進め方	講義を①「子ども理解の先達」②「子ども理解の最近の知見」③「子どもの発達と関係の発達」④「子どもの発達・学習を支援する保育者・教師の役割」の4つの単元に分けて、それぞれの単元を3つの主な内容で構成する。授業ノートの提出を求め、学修の重要な単元毎に復習・質問・点検の授業を実施する。						
時間外学修学修上の助言	質問は授業中、授業後随時受け付ける。毎回授業で扱われた専門用語・概念を含んだ講義内容のまとめ(200字程度)を必ず提出すること。						
授 業 計 画	<p>第1回 子ども理解に関する心理学の発展Ⅰ : 子ども理解の先達</p> <p>第2回 子ども理解に関する心理学の発展Ⅱ : 子ども理解の最近の知見</p> <p>第3回 発達を捉える視点Ⅰ : 子どもの発達を理解することの意義</p> <p>第4回 発達を捉える視点Ⅱ : 子どもの発達と環境</p> <p>第5回 発達を捉える視点Ⅲ : 発達理論と子ども観・保育観</p> <p>第6回 乳幼児、児童及び生徒の心身の発達過程Ⅰ : 外的及び内的要因の相互作用、発達の概念及び教育における発達理解の意義</p> <p>第7回 乳幼児、児童及び生徒の心身の発達過程Ⅱ : 身体的機能と運動機能の発達</p> <p>第8回 乳幼児、児童及び生徒の心身の発達過程Ⅲ : 言語機能の発達</p> <p>第9回 乳幼児、児童及び生徒の心身の発達過程Ⅳ : 認知の発達</p> <p>第10回 乳幼児、児童及び生徒の心身の発達過程Ⅴ : 社会情動的発達</p> <p>第11回 乳幼児、児童及び生徒の学習(学び)の過程と保育Ⅰ : 学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論</p> <p>第12回 乳幼児、児童及び生徒の学習(学び)の過程と保育Ⅱ : 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方</p> <p>第13回 乳幼児、児童及び生徒の学習(学び)の過程と保育Ⅲ : 主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方</p> <p>第14回 乳幼児、児童及び生徒の学習(学び)の過程と保育Ⅳ : 保育者と教師の役割</p> <p>第15回 まとめ 定期試験</p>						
評 価 方 法	定期試験(50%)、課題の提出および平常点(50%)						
教 科 書	使用しない。資料を授業時に配付する。						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ(本郷一夫編著、建帛社)</p> <p>発達心理学(福本俊・西村純一編、ナカニシヤ出版)</p> <p>子どもとつくる0歳児保育(松本博雄・第一そだち保育園編著、ひとなる書房)</p>						
備 考	毎回提出物を求める。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子ども家庭支援の心理学	講義	2	選択	必修	/	2年・後期	磯部 ゆかり
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>子育て家庭への支援に関して総合的な力を養うため、ここでは、生涯発達と初期経験の重要性等について理解し、子どもの精神保健とその課題、家庭の意義と機能・子育て家庭を取り巻く社会状況等について学び、子どもの発達や学びの過程、生涯発達など、保育や子育て支援に関する内容を包括的に修得することを目的とする。</p> <p>① 生涯発達 ② 家族・家庭の理解 ③ 子育て家庭に関する現状と課題 ④ 子どもの精神保健とその課題</p>						
到達目標	<p>① 生涯発達に関する心理学の基本的な知識を学ぶとともに、初期体験の重要性、発達課題等について理解する。</p> <p>② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学習する。</p> <p>③ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。</p> <p>④ 子ども精神保健とその課題について理解する。</p>						
授業の進め方	テキストを基本に進めていく。 プリントは必要に応じて配付する。 DVD等映像を通して理解を深める。						
時間外学修学修上の助言	事前にテキストに目を通しておくこと。 常に新聞やニュース等で、こどもとこどもを持つ家庭についての情報を把握するよう心がけること。						
授 業 計 画	<p>第1回 オリエンテーション : 初期体験の重要性と発達課題</p> <p>第2回 生涯発達Ⅰ : 乳児期から学童期にかけての発達</p> <p>第3回 生涯発達Ⅱ : 学童期後期から青年期にかけての発達</p> <p>第4回 生涯発達Ⅲ : 成人期・老年期における発達</p> <p>第5回 家庭・家族の理解Ⅰ : 家庭・家族の意義と機能</p> <p>第6回 家庭・家族の理解Ⅱ : 親子関係・家族関係の理解</p> <p>第7回 家庭・家族の理解Ⅲ : 子育ての経験と親としての育ち</p> <p>第8回 子育て家庭に関する現状と課題Ⅰ : 子育てを取り巻く社会的状況</p> <p>第9回 子育て家庭に関する現状と課題Ⅱ : ライフコースと仕事・子育て</p> <p>第10回 子育て家庭に関する現状と課題Ⅲ : 多様な家庭とその理解</p> <p>第11回 特別なニーズを持つ家庭と援助Ⅰ : 育てにくさ、障害、DV</p> <p>第12回 特別なニーズを持つ家庭と援助Ⅱ : ひとり親、里親、異文化家族</p> <p>第13回 子どもの精神保健とその課題Ⅰ : 乳児期、幼児期、児童期、青年期</p> <p>第14回 子どもの精神保健とその課題Ⅱ : 子どもの心の健康に関わる問題</p> <p>第15回 まとめ 定期試験</p>						
評 価 方 法	定期試験70% 提出課題等30% (提出物、受講態度等)						
教 科 書	子ども家庭支援の心理学 (松本園子他 ななみ書房) 保育福祉小六法 (みらい)						
参 考 書 参 考 資 料 等	子ども家庭支援の心理学～シリーズ知のゆりかご (青木紀久代編 みらい)						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
幼児理解と援助	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	新 井 翔
							担当形態：クラス分け・単独
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		科目に含める必要事項					
		幼児理解の理論及び支援の方法					
受講する上での注意事項	保育・幼児教育関係の仕事に限らず乳幼児の心身の発達について基本的概念と視点を理解し、広く活用できるよう、積極的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>① 幼児理解は、保育・幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。</p> <p>② 講義は具体的に5つの内容で構成される。(1)子どもの発達を支援する方法と実践(2)関係の発達と支援(3)家庭での発達と支援(4)集団での発達と支援(5)非典型的発達と支援 授業を聴きながらこれらについてノートを取ることが学修にとって重要である。</p>						
到 達 目 標	<p>1 幼児理解の意義と原理 ①幼児理解の意義を理解している。②幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解する。③幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。</p> <p>2 幼児理解の方法 ①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。③幼児のつまづきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p>						
授業の進め方	講義を①「子どもの発達を支援する方法と実践」②「関係の発達と支援」③「家庭での発達と支援」④「集団での発達と支援」⑤「気になることもと保育者の支援」の5つの単元に分けて、それぞれの単元を3つの主な内容で構成する。授業ノートの提出を求め、学修の重要な単元毎に復習・質問・点検の授業を実施する。						
時間外学修学修上の助言	質問は授業中、授業後随時受け付ける。毎回授業で扱われた専門用語・概念を含んだ講義内容のまとめ(200字程度)を必ず提出すること。早いうちに復修することをお勧めする。						
授 業 計 画	<p>第1回 子どもの発達を支援する方法と実践Ⅰ : 教育・保育における子どもの理解の意義(子どもの実態に応じた発達や学びの把握)</p> <p>第2回 子どもの発達を支援する方法と実践Ⅱ : 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開(子どもの実態に応じた発達や学びの把握)</p> <p>第3回 子どもの発達を支援する方法と実践Ⅲ : 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり(子どもの実態に応じた発達や学びの把握)</p> <p>第4回 現代家族と発達の支援Ⅰ(子どもを理解する視点): 子どもの生活や遊び</p> <p>第5回 現代家族と発達の支援Ⅱ(子どもを理解する視点): 教育・保育の人的環境としての保育者と子どもの発達</p> <p>第6回 集団での発達と支援Ⅰ(子どもを理解する方法): 子ども相互の関わりと関係づくり</p> <p>第7回 集団での発達と支援Ⅱ(子どもを理解する方法): 集団における経験と育ち</p> <p>第8回 集団での発達と支援Ⅲ(子どもを理解する方法): 葛藤やつまずき</p> <p>第9回 集団での発達と支援Ⅳ(子どもを理解する方法): 教育・保育環境の理解と構成</p> <p>第10回 集団での発達と支援Ⅴ(子どもを理解する方法): 環境の変化や移行</p> <p>第11回 集団での発達と支援Ⅵ(子どもを理解する方法): 観察・記録・省察・評価</p> <p>第12回 集団での発達と支援Ⅶ(子どもを理解する方法): 職員間の対話と保護者との情報共有</p> <p>第13回 非典型的発達と支援Ⅰ(子どもの理解に基づく発達援助): 発達の課題に応じた援助と関わり</p> <p>第14回 非典型的発達と支援Ⅱ(子どもの理解に基づく発達援助): 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</p> <p>第15回 非典型的発達と支援Ⅲ(子どもの理解に基づく発達援助): 発達の連続性と就学への支援</p> <p>定期試験</p>						
評 価 方 法	定期試験(50%)、課題の提出及び平常点(50%)						
教 科 書	使用しない。資料は授業時に配付する。						
参 考 書 参 考 資 料 等	子ども理解と援助(新しい保育講座3)(高嶋景子・砂上史子編著、ミネルヴァ書房) シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ(本郷一夫編著、建帛社)						
備 考	毎回提出物を求める。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子どもの保健	講義	2	選択	必修	/	1年・前期	高塚珠美
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、乳幼児との関わりをイメージしながら受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>保育現場において、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえて行う保健的対応及び集団全体の健康と安全について考える。</p> <p>① 子どもの心身の健康と保健の意義  ② 子どもの身体的発育・発達と保健  ③ 子どもの心身の健康状態とその把握の方法  ④ 子どもの疾病の予防及び適切な対応</p>						
到達目標	<p>① 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。  ② 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。  ③ 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。  ④ 子どもの疾病とその予防法及び他職間の連携・協働の下で適切な対応について理解する。</p>						
授業の進め方	教科書をベースにプリントやパワーポイント資料を用いて授業を進める。グループワーク、ミニ実習を時折取り入れ、知識を実践的に深める。						
時間外学修学修上の助言	わからない用語は調べる。ただし、しっかりしたソースから引用して学修すること。授業で配付する復習プリントで復習をすること。						
授 業 計 画	<p>第1回 子どもの心身の健康と保健の意義Ⅰ：生命の保持と情緒の安定にかかわる保健活動の意義と目的 健康の概念と健康指標</p> <p>第2回 子どもの心身の健康と保健の意義Ⅱ：現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 地域における保健活動と子ども虐待防止策</p> <p>第3回 子どもの身体的発育・発達と保健Ⅰ：身体発育及び運動機能の発達と保健 発育・発達の把握と健康診断</p> <p>第4回 子どもの身体的発育・発達と保健Ⅱ：生理機能の発達と保健</p> <p>第5回 ミニ実習「身体計測の実践」：健康診断を体験する 身長・体重・頭囲・胸囲測定の実践</p> <p>第6回 子どもの心身の健康状態とその把握Ⅰ：子どもの健康状態の把握と対応、よくみられる症状とその対応について</p> <p>第7回 子どもの心身の健康状態とその把握Ⅱ：保護者との情報共有、保育所の家庭との連携</p> <p>第8回 子どもの疾病の予防Ⅰ：感染症とその対応①</p> <p>第9回 子どもの疾病の予防Ⅱ：感染症とその対応②予防接種について</p> <p>第10回 子どもの疾病の予防Ⅲ：実技・GW「感染予防のための手洗い」とそれを「子どもに指導する方法」</p> <p>第11回 子どもの疾病の適切な対応Ⅰ：精神疾患・アレルギー・感覚器</p> <p>第12回 子どもの疾病の適切な対応Ⅱ：主な慢性疾患</p> <p>第13回 子どもの疾病の適切な対応Ⅲ：慢性疾患・障害とその支援制度</p> <p>第14回 子どもの疾病の適切な対応Ⅳ：救急処置について</p> <p>第15回 子どもの安全な環境づくり：事故と疾病を予防・早期発見するために 定期試験</p>						
評価方法	定期試験（60%）、平常点（40%）課題提出物・平素の受講態度等を加味する。						
教科書	子どもの保健—理論と実際—（巷野悟郎著・岩田力・前澤真理子著、同文書院）						
参考書 参考資料等	<p>これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第3版（榎原洋一・小林美由紀著、診断と治療社）</p> <p>こどもの病気の地図帳（鴨下重彦・柳澤正義監修、講談社）</p> <p>子どもの保健・実習（兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著、同文書院）</p> <p>図説 国民衛生の動向 2019/2020（厚生労働統計協会）他、適宜紹介する。</p>						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子どもの食と栄養	演習	2	選択	必修		1年・後期	藤 本 真奈美 担当形態：クラス分け・単独
科目に含める必要事項							
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、保育の現場をイメージしながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基盤であり、小児期の食生活がその後の心と体の健康に大きな影響を及ぼす。この時期の発育・発達は著しく、各段階に応じた健全な成長、発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から学ぶとともに、現代における子どもを取り巻く問題点を把握し、施設での対応、子どもと保護者への支援方法について、また、食育の計画、実践のため、調理の基礎を学び、小児用の調理器具の扱いや指導方法について学ぶことを目的とする。</p> <p>① 子どもの健康と食生活の意義についての講義・演習・実践  ② 栄養に関する基本的知識についての講義・演習・実践  ③ 子どもの発育・発達と食生活についての講義・演習・実践  ④ 食育の基本と内容についての講義・演習・実践  ⑤ 家庭や児童福祉施設における食事と栄養についての講義・演習・実践  ⑥ 特別な配慮を要する子どもの食と栄養についての講義・演習・実践</p>						
到達目標	① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を修得する。 ② 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ③ 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ④ 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ⑤ 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
授業の進め方	授業毎にテーマに沿った講義、その内容についての演習課題への取り組みと実践を行う。 また、絵本やDVD等の視聴覚教材や衛生チェック機器等を用い、より講義内容を深める。						
時間外学修学修上の助言	予習復習に努め、学修のまとめとしてテキストの演習課題を完成させ、卒業後に活用できる総合力の向上を目指すようにすること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション : 子どもの食と栄養の学び 第2回 オリエンテーション : 調理実習の心得や子どもへの指導 第3回 子どもの健康と食生活の意義 : 子どもの心身の健康と食生活・子どもの食生活の現状と課題 第4回 子どもの健康と食生活の意義 : 衛生管理、正しい手洗い方法を学び指導方法を考える 第5回 栄養に関する基本的知識 : 栄養の基本概念と栄養素の種類と機能 第6回 栄養に関する基本的知識 : 実際の食べ物から働きと栄養バランスを考える 第7回 栄養に関する基本的知識 : 食事摂取基準と献立作成・調理の基本 第8回 栄養に関する基本的知識 : 調理の基礎と子ども向け献立の調理から食材の栄養を考える 第9回 子どもの発育・発達と食生活 : 胎児期（妊娠期）～乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 第10回 子どもの発育・発達と食生活 : 胎児期（妊娠期）～乳児期の授乳・離乳期の食事を通して学ぶ 第11回 子どもの発育・発達と食生活 : 乳児期の離乳の意義と食生活 第12回 子どもの発育・発達と食生活 : 離乳食を通して学ぶ 第13回 子どもの発育・発達と食生活 : 幼児期の心身の発達と食生活 第14回 子どもの発育・発達と食生活 : 幼児を対象とした食事を通して学ぶ 第15回 子どもの発育・発達と食生活 : 学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活 第16回 子どもの発育・発達と食生活 : 学童を対象とした食事を通して学ぶ 第17回 食育の基本と内容 : 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方 第18回 食育の基本と内容 : 郷土食を通して学ぶ 第19回 食育の基本と内容 : 食育の内容と計画及び評価、食育のための環境 第20回 食育の基本と内容 : 行事食を通して学ぶ 第21回 食育の基本と内容 : 地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通した保護者への支援 第22回 食育の基本と内容 : 弁当を通して食生活を指導する 第23回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 : 家庭における食事と栄養 第24回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 : 日常の食事を通して食事の役割や栄養を考える 第25回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 : 児童福祉施設における食事と栄養 第26回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 : 間食を通して食事の提供とマナーを学ぶ 第27回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 : 食物アレルギーのある子どもへの対応 第28回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 : 食物アレルギー対応食を学ぶ 第29回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 : 疾病及び体調不良の子ども・障がいのある子どもへの対応 第30回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 : 介護食を通して学ぶ 定期試験						
評価方法	定期試験（50%）、平常点（50%） 筆記試験（知識）、演習課題の取り組み（意欲・態度）、実践（意欲・態度・向上心）等を総合して評価する。						
教科書	オリジナルテキスト						
参 考 書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 新ビジュアル食品成分表（大修館書店）						
備 考	グループワーク、調理実習を行うため、実習に適した服装、必要な持ち物を準備し、時間を厳守すること。 また、提出物の期限を厳守すること。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育・教育課程論	講義	2	選択	必修	必修	1年・前期	西 博 志
							担当形態：単独
教育の基礎的理解に関する科目		科目に含める必要事項 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>保育の場としての保育所（園）、幼稚園や認定こども園は、子どもに適切な環境を用意して、心身ともに健全な発達を促し、保障する役割を担っている。そこでは、子ども一人ひとりの年齢や発達段階にふさわしい活動を用意し、子ども自らが主体的に活動し、人とかかわることができる環境の構成が求められる。しかし、子ども自らの主体的な活動といっても、それぞれの興味や関心に基づき気の向くままに活動するのではなく、保育者の方向性や考え方に沿った活動に子どもを導いていくことが重要である。そこで、内容を時系列に沿って配列した指導の全体計画が必要になる。</p> <p>ここでは、保育所保育指針、幼稚園教育要領や認定こども園教育・保育要領のねらいや内容を活動として計画的・意図的に準備する具体としての指導計画案の作成を通して、保育者としての姿勢や心構えを身に付けていくことを目指している。</p>						
到達目標	<p>① 教育課程の意義や場に応じた教育計画の必要性について理解し、日常の園生活との関連性を捉えることができる。</p> <p>② 保育教育課程と日常の保育活動のかかわりを捉え、保育計画の作成について具体的に理解する。</p> <p>③ 計画・実践・評価・改善の過程についてその全体構造を能動的に捉え、理解する。</p> <p>④ カリキュラムマネジメントの意義や重要性を理解する。</p>						
授業の進め方	保育園、幼稚園や認定こども園の現場との関連を図りながら授業を進めていく。 必要に応じて、資料プリントを配付し、授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	学んだことから、具体的な場面を想定し、現場で活かせるように心がける。						
授 業 計 画	第1回 カリキュラムの基礎理論 第2回 カリキュラムの構造 第3回 カリキュラムの類型 第4回 カリキュラムの法的根拠 第5回 幼稚園、保育所、認定こども園の保育計画 第6回 教育課程編成の要件・手順 第7回 保育計画の種類と内容 第8回 長期の指導計画 第9回 短期の指導計画1 第10回 短期の指導計画2 第11回 保育計画と評価 第12回 幼・保・小との連携カリキュラム 第13回 特別支援教育カリキュラム 第14回 いろいろなカリキュラム 第15回 今後の課題と評価 定期試験は実施しない			カリキュラムの意義と必要性 変遷と特性 編成の前提、基盤、指導計画 役割や機能、形式、比較 教育基本法、学校教育法、教育要領・指針 保育・教育計画の基本、編成、評価 教育課程の基本、編成の手順、進め方 長期、短期の願いと必要性 園生活と長期指導計画、作成の仕方 短期指導計画の意義、作成、活用 「週案」「日案」の作成 様々な評価 保育実践の評価 保育マネジメント 連携に向けての実践 課題 特別支援教育の現状と課題 社会の要請 危機管理 子育て支援 カリキュラムの創造・挑戦 カリキュラム評価			
評価方法	確認テスト・レポート（70％）平常点（30％）						
教科書	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）						
参考書 参考資料等	教育課程・保育課程を学ぶ（松村和子・近藤幹生・椛島香代著、ななみ書房） 保育課程・教育課程論総論（柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編、ミネルヴァ書房）						
備 考	実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校等における教育に関する実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育内容総論	演習	1	選択	必修	必修	2年・前期	中 村 章 子
							担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項						
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）						
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育内容の考え方についての基本を理解する。</li> <li>② 保育内容の歴史の変遷を知り、社会の変化と保育内容はどのように変わってきたのか、また、過去の保育内容と現在のそれがどのように関係しているのかについて理解する。</li> <li>③ 各領域毎の指導・援助を事例毎に学び、配慮・留意すべき点について理解し、総合的な指導・援助に活かす。</li> <li>④ 乳幼児の発達・遊び・生活と保育内容のかかわりについて理解し、幅広い技術を修得する。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容の基本を理解する。</li> <li>② 幼児期の発達段階に関する五領域の目的、ねらいを理解し、保育・教育内容の計画への見通しができる。</li> <li>③ 保育の多様な展開について学び、指導計画の考え方を理解し、保育技術を修得する。</li> </ul>						
授業の進め方	技術力向上のために保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と結び付け、事例から学ぶ。						
時間外学修学修上の助言	予習をして教科の内容を深く理解できるようにすること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育内容の構造 第3回 日本における保育内容の変遷 第4回 保育所・幼稚園の一日の流れと遊びや生活について 第5回 「保育所保育指針」にみる保育内容の捉え方 第6回 「幼稚園教育要領」にみる保育内容 第7回 「五領域」とは何か 第8回 事例で学ぶ「領域」健康と保育内容 第9回 事例で学ぶ「領域」人間関係と保育内容 第10回 事例で学ぶ「領域」環境と保育内容 第11回 事例で学ぶ「領域」言葉と保育内容 第12回 事例で学ぶ「領域」表現と保育内容 第13回 事例で学ぶ「年齢と保育内容」 第14回 保育の内容を深める遊びや文化財 第15回 講義のまとめ 定期試験						
評価方法	定期試験（70%）、平常点（30%）平素の受講態度等を加味する（提出物等）。						
教科書	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	実務経験のある教員：札幌市内の保育所における保育内容に関する実務経験を活かした授業を行う。						



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
健康（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	1年・後期	土橋弘美																																													
							担当形態：クラス分け・単独																																													
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項																																																		
		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）																																																		
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。																																																			
授 業 の 目的・概要	<p>幼児期に「健康的な生活習慣」を確立することは、児童期、青年期へと成長していく基礎を築く大切な時期である。</p> <p>子どもたちが、自ら健康な心と体を育て、健康で安全な生活をつくり出す力を養い身に付けていくために、保育者としてどのようなかわりができるか考察し、実践的な知識と技能の基礎を修得することをねらいとする。</p>																																																			
到達目標	<p>① 教育要領、保育指針、認定こども園教育要領のねらい、内容を理解する。</p> <p>② 健康についての理解を深め、心と体の健康をつくり上げていく生活習慣や遊びの大切さを理解する。</p> <p>③ 安全への配慮を理解し、健康で安全な体の維持を図る方策を理解する。</p> <p>④ 事例を基に、幼稚園教諭、保育士、保育教諭としてどう行動すべきかがわかり、総合的な知識、技能、判断力を修得する。</p>																																																			
授業の進め方	それぞれの場面で具体的な場面を想定し、情報機器の利用を意識した遊びの創造をしていく。講義を通し、指導案の作成・模擬保育を行う。																																																			
時間外学修学修上の助言	座学で学ぶものと同じように、実際の「子ども」から学ぶことが重要である。ボランティア等自ら積極的に「子ども」のいる場所に身を置き、学修においては「教師としてどのように対応するか」をイメージしながらの受講を期待する。																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>健康とは</td> <td>オリエンテーション、健康の意味、健康のねらい</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>健康の内容と留意点</td> <td>幼稚園、保育園、認定こども園での内容</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>子どもの生活実態と健康</td> <td>遊び 食生活 生活リズム 心の問題</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>幼児期の身体の発達</td> <td>発達の原則 形態発達</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>体力・運動能力の発達</td> <td>粗大運動の発達 運動能力 小学校へのつながり</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>幼児期の精神の発達</td> <td>知覚 情緒 パーソナリティー</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>幼児期の生活習慣①</td> <td>食事・睡眠</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>幼児期の生活習慣②</td> <td>排泄・着衣・清潔</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>幼児期の安全能力</td> <td>健康状態の把握 疾患 けが 重大事故への対応</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>安全への配慮事項</td> <td>安全管理 災害に対する安全指導 情報機器の利用</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>運動遊びの具体化</td> <td>多様な動き作り 小学校体育とのつながり</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>指導案の作成</td> <td>運動遊びにかかわる指導案作成</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>模擬保育①</td> <td>運動遊び、安全指導、健康指導 評価</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>模擬保育②</td> <td>運動遊び、安全指導、健康指導 評価</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ 健康維持に向けて</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回	健康とは	オリエンテーション、健康の意味、健康のねらい	第2回	健康の内容と留意点	幼稚園、保育園、認定こども園での内容	第3回	子どもの生活実態と健康	遊び 食生活 生活リズム 心の問題	第4回	幼児期の身体の発達	発達の原則 形態発達	第5回	体力・運動能力の発達	粗大運動の発達 運動能力 小学校へのつながり	第6回	幼児期の精神の発達	知覚 情緒 パーソナリティー	第7回	幼児期の生活習慣①	食事・睡眠	第8回	幼児期の生活習慣②	排泄・着衣・清潔	第9回	幼児期の安全能力	健康状態の把握 疾患 けが 重大事故への対応	第10回	安全への配慮事項	安全管理 災害に対する安全指導 情報機器の利用	第11回	運動遊びの具体化	多様な動き作り 小学校体育とのつながり	第12回	指導案の作成	運動遊びにかかわる指導案作成	第13回	模擬保育①	運動遊び、安全指導、健康指導 評価	第14回	模擬保育②	運動遊び、安全指導、健康指導 評価	第15回	まとめ	まとめ 健康維持に向けて
第1回	健康とは	オリエンテーション、健康の意味、健康のねらい																																																		
第2回	健康の内容と留意点	幼稚園、保育園、認定こども園での内容																																																		
第3回	子どもの生活実態と健康	遊び 食生活 生活リズム 心の問題																																																		
第4回	幼児期の身体の発達	発達の原則 形態発達																																																		
第5回	体力・運動能力の発達	粗大運動の発達 運動能力 小学校へのつながり																																																		
第6回	幼児期の精神の発達	知覚 情緒 パーソナリティー																																																		
第7回	幼児期の生活習慣①	食事・睡眠																																																		
第8回	幼児期の生活習慣②	排泄・着衣・清潔																																																		
第9回	幼児期の安全能力	健康状態の把握 疾患 けが 重大事故への対応																																																		
第10回	安全への配慮事項	安全管理 災害に対する安全指導 情報機器の利用																																																		
第11回	運動遊びの具体化	多様な動き作り 小学校体育とのつながり																																																		
第12回	指導案の作成	運動遊びにかかわる指導案作成																																																		
第13回	模擬保育①	運動遊び、安全指導、健康指導 評価																																																		
第14回	模擬保育②	運動遊び、安全指導、健康指導 評価																																																		
第15回	まとめ	まとめ 健康維持に向けて																																																		
評価方法	確認テスト・レポート（70%）、平常点（30%）																																																			
教科書	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>																																																			
参考書 参考資料等	適宜紹介する。																																																			
備 考	特に記載事項なし。																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																																												
人間関係（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	1年・後期	南部ユンクィアンしず子 山坂真紀 担当形態：クラス分け・オムニバス																																																												
領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）																																																																		
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。																																																																		
授 業 の 目的・概要	<p>現代社会において「人間関係」の希薄さが指摘されている。保育所（園）、幼稚園や認定こども園は、子どもが安心して生活できる場でなければならない。また、子どもが身近な「もの」「ひと」「こと」と出会い、かかわりあいながら学び、成長していく場である。</p> <p>ここでは、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている「人間関係」の内容を吟味しながら保育所（園）、幼稚園や認定こども園が、子どもにとって居心地のよい場所と感じられるための要素を探っていく。</p> <p>更に、実際の場面を想定しながら、子どもとともに生活する保育者のあり方や保育者としての資質に気づき、それを高める機会となることを目標としている。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 時代の変遷を押さえ、良好な人間関係の必要性と、作り上げていくための方策を理解する。</p> <p>② 保育指針・教育要領や認定こども園教育・保育要領の内容を捉え、人間関係を深めていくための模擬実践を行うことができる。</p> <p>③ 事例を基に保育者として、どう行動すべきかを理解し、総合的な知識・技術・判断力を修得する。</p>																																																																		
授業の進め方	<p>講義の中では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を常に意識し、具体的場面を想定していく。</p> <p>また、それぞれの場面で、情報機器の利用を意識しながら、指導案の作成、模擬保育を行っていく。</p>																																																																		
時間外学修学修上の助言	子どもから学ぶ姿勢を常に持ち、ボランティア等に積極的に参加し、「保育者としてどのように対応するか」をイメージしながら受講する。																																																																		
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>人間関係の全体像をつかむ</td> <td>必要性</td> <td>基本的なねらい（担当：南部）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>人間関係の内容と留意点</td> <td>幼稚園、保育所、認定こども園での内容（担当：南部）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>発達から見た人間関係</td> <td>発達特性</td> <td>自我の芽生え 環境とのかかわり（担当：南部）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>一人遊びから集団遊び</td> <td>集団の特性</td> <td>集団の展開 規範意識（担当：山坂）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>環境構成から見た人間関係</td> <td>教材の選び方</td> <td>情報機器の利用の仕方（担当：南部）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>園生活と人とのかかわり</td> <td>依存、生活行動の自立、群れから集団へ（担当：山坂）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保育者としての役割</td> <td>子どもの理解者として、情報機器の利用の工夫（担当：南部）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>小学校以降を意識した人間関係</td> <td>大人とのかかわり</td> <td>地域とのかかわり（担当：南部）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>多様な人とのかかわり</td> <td>特別支援児とのかかわり</td> <td>気になる子どもへの配慮（担当：山坂）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>入園当初の子どもとのかかわり</td> <td>共同で使うものの意識</td> <td>カギとなる言葉（担当：山坂）</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>体験を通した学び</td> <td>行事を通して、規範意識、道徳性の芽生え（担当：山坂）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>指導案の作成</td> <td>経験した保育を基に作成</td> <td>自分の思いを表す（担当：山坂）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>模擬保育 ①</td> <td>興味ひきつけ方、手遊び、用具の使い方（担当：山坂）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>模擬保育 ②</td> <td>子ども同士のかかわり、保育評価（担当：山坂）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>現代社会における課題 定期試験</td> <td>これからの課題</td> <td>評価（チェックリスト）（担当：南部）</td> </tr> </table>							第1回	人間関係の全体像をつかむ	必要性	基本的なねらい（担当：南部）	第2回	人間関係の内容と留意点	幼稚園、保育所、認定こども園での内容（担当：南部）		第3回	発達から見た人間関係	発達特性	自我の芽生え 環境とのかかわり（担当：南部）	第4回	一人遊びから集団遊び	集団の特性	集団の展開 規範意識（担当：山坂）	第5回	環境構成から見た人間関係	教材の選び方	情報機器の利用の仕方（担当：南部）	第6回	園生活と人とのかかわり	依存、生活行動の自立、群れから集団へ（担当：山坂）		第7回	保育者としての役割	子どもの理解者として、情報機器の利用の工夫（担当：南部）		第8回	小学校以降を意識した人間関係	大人とのかかわり	地域とのかかわり（担当：南部）	第9回	多様な人とのかかわり	特別支援児とのかかわり	気になる子どもへの配慮（担当：山坂）	第10回	入園当初の子どもとのかかわり	共同で使うものの意識	カギとなる言葉（担当：山坂）	第11回	体験を通した学び	行事を通して、規範意識、道徳性の芽生え（担当：山坂）		第12回	指導案の作成	経験した保育を基に作成	自分の思いを表す（担当：山坂）	第13回	模擬保育 ①	興味ひきつけ方、手遊び、用具の使い方（担当：山坂）		第14回	模擬保育 ②	子ども同士のかかわり、保育評価（担当：山坂）		第15回	現代社会における課題 定期試験	これからの課題	評価（チェックリスト）（担当：南部）
第1回	人間関係の全体像をつかむ	必要性	基本的なねらい（担当：南部）																																																																
第2回	人間関係の内容と留意点	幼稚園、保育所、認定こども園での内容（担当：南部）																																																																	
第3回	発達から見た人間関係	発達特性	自我の芽生え 環境とのかかわり（担当：南部）																																																																
第4回	一人遊びから集団遊び	集団の特性	集団の展開 規範意識（担当：山坂）																																																																
第5回	環境構成から見た人間関係	教材の選び方	情報機器の利用の仕方（担当：南部）																																																																
第6回	園生活と人とのかかわり	依存、生活行動の自立、群れから集団へ（担当：山坂）																																																																	
第7回	保育者としての役割	子どもの理解者として、情報機器の利用の工夫（担当：南部）																																																																	
第8回	小学校以降を意識した人間関係	大人とのかかわり	地域とのかかわり（担当：南部）																																																																
第9回	多様な人とのかかわり	特別支援児とのかかわり	気になる子どもへの配慮（担当：山坂）																																																																
第10回	入園当初の子どもとのかかわり	共同で使うものの意識	カギとなる言葉（担当：山坂）																																																																
第11回	体験を通した学び	行事を通して、規範意識、道徳性の芽生え（担当：山坂）																																																																	
第12回	指導案の作成	経験した保育を基に作成	自分の思いを表す（担当：山坂）																																																																
第13回	模擬保育 ①	興味ひきつけ方、手遊び、用具の使い方（担当：山坂）																																																																	
第14回	模擬保育 ②	子ども同士のかかわり、保育評価（担当：山坂）																																																																	
第15回	現代社会における課題 定期試験	これからの課題	評価（チェックリスト）（担当：南部）																																																																
評 価 方 法	定期試験（90％）平素点（10％）平素の授業態度を加味する。																																																																		
教 科 書	<p>イラストたっぷりやさしく読み解く幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック          保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）          幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）          幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>																																																																		
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育内容人間関係（徳安敦編著、青踏社）          保育内容人間関係（酒井幸子編著、萌文書林）</p>																																																																		
備 考	特に記載事項なし。																																																																		

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員		
環境（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	西 博 志		
							担当形態：クラス分け・単独		
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項							
		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）							
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。学生には授業内容に応じて事前に必要な用具等を指示する。積極的な製作活動や意見交換等のある授業とする。								
授 業 の 目的・概要	<p>幼児期は、実体験を基礎に自然を五感で理解する時期であり、自然に触れて遊んだ基礎体験があってこそ、自然を大切に思う気持ちが大人になった時に環境を考える原動力につながっていく大切な時期である。自然あそびの楽しさ、不思議さをまずは保育者が体感し、自然の中にある様々な色や質感の違いに気づき、造形表現を豊かにする知識や感性養う援助の仕方を学ぶ。</p> <p>① 子どもたちをとりまく環境について学ぶ。  ② 子どもたちが身近な環境に積極的にかかわるための方策を学ぶ。  ③ 子どもたちが環境を創造する力を育成する方策を学ぶ。  ④ 子どもたちを問題の環境から守るための知識と技術を学ぶ。  ⑤ 子どもたちをとりまく環境をコントロールすることを学ぶ。</p>								
到達目標	<p>身近な環境との関わりに関する領域「環境」のねらいと内容を理解する。</p> <p>① 子どもたちをとりまく環境を理解する。  ② 子どもたちが身近な環境に接していることを理解する。  ③ 子どもたちは成長の過程で環境に様々な働きかけていることを理解する。  ④ 子どもたちが生活する環境を整える知識と技術を身に付ける。  ⑤ 子どもが友だちと熱中して遊ぶ環境構成について理解する。</p>								
授業の進め方	<p>自然素材の種類や特徴を五感で感じ取り、自然の美しさやおもしろさを見つけることに重点を置き、身近にある自然物を使ってどんなあそびや工夫ができるか、用具の使い方、注意すべき点を考えながら授業を進める。</p> <p>回毎に、テーマを設定し考察をする。また、取り扱う素材についての認識を深めるようにする。</p>								
時間外学修学修上の助言	<p>日常の自然の変化に敏感に反応する眼と心を養い、将来の保育の生活の場で子どもたちとどのような方法で共感できるかをイメージできるようにするとともに、日頃から身の回りの事柄に関心をよせ、意識することの必要性について助言する。</p>								
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 1 回 「環境」のねらいと目的①要領・指針  第 2 回 「環境」のねらいと目的②内容・留意点  第 3 回 幼児の発達と環境  第 4 回 自然を活かした活動①季節  第 5 回 自然を活かした活動②動力    第 6 回 模擬保育（光・色彩・表現）  第 7 回 数や数字、量と関わる活動について  第 8 回 いろいろな図形と関わる活動について  第 9 回 お正月等の伝統と生活について  第10回 文字の理解とコミュニケーションについて  第11回 幼保小の連携について  第12回 安全と思いやりの心について  第13回 幼稚園教育における評価について  第14回 指導案の作成について  第15回 幼児教育の現代的課題について  定期試験 </td> <td style="vertical-align: top;"> 教育要領及び指針の基本やねらい、全体構造を学ぶ  幼児が経験し身に付けていく内容と留意点について学ぶ  発達を踏まえた幼児の活動を視野に入れた保育構想の重要性を学ぶ  木の葉等で製作する活動から、環境に好奇心や探究心をもってかかわることを学ぶ  ゴム等で動くおもちゃを製作したり遊ぶことから、環境に好奇心や探究心をもってかかわり、生活に取り入れることを学ぶ  光や色彩等と触れ合う製作や表現をすることの模擬保育の実施  数、数量の感覚を情報機器等を活用して培うことを学ぶ  図形に関する関心や感覚を情報機器等を活用して培うことを学ぶ  行事や伝統に触れ、幼児が身に付けていく内容と留意点を学ぶ  文字あそびを通して、コミュニケーション力を育てることを学ぶ  保育所（園）、幼稚園と小学校以降のつながりについて学ぶ  危険の予見と安全意識、おもいやりの心の育て方を学ぶ  幼稚園教育における評価の考え方について学ぶ  興味や意欲・探究心を引き出す指導案の作成について学ぶ  保育実践の動向と保育構想の向上について学ぶ </td> </tr> </table>							第 1 回 「環境」のねらいと目的①要領・指針 第 2 回 「環境」のねらいと目的②内容・留意点 第 3 回 幼児の発達と環境 第 4 回 自然を活かした活動①季節 第 5 回 自然を活かした活動②動力  第 6 回 模擬保育（光・色彩・表現） 第 7 回 数や数字、量と関わる活動について 第 8 回 いろいろな図形と関わる活動について 第 9 回 お正月等の伝統と生活について 第10回 文字の理解とコミュニケーションについて 第11回 幼保小の連携について 第12回 安全と思いやりの心について 第13回 幼稚園教育における評価について 第14回 指導案の作成について 第15回 幼児教育の現代的課題について 定期試験	教育要領及び指針の基本やねらい、全体構造を学ぶ 幼児が経験し身に付けていく内容と留意点について学ぶ 発達を踏まえた幼児の活動を視野に入れた保育構想の重要性を学ぶ 木の葉等で製作する活動から、環境に好奇心や探究心をもってかかわることを学ぶ ゴム等で動くおもちゃを製作したり遊ぶことから、環境に好奇心や探究心をもってかかわり、生活に取り入れることを学ぶ 光や色彩等と触れ合う製作や表現をすることの模擬保育の実施 数、数量の感覚を情報機器等を活用して培うことを学ぶ 図形に関する関心や感覚を情報機器等を活用して培うことを学ぶ 行事や伝統に触れ、幼児が身に付けていく内容と留意点を学ぶ 文字あそびを通して、コミュニケーション力を育てることを学ぶ 保育所（園）、幼稚園と小学校以降のつながりについて学ぶ 危険の予見と安全意識、おもいやりの心の育て方を学ぶ 幼稚園教育における評価の考え方について学ぶ 興味や意欲・探究心を引き出す指導案の作成について学ぶ 保育実践の動向と保育構想の向上について学ぶ
第 1 回 「環境」のねらいと目的①要領・指針 第 2 回 「環境」のねらいと目的②内容・留意点 第 3 回 幼児の発達と環境 第 4 回 自然を活かした活動①季節 第 5 回 自然を活かした活動②動力  第 6 回 模擬保育（光・色彩・表現） 第 7 回 数や数字、量と関わる活動について 第 8 回 いろいろな図形と関わる活動について 第 9 回 お正月等の伝統と生活について 第10回 文字の理解とコミュニケーションについて 第11回 幼保小の連携について 第12回 安全と思いやりの心について 第13回 幼稚園教育における評価について 第14回 指導案の作成について 第15回 幼児教育の現代的課題について 定期試験	教育要領及び指針の基本やねらい、全体構造を学ぶ 幼児が経験し身に付けていく内容と留意点について学ぶ 発達を踏まえた幼児の活動を視野に入れた保育構想の重要性を学ぶ 木の葉等で製作する活動から、環境に好奇心や探究心をもってかかわることを学ぶ ゴム等で動くおもちゃを製作したり遊ぶことから、環境に好奇心や探究心をもってかかわり、生活に取り入れることを学ぶ 光や色彩等と触れ合う製作や表現をすることの模擬保育の実施 数、数量の感覚を情報機器等を活用して培うことを学ぶ 図形に関する関心や感覚を情報機器等を活用して培うことを学ぶ 行事や伝統に触れ、幼児が身に付けていく内容と留意点を学ぶ 文字あそびを通して、コミュニケーション力を育てることを学ぶ 保育所（園）、幼稚園と小学校以降のつながりについて学ぶ 危険の予見と安全意識、おもいやりの心の育て方を学ぶ 幼稚園教育における評価の考え方について学ぶ 興味や意欲・探究心を引き出す指導案の作成について学ぶ 保育実践の動向と保育構想の向上について学ぶ								
評価方法	定期試験（60%）、平常点（20%）、作品・レポート（20%）								
教科書	使用しない。								
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）、保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 事例で学ぶ保育内容 環境（無藤隆著、萌文書林） はじめての手作りかがくあそび1～3巻（西博志著、アリス館） 授業中適宜資料を配付する。								
備 考	動くおもちゃ等の製作を積極的に行う。 実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校等における理科教育に関する実務経験を活かした授業を行う。								

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
言葉（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	高橋 晶子
							担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）						
受講する上での注意事項	積極的に発言や発表を行い、自己を表現すること。						
授 業 の 目的・概要	人はコミュニケーション能力を備えて生まれ、その後まわりの人々とのやりとりを通して言葉を獲得していく。しかし、近年、電子機器の発達によりことばの貧困現象が起きていると言われている。この授業では、子どもたちの豊かな言葉をはぐむために必要な理論と実践をともに学んでいきたい。						
到達目標	① 言葉とは何か、その機能、役割を知る。 ② 言葉の発達過程を学び、養育者との関係の重要性を理解する。 ③ 事例や実際の映像資料から、保育者の言葉かけや援助を学ぶ。 ④ 言葉遊びや児童文化財の実践。						
授業の進め方	資料はプリントを配付する。						
時間外学修学修上の助言	児童文化財については、常日頃、絵本等に接し、自らの感性を高めてほしい。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 言葉の機能 第3回 言葉以前の発達 第4回 言葉の発達過程Ⅰ（1～3歳の言葉の特徴） 第5回 言葉の発達過程Ⅱ（4～6歳の言葉の特徴） 第6回 言葉の障害Ⅰ（発音の問題） 第7回 言葉の障害Ⅱ（発達の遅れ） 第8回 領域「言葉」のねらいと内容 第9回 発言を促す保育者の言葉かけ（小学校への連携） 第10回 考える力を育む保育者の言葉かけ（小学校への連携） 第11回 児童文化財Ⅰ パネルシアター 児童文化財Ⅱ 絵本 第12回 0～3歳児の発達と絵本 第13回 4・5歳児の発達と絵本（絵本を用いた模擬保育の実践） 第14回 情報機器で教材を作製し、言葉あそびを用いた模擬保育の実践 第15回 児童文化財Ⅲ 紙芝居 まとめ 定期試験						
評 価 方 法	定期試験（60%）、平常点（40%） 平素の受講態度、提出物、発表等を加味する。						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	子どもとことば（岡本夏木著、岩波書店）、絵本論（瀬田貞二著、福音館書店）、改訂子どもと言葉（岡田明編著、萌文書林）、幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領（チャイルド本社）乳児の絵本・保育絵本ガイド（福岡貞子・磯沢淳子編、ミネルヴァ書房）						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
表現（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	今 裕 子 鎌 倉 亮 太
							担当形態：クラス分け・オムニバス
領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）						
受講する上で の注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には、「表現」領域として、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることが目的に掲げられている。子どもは環境とのかかわりの中で抱いた様々な気持ちや気づきを友だちや保育者に伝えようとし、それらを自分なりに表現しようという「意欲」を育んでいく。そして、その中で、様々な体験を通してイメージを豊かにし、表現することの喜びや表現を楽しむ「態度」を培っていく。本授業では、保育者として、以上に掲げられた目的を子どもが達成できるようどのようなかかわりをすべきか、その方法を学ぶことを目的とする。</p>						
到 達 目 標	<p>音楽表現と造形表現の二つの分野の観点から、以下の内容を理解することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。</li> <li>② 以上を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、更には小学校の教科等とのつながりを理解する。</li> <li>③ 保育所、幼稚園教育における評価の考え方を理解する。</li> <li>④ 乳幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育構想の重要性を理解する。</li> <li>⑤ 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行う。またその経験から保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。</li> </ol>						
授業の進め方	15回の授業を「音楽」「造形」の2つの分野に分け、分野ごとに進めていく。						
時間外学修 学修上の助言	2年次後期の開講であることから、学外実習等での学びを振り返っておく。また、図書館や情報機器等を活用して関連のある情報を積極的に収集し、授業の資料とともにファイル等に整理し、実践の場で活用できるようにまとめておくとよい。						
授 業 計 画	<p>第1回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅰ：全体オリエンテーション、即時反応の実践（担当：鎌倉）  第2回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅱ：模倣の実践（担当：鎌倉）  第3回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅲ-1：ソルフェージュの理解（担当：鎌倉）  第4回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅲ-2：ソルフェージュの実践（担当：鎌倉）  第5回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅳ-1：リズム遊びの理解（担当：鎌倉）  第6回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅳ-2：リズム遊びの実践（担当：鎌倉）  第7回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅴ-1：創作の理解（担当：鎌倉）  第8回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅴ-2：創作の実践（担当：鎌倉）  第9回 造形における表現「身近な素材にふれて」Ⅰ-1：こども広場の計画（担当：今）  第10回 造形における表現「身近な素材にふれて」Ⅰ-2：こども広場の作成（情報機器によるプレゼン）（担当：今）  第11回 造形における表現「身近な素材にふれて」Ⅰ-3：こども広場の実践交流（担当：今）  第12回 造形における表現「壁面空間」Ⅱ-1：空間デザインの基本（情報機器の活用）（担当：今）  第13回 造形における表現「壁面空間」Ⅱ-2：こども参加の空間デザイン作成（担当：今）  第14回 造形における表現「行事を豊に」Ⅲ-1：楽しさの演出基本計画（情報機器の活用）（担当：今）  第15回 造形における表現「行事を豊に」Ⅲ-2：楽しさの演出を活かした制作（担当：今）  定期試験は実施しない</p>						
評 価 方 法	それぞれの分野ごとに提出物（50%）、平常点（50%）で評価し、それらを総合して最終評価とする。						
教 科 書	幼児造形の基礎（樋口一成著、萌文書林）						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）  幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）  幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>						
備 考	実技・実践を含む授業となるため、事前に指定された服装、持ち物を準備して受講すること。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
音楽Ⅰ	演習	2	選択	必修	必修	1年・通年	今野くる美・下司 貴大 相本美和子・加藤ゆかり 天明屋優佳・永森 知子 前田奈央子 担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項					
		領域に関する専門的事項（音楽）					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育者（保育士・幼稚園教諭）として必要なピアノ奏法の修得を目的とする科目である。少人数グループで構成され、基本的には個人個人のグレードに応じた個人レッスンの形態で進められる。ピアノという楽器の持つ様々な機能や、指・腕・姿勢等演奏に必要な身体の動き、更には運指や暗譜等を実践しながら学ぶ。また、基本的な楽典の知識にも触れながら、音楽の素晴らしさと技能・技術の重要性を認識することも主眼としている。						
到達目標	① ブルグミュラー 25の練習曲以上のレベルを修得する。 ② 教本の弾き歌い曲の暗譜による演奏ができる。						
授業の進め方	前期の授業内容は、バイエル、ブルグミュラー 25の練習曲、ソナチネ等の教本を中心に個人の進度に合わせたレッスンを行う。前期発表会以降は、教本と併用して「こどものうた」の弾き歌いを学ぶ。						
時間外学修学修上の助言	ピアノの習熟度は就職等の進路に大きな影響を及ぼすこともあり、初心者では毎日1時間の練習が望ましいが、それ以外の学生も、日々の練習を積み重ねて授業に臨んでほしい。						
授 業 計 画	<p>第1回 音楽歴の調査、保育者としてのピアノの意義の説明</p> <p>第2回～第13回 個人のレベルに合った教則本を選定し、毎回学生の能力に合わせて2～3曲の課題曲を宿題として課す。授業では、宿題の曲を題材にして、以下のことを身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ピアノ奏法の基本的技術と知識 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ピアノの技能と基本的奏法について</li> <li>2) 姿勢・腕・指等身体的動き</li> </ol> </li> <li>● 読譜力や基本的楽典の知識 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リズムの読み取りとリズム感</li> <li>2) 強弱・速度等記号の理解と実践</li> <li>3) 基本的な調と鍵盤の位置関係</li> </ol> </li> </ul> <p>第14回 後期から行う弾き歌いの概要説明（弾き歌い表の配付）、夏休みの宿題の掲示</p> <p>第15回 バイエル以上の中から演奏する発表会</p> <p>第16回～第29回 前期発表会の反省を生かし、引き続き教則本の中から課題曲を決定し、宿題として課す。それに加え配付済みの弾き歌い表の中の課題から1～2曲を選曲し、毎回の課題として、併せて宿題に課す。つまり教則本と弾き歌いの両方の題材を扱い、次のことを身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 表現豊かな演奏を目指し、自己の感性を磨く <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 美しいピアノの音やフレーズ感等を感じ取る。</li> <li>2) 表現する力を養う。</li> </ol> </li> <li>● 幼児教育に即した弾き歌いの実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 聞き取りやすい明瞭な声、発音の仕方</li> <li>2) 正確な音程</li> <li>3) 歌とピアノの同時進行</li> </ol> </li> </ul> <p>第30回 ブルグミュラー以上の中から1曲、更に任意の2曲を弾き歌いする発表会 定期試験は実施しない</p>						
評価方法	発表会（90％）提出課題等、平常点（10％）平素の受講態度等を加味する。						
教科書	標準バイエルピアノ教則本（全音楽譜出版社）、ブルグミュラー 25の練習曲（全音楽譜出版社） ソナチネアルバム（全音楽譜出版社）等の中から個人の進度に合わせた教本 こどものうた200（チャイルド本社）、続こどものうた200（チャイルド本社）						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
音楽Ⅱ	演習	1	選択	選択必修	選択	2年・前期	今野くる美・下司 貴大 小黒万里子・加藤ゆかり 中島 郁子・宮越 聡美 担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項					
		領域に関する専門的事項（音楽）					
受講する上での注意事項	ピアノの習熟度は就職等の進路に大きな影響を及ぼすこともあり、音楽Ⅰと同様、日々の練習を積み重ねて授業に臨むこと。						
授業の目的・概要	<p>保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）として必要なピアノ奏法の弾き歌い・伴奏付け等音楽Ⅰをベースにして、継続性を保ち更なるステップアップを目指した科目である。</p> <p>保育園や幼稚園等実践現場での活用を視野に入れ、実践力の養成と獲得を目的としている。それは必然的に、保育実習、教育実習に連なるものであり、就職の採用試験においても大きな力になるものである。</p> <p>小グループで編成され、個々人のグレードに応じた個人レッスンの形態は、音楽Ⅰと同様である。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 個々人のグレードに対応しながら、ピアノ演奏のステップアップを図る。</li> <li>② 個々人のグレードに対応しながら、弾き歌いレパートリーの拡大を図る。</li> <li>③ 専門的な音楽理論（和声の基本）を学び実践力を修得する。</li> <li>④ 伴奏付けや簡単なアレンジの基本と実践力を修得する。</li> </ol>						
授業の進め方	音楽Ⅰでのレッスンに引き続きブルグミュラーやソナチネ等の教本、こどものうたの弾き歌いを併用しながら、個々の進度に合わせたレッスンを行う。						
時間外学修学修上の助言	1年次に履修した音楽Ⅰを基礎に、より実践的な内容となっている。また、実技要素が大変高い科目であるため、授業時間だけではなく、時間外の個人練習が重要である。						
授業計画	<p>第1回～第14回 弾き歌い表A～Dグループの中からの曲のレパートリーを広げるために、毎回個人の能力に応じて、2～3曲の宿題を課す。それと同時に、就職試験対策のために教則本の指導を引き続き、弾き歌いを行う。</p> <p>音楽Ⅱでは、以下のことを身に付けさせることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個々人のグレードに対応しながら <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ピアノ演奏のステップアップ</li> <li>2) 弾き歌いレパートリーの拡大</li> </ol> </li> <li>● より専門的な音楽理論の獲得と実践力 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 和声の基本についての理解と実践力</li> <li>2) 伴奏付けや簡単なアレンジの基本と実践</li> <li>3) 保育現場を意識したピアノの奏法を習得する</li> </ol> </li> </ul> <p>第15回 まとめと発表会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 弾き歌い表のA～Dグループの中から課題曲として3曲、自由曲として1曲を提出し、当日指定された2曲を弾き歌い（暗譜の必要なし）する。</li> <li>② ブルグミュラー、ソナチネ以上の教本より1曲、またはひと楽章を演奏（暗譜の必要なし）する。</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>						
評価方法	発表会（90%）、平常点（10%）平素の受講態度等を加味する。						
教科書	標準バイエルピアノ教則本（全音楽譜出版社）、ブルグミュラー 25の練習曲（全音楽譜出版社）ソナチネアルバム（全音楽譜出版社）等の中から個人の進度に合わせた教本 こどものうた200（チャイルド本社）、続こどものうた200（チャイルド本社）						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
身体表現	演習	1	選択	必修	必修	2年・前期	渡 邊 望
							担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項					
		領域に関する専門的事項（体育）					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 運動のできる服装（ジャージ等）で受講すること。						
授 業 の 目的・概要	子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるため、保育者自身が表現遊びを実際に体験し、楽しさや喜びを自分自身で感じる身体表現の感性を養う。また、子どもの豊かな身体表現を引き出すには、保育者の態度や言葉かけ等により大きく影響されることから子どもが楽しみながらのびのびと表現できる環境の作り方を学ぶ。						
到 達 目 標	① 身体で表現する楽しさを味わい、表情豊かに自己表現できる。 ② 自己の感性を高め、全身を使って創造力豊かに表現できる。 ③ 子どもの豊かな身体表現を引き出すための場の構成を工夫することができる。						
授業の進め方	様々な表現遊びを通じて、自身の表現を高めていく。グループでの活動、発表となるので仲間と創意工夫しながら創り上げることで協調性や主体性を身に付け、積極的な態度を養う。						
時間外学修学修上の助言	思いきり表現できるように、少しずつ自分なりの表現の幅を広げていけるよう、積極的に取り組むこと。						
授 業 計 画	第1回 表現とは何か : ノンバーバルコミュニケーション 第2回 幼児向けリズムダンス1 : リズムに乗って動く 第3回 幼児向けリズムダンス2 : 振り付け素材の動きを使って創作活動 第4回 表現遊び1 : 手遊び・歌あそび・絵本から身体表現遊びへ 第5回 表現遊び2 : 親子で楽しむからだのふれあい遊び 第6回 表現遊び3 : 身近にある素材から身体表現遊びへ 第7回 表現遊び4 : 模倣あそび・4つのくずしで動きに変化をつける 第8回 表現遊び5 : 忍者の修行・ストーリーを組み立てる 第9回 表現遊び6 : オノマトペを使った表現遊び 第10回 ミュージカルに挑戦 : 題材・配役・担当決め 第11回 創作活動1 : ステージを使って練習 第12回 創作活動2 : フォーメーションを工夫する 第13回 ミュージカルの発表 : 発表と振り返り 第14回 リズムダンスの創作 : 保育者としての身体表現 第15回 発表・まとめ : 課題発表・まとめ 定期試験は実施しない						
評 価 方 法	授業内での創作・課題発表（50%）、平素の受講態度（40%）、提出物（10%）						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び（青木理子ほか共著、ぎょうせい）						
備 考	授業開始時刻を厳守すること。						



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
幼児造形Ⅰ	演習	1	選択	必修	必修	1年・前期	今 裕 子																																													
							担当形態：クラス分け・単独																																													
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項																																																		
		領域に関する専門的事項（図画工作）																																																		
受講する上での注意事項	<p>将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。</p> <p>ハサミ・カッター・ホチキス・のり（水溶性）・両面テープ（1cm幅）・セロテープ（1cm幅）は、道具箱にまとめ、毎回持参すること。準備や後片付け等も学習の一つである事を意識できるようにする。</p>																																																			
授 業 の 目的・概要	<p>① 幼児期における造形表現の特徴を理解し、色や形やものを通して子どもとふれ合う保育者としての実践力を培う。</p> <p>② 授業では、材料・用具の基本を理解し、保育環境の創作、及び教材づくりに役立てるようにする。</p> <p>③ 「遊び」を通して子どもの造形感覚を豊かにし、人や事象（もの・こと）のつながりを深められるようなかわり、子どもの表現の支援を実践から学ぶ。</p>																																																			
到 達 目 標	<p>① 造形素材の基本を理解し、実践できる。</p> <p>② 幼児の発育に応じた、適切な支援ができる。</p> <p>③ 幼児の造形活動が楽しいものであるための安全に十分配慮した環境を準備し、制作ができる。</p>																																																			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児造形の基本的な材料・用具の扱いや活かし方を理解し、発達段階に応じた実践ができるようにする。</li> <li>・制作活動と作品の交流を通じた、コミュニケーションを大切にしたい学びの場とする。</li> </ul>																																																			
時間外学修学修上の助言	<p>自らの幼児期を振り返ってみたり、附属幼稚園や身近な子どもたちの遊びに興味・関心を持ちながら子どもの思いに寄り添えるようにする。</p>																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>・幼児期の造形表現の特徴について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>子どもの表現から学ぶ</td> <td>・幼児期の造形表現の特徴を作品から学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>描く～基本①</td> <td>・クレヨンを使って</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>描く～基本②</td> <td>・折り紙を使って</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>描く～基本③</td> <td>・クレヨンと折り紙を使って</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>描く～基本④</td> <td>・水彩絵の具を使って</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>描く～基本⑤</td> <td>・水彩絵の具を使った表現の応用</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>描く～応用①</td> <td>・クレヨンと水彩のコラボレーション</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>描く～応用②</td> <td>・クレヨンと水彩のコラボレーションから表現の広がりを求めて</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>つくってあそぶ①</td> <td>・身近な素材を活用してつくる</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>つくってあそぶ②</td> <td>・身近な素材を活用して遊ぶものをつくる</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>つくってあそぶ③</td> <td>・対話を生む遊びの工夫をしてつくる</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>たのしいおたより制作①</td> <td>・保育がみえるおたよりの制作の基礎</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>たのしいおたより制作②</td> <td>・保育がみえるおたよりの制作</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>作品集の製本と交流</td> <td>・作品集の製本完成と発表交流</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回	オリエンテーション	・幼児期の造形表現の特徴について	第2回	子どもの表現から学ぶ	・幼児期の造形表現の特徴を作品から学ぶ	第3回	描く～基本①	・クレヨンを使って	第4回	描く～基本②	・折り紙を使って	第5回	描く～基本③	・クレヨンと折り紙を使って	第6回	描く～基本④	・水彩絵の具を使って	第7回	描く～基本⑤	・水彩絵の具を使った表現の応用	第8回	描く～応用①	・クレヨンと水彩のコラボレーション	第9回	描く～応用②	・クレヨンと水彩のコラボレーションから表現の広がりを求めて	第10回	つくってあそぶ①	・身近な素材を活用してつくる	第11回	つくってあそぶ②	・身近な素材を活用して遊ぶものをつくる	第12回	つくってあそぶ③	・対話を生む遊びの工夫をしてつくる	第13回	たのしいおたより制作①	・保育がみえるおたよりの制作の基礎	第14回	たのしいおたより制作②	・保育がみえるおたよりの制作	第15回	作品集の製本と交流	・作品集の製本完成と発表交流
第1回	オリエンテーション	・幼児期の造形表現の特徴について																																																		
第2回	子どもの表現から学ぶ	・幼児期の造形表現の特徴を作品から学ぶ																																																		
第3回	描く～基本①	・クレヨンを使って																																																		
第4回	描く～基本②	・折り紙を使って																																																		
第5回	描く～基本③	・クレヨンと折り紙を使って																																																		
第6回	描く～基本④	・水彩絵の具を使って																																																		
第7回	描く～基本⑤	・水彩絵の具を使った表現の応用																																																		
第8回	描く～応用①	・クレヨンと水彩のコラボレーション																																																		
第9回	描く～応用②	・クレヨンと水彩のコラボレーションから表現の広がりを求めて																																																		
第10回	つくってあそぶ①	・身近な素材を活用してつくる																																																		
第11回	つくってあそぶ②	・身近な素材を活用して遊ぶものをつくる																																																		
第12回	つくってあそぶ③	・対話を生む遊びの工夫をしてつくる																																																		
第13回	たのしいおたより制作①	・保育がみえるおたよりの制作の基礎																																																		
第14回	たのしいおたより制作②	・保育がみえるおたよりの制作																																																		
第15回	作品集の製本と交流	・作品集の製本完成と発表交流																																																		
評 価 方 法	<p>作品及び作品制作への意欲関心態度等（80％）平常点（20％）平素の受講態度等を加味する。</p>																																																			
教 科 書	<p>幼児造形の基礎（樋口一成著、萌文書林）2年次にも使用する。</p>																																																			
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>適宜紹介する。</p>																																																			
備 考	<p>提出物の期限厳守。</p> <p>実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校における造形教育に関する実務経験を活かした授業を行う。</p>																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
幼児造形Ⅱ	演習	1	選択	選択必修	必修	1年・後期	今 裕 子
							担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項					
		領域に関する専門的事項（図画工作）					
受講する上での注意事項	ハサミ・カッター・ホチキス・のり（水溶性）・両面テープ（1cm幅）・セロテープ（1cm幅）は、道具箱にまとめ、毎回持参すること。準備や後片付け等も学習の一つである事を意識できるようにする。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	① 教室や廊下等の園内や行事の造形環境について理解と知識を深め、造形表現が子どもに果たす役割の重要性を学ぶ。 ② 材料・用具等の特性を活かし、グループで造形環境を企画制作する。						
到 達 目 標	① 子どもたちにとって明るく楽しい環境づくりを意識して行える。 ② 園の行事等の造形スペースの展示方法を工夫し、適切な素材の選択・活用しながら造形遊びを支援できる。 ③ 幼児の造形活動が楽しいものであるために、安全に十分配慮した環境を準備し制作ができる。						
授業の進め方	よりよい造形環境が創りあげられるように、学生相互の意見交流を大切にする。作品を活用して幼児が楽しめる交流会を行う。						
時間外学修学修上の助言	自らの幼児期を振り返ってみたり、附属幼稚園や身近な子どもたちの遊びに興味・関心を持ちながら子どもの思いに寄り添えるようにする。						
授 業 計 画	第1回 メッセージカード作成① 第2回 メッセージカード作成② 第3回 遠足の指導にも生かせる楽しいリュックサックをつくる 第4回 食指導にも生かせるランチマットをつくる 第5回 イメージをふくらませて① 第6回 イメージをふくらませて② 第7回 つくる 手づくりおもちゃ 第8回 つくる 手づくりおもちゃ 第9回 つくる 作って遊ぶおもちゃ① 第10回 つくる 作って遊ぶおもちゃ② 第11回 つくる 作って遊ぶおもちゃ③ 第12回 季節やイベントに生かせる折のいろいろ 第13回 行事やイベントに生かせる折のいろいろ 第14回 アートカードをつかって① 第15回 アートカードをつかって② 定期試験は実施しない						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヨコの生活</li> <li>・素敵なパフェ</li> <li>・身近な素材を使ってつくる</li> <li>・身近な素材を使ってつって遊ぶ</li> <li>・制作の基本</li> <li>・遊びの工夫</li> <li>・制作の発表交流</li> </ul> 豊かな気付きを感じる アート作品を演じる等身体表現やお話づくり						
評 価 方 法	作品、レポート等（80％） 平常点（20％） 平素の受講態度を加味する。						
教 科 書	幼児造形の基礎（樋口一成著、萌文書林）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守。 実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校における造形教育に関する実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
乳児保育理論	講義	2	選択	必修		2年・前期	中 川 恵 美
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>「ヒト」の始まりを象徴する乳児（赤ちゃん）の成長・発達の基本を理解させた上で、乳児のエデュケーションを学修する。</p> <p>① 乳児保育の意義・目的と役割  ② 乳児保育の現状と課題  ③ 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育  ④ 乳児保育における連携・協働</p>						
到達目標	<p>① 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。  ② 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。  ③ 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。  ④ 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</p>						
授業の進め方	講義、演習を中心とし、必要な資料はプリントで示す。また、映像の視聴や実例を紹介する中で、リアリティーに現場の実情が把握できるように授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	講義を通じて関心を抱いたテーマについて、情報機器や参考図書などの文献を活用し、自分の引き出しを増やす。また、保育実習の他にボランティアやインターンシップなど現場に触れる機会を利用した自主学修をする。						
授 業 計 画	<p>第1回 保育の意義・目的と役割Ⅰ : 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷  第2回 保育の意義・目的と役割Ⅱ : 乳児保育の役割と機能  第3回 保育の意義・目的と役割Ⅲ : 乳児保育における養護及び教育  第4回 乳児保育の現状と課題Ⅰ : 乳児保育及び子育てで家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題  第5回 乳児保育の現状と課題Ⅱ : 保育所における乳児保育  第6回 乳児保育の現状と課題Ⅲ : 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育  第7回 乳児保育の現状と課題Ⅳ : 家庭的保育等における乳児保育  第8回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅰ : 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場  第9回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅱ : 3歳未満児の遊び・生活・環境  第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅲ : 3歳以上児の保育に移行する時期の保育  第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅳ : 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり  第12回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅴ : 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮  第13回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅵ : 乳児保育における計画・記録・評価とその意義  第14回 乳児保育における連携・協働Ⅰ : 保護者、職員間との連携・協働  第15回 乳児保育における連携・協働Ⅱ : 自治体や地域の関係機関等との連携・協働  定期試験</p>						
評 価 方 法	定期試験（70％）提出物・レポート・授業態度（30％）総合して最終評価とする。						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>乳児保育の基本（汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一著、フレーベル館）  乳児保育（CHS子育て文化研究所編、萌文書林）  平成30年施行 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（ミネルヴァ書房）</p>						
備 考	実務経験のある教員：北海道内の保育所、認定こども園における乳児保育に関する実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
乳児保育	演習	2	選択	必修	選択	2年・通年	中 川 恵 美
							担当形態：クラス分け・単独
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	科目に含める必要事項 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）						
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	「ヒト」の始まりを象徴する乳児（赤ちゃん）の成長・発達の基本を理解させた上で、乳児期のエデュケーションを学修する。						
到 達 目 標	① 乳児保育の基本となる「乳児の特徴と育ち」を学ぶ。 ② 乳児保育における保護者支援、保護者や関係機関との連携の必要性を学ぶ。 ③ 乳児保育の専門性におけるPDCAを学ぶ。						
授業の進め方	講義を中心とし、必要な資料はプリントで示す。また、演習、映像を視聴する、実例を紹介することにより、現場の実情が把握できるように授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	講義を通じて関心を抱いたテーマについて、情報機器や参考図書等の文献を活用し自分なりのデータ分析し、保育実習やボランティア等現場を見る機会を利用した自主学修をする。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション・人の誕生 第2回 乳児の基礎的理論①発達の順序 第3回 乳児の基礎的理論②発達速度 第4回 乳児の運動①資質・能力を理解する 第5回 乳児の運動②教育・保育の展開方法を理解する 第6回 乳児の遊び①育みたい能力を理解し指導案を作成する 第7回 遊びを通して成長目標の立て方と評価の方法を理解する 第8回 乳児の遊び②「主体的に遊ぶ」を考慮し教材研究を行う 第9回 乳児の発達と手作りおもちゃ 第10回 乳児の発達と遊びの実践 第11回 乳児の音楽①音を通じて聴力の発達と言葉の発達を理解する 第12回 乳児の音楽②保育室の騒音、保育者の音、声、動きを考える 第13回 乳児の睡眠①睡眠と発達の仕組みを理解する 第14回 乳児の睡眠②睡眠中の危機管理と快眠の秘訣を理解する 第15回 乳児の食事①食の自立までのプロセスを理解し指導案を作成する 第16回 乳児の食事②適した食事介助を身につける 第17回 乳児の生活①基本的生活習慣を理解する 第18回 乳児の生活②自立までのプロセスを理解し指導方法を身につける 第19回 乳児の生活③自立を促す一人一人に合った多様な方法を踏まえ指導計画を作成する 第20回 園生活の一日①多様な実状を理解する 第21回 園生活の一日②1日の保育展開を立案、作成する 第22回 年間カリキュラム、月案、週案、日案、個人カリキュラムのつながりを知る 第23回 子育て支援の内容 第24回 保護者対応と保護者支援を理解し実践する 第25回 乳児をめぐる現代的課題 第26回 乳児の保健と関係機関の連携を理解する 第27回 保育環境の安心・安全・災害の備えを考える 第28回 個別の成長目標と評価 第29回 観察にもとづく記録の書き方 第30回 乳児保育のまとめ 定期試験						
評 価 方 法	定期試験（70％）提出物・レポート等平常点（30％）平素の受講態度など総合して最終評価とする。						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	乳児保育の基本（汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一編著、フレーベル館） 乳児保育（CHS子育て文化研究所編、萌文書林） 平成30年施行 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（ミネルヴァ書房）						
備 考	提出物の期限厳守。 実務経験のある教員：北海道内の保育所、認定こども園における乳児保育に関する実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子どもの健康と安全	演習	1	選択	必修		2年・前期	工 藤 美佐子
							担当形態：クラス分け・単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、規則を守り、積極的に学ぶ意識を持って受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>子どもの健康増進及び心身の発達・発育を促す保健活動や環境について考え、保健活動の計画及び評価について学ぶ。</p> <p>また、子どもの疾病とその予防及び対応、救急時の対応や事故防止・安全管理について具体的に学ぶ。</p> <p>① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助</p> <p>② 保育における健康及び安全管理</p> <p>③ 子どもの体調不良等に対する適切な対応</p> <p>④ 感染症対策</p> <p>⑤ 保育における保健的対応</p> <p>⑥ 健康及び安全管理の実施体制</p>						
到達目標	<p>① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</p> <p>② 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。</p> <p>③ 子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策について具体的に理解する。</p> <p>④ 保育における感染症対策について、具体的に理解する。</p> <p>⑤ 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。</p> <p>⑥ 子どもの健康及び安全管理にかかわる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。</p>						
授業の進め方	教科書と資料のプリントを用い、理論を説明した後、演習を行う。						
時間外学修学修上の助言	講義で学んだ内容を学外実習先で確認する等、各自が学修をより深めることを望む。						
授 業 計 画	<p>第1回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅰ：子どもの健康と保育の環境 ：子どもの保健に関する個別対応と集団全体の安全管理</p> <p>第2回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅱ：子どもの生活習慣と養護（おんぶ・衣服の着脱）</p> <p>第3回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅲ：子どもの生活習慣と養護（オムツ交換）</p> <p>第4回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅳ：身体の清潔（沐浴）</p> <p>第5回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅴ：手洗い・歯みがき・嘔吐処理 保育における健康及び安全管理Ⅰ：衛生管理</p> <p>第6回 保育における健康及び安全管理Ⅱ：事故防止及び安全対策</p> <p>第7回 保育における健康及び安全管理Ⅲ：危機管理・災害への準備</p> <p>第8回 子どもの体調不良に対する適切な対応Ⅰ：体調不良や傷害が発生した場合の対応</p> <p>第9回 子どもの体調不良に対する適切な対応Ⅱ：応急処置</p> <p>第10回 子どもの体調不良に対する適切な対応Ⅲ：救急処置及び救急蘇生法</p> <p>第11回 感染症対策：感染症の集団発生予防・感染症発生時の投薬について</p> <p>第12回 保育における保健的対応Ⅰ：3才未満児への対応（調乳）</p> <p>第13回 保育における保健的対応Ⅱ：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応</p> <p>第14回 保育における保健的対応Ⅲ：障害のある子どもへの対応</p> <p>第15回 健康及び安全管理の実施体制：職員間の連携、保健活動の計画及び評価 母子保健・地域保健と保育、家庭・専門機関・地域との連携</p> <p>定期試験</p>						
評 価 方 法	定期試験60%、平常点40%、課題提出物、平素の受講態度を加味する。						
教 科 書	子どもの保健～健康と安全～（大澤真木子監修、日本小児医事出版社）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員		
特別支援教育・障がい児保育	演習	2	選択	必修	必修	2年・通年	和 田 隆 幸		
							担当形態：クラス分け・単独		
教育の基礎的理解に関する科目		科目に含める必要事項							
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解							
受講する上での注意事項	特別支援教育と障がい児保育の理念や制度（システム）等の基本的事項を理解するとともに、障がいのあるなしにかかわらず幼児、児童生徒一人一人の特別な教育的ニーズに応じた指導及び適切な支援のあり方について理解するよう、積極的かつ主体的に受講すること。								
授 業 の 目的・概要	<p>近年、保育現場では障がいのある子どもをはじめ様々な教育的ニーズのある子どもが多くなり、保育者には子どもの理解と適切な対応が強く求められており、特別支援教育と障がい児保育の理念や制度等を理解するとともに、保育所や幼稚園全体の取り組みとして機能すべきことを学ぶ必要性も大きい。</p> <p>本講では、国際的な障がい観や障がい児にかかわる歴史的変遷、インクルーシブ教育・保育の理念や基本的事項等について理解するとともに、乳幼児の定型発達と障がい特性について理解を図り、その上で障がいや特別な教育的ニーズのある子どもの具体的な保育や支援のあり方、保護者や家族への支援、専門・関係機関との連携、小学校への就学や引き継ぎ等について解説・説明し保育者としての資質の向上を目指す。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 特別支援教育・障がい児保育の歴史的変遷及び理念や意義、基本的な事項等を理解する。</li> <li>② 障がいや気になる子どもを発達の視点から理解し、適切な関わり方や支援の方法を理解する。</li> <li>③ 障がいはないが気になる子どもの特別な教育的ニーズの把握や適切な対応等について理解する。</li> <li>④ 専門・関係機関等との連携や保護者支援、職員間の連携・協働等のあり方について理解する。</li> </ol>								
授業の進め方	プレゼンテーションや視覚資料を活用した講義（座学）で基礎・基本事項を学び、その上で提示課題に応じてグループワーク（協議や作業）やロールプレイ、授業のまとめ・資料作成等に取り組む。								
時間外学修学修上の助言	毎時間、次回の講義項目を伝えるので、参考書籍や資料、インターネット等を活用して予習を行い、不明点や疑問意識を整理して講義に臨むこと。さらに、ボランティアや子育て支援活動等を通じて乳幼児と触れ合う機会を多くもつことを勧める。								
授 業 計 画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第1回 オリエンテーション 障がいの有無にかかわらずすべての子どもが共に学び・育ち合う保育・教育を  第2回 障がい観の変遷及び、障がいの有無にかかわらず子ども個々の発達等に寄り添う保育・教育の現状  第3回 障がい児の保育に関する制度や法律  第4回 特別支援教育と障がい児の就学について  第5回 専門機関や他機関との連携及び個別の支援計画作成  第6回 障がいとは ～問題行動？、定型発達では？～  第7回 定型発達について① 0歳児～2歳児  第8回 定型発達について② 3歳児～6歳児  第9回 障がいの理解と対応・支援① 視覚・聴覚障がい  第10回 障がいの理解と対応・支援② 知的障がい  第11回 障がいの理解と対応・支援③ 肢体不自由  第12回 障がいの理解と対応・支援④ 言語障がい  第13回 障がいの理解と対応・支援⑤ ASD  第14回 障がいの理解と対応・支援⑥ ADHD、LD  第15回 障がいの理解と対応・支援⑦ 病弱、身体虚弱等、医療的ケア児等  前期のまとめ </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第16回 障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握① 行動観察・諸検査など  第17回 障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握② チェックリスト等の活用  第18回 発達障がい児への関わり方の具体的なポイント① 生活リズムや人間関係づくり  第19回 発達障がい児への関わり方の具体的なポイント② コミュニケーションや社会性  第20回 障がい児の保育について① 計画と評価、保育者の連携・協働  第21回 障がい児の保育について② 発達を促す生活や遊びの環境  第22回 障がい児の保育について③ 子ども同士のかかわりを援助  第23回 「日常の保育場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例  第24回 「行事の場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例  第25回 保護者・家族の支援① 障がいの有無にかかわらず当事者心理に寄り添う教育的ニーズの共有化  第26回 保護者・家族の支援② 障がいのない子を含めた専門機関との連携やきょうだい支援など  第27回 保護者・家族の支援③ 教育相談の進め方  第28回 小学校への接続と連携  第29回 障がい児保育の現状と課題① 保健・医療・福祉分野  第30回 障がい児保育の現状と課題② 教育分野  後期のまとめ  定期試験 </td> </tr> </table>							第1回 オリエンテーション 障がいの有無にかかわらずすべての子どもが共に学び・育ち合う保育・教育を 第2回 障がい観の変遷及び、障がいの有無にかかわらず子ども個々の発達等に寄り添う保育・教育の現状 第3回 障がい児の保育に関する制度や法律 第4回 特別支援教育と障がい児の就学について 第5回 専門機関や他機関との連携及び個別の支援計画作成 第6回 障がいとは ～問題行動？、定型発達では？～ 第7回 定型発達について① 0歳児～2歳児 第8回 定型発達について② 3歳児～6歳児 第9回 障がいの理解と対応・支援① 視覚・聴覚障がい 第10回 障がいの理解と対応・支援② 知的障がい 第11回 障がいの理解と対応・支援③ 肢体不自由 第12回 障がいの理解と対応・支援④ 言語障がい 第13回 障がいの理解と対応・支援⑤ ASD 第14回 障がいの理解と対応・支援⑥ ADHD、LD 第15回 障がいの理解と対応・支援⑦ 病弱、身体虚弱等、医療的ケア児等 前期のまとめ	第16回 障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握① 行動観察・諸検査など 第17回 障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握② チェックリスト等の活用 第18回 発達障がい児への関わり方の具体的なポイント① 生活リズムや人間関係づくり 第19回 発達障がい児への関わり方の具体的なポイント② コミュニケーションや社会性 第20回 障がい児の保育について① 計画と評価、保育者の連携・協働 第21回 障がい児の保育について② 発達を促す生活や遊びの環境 第22回 障がい児の保育について③ 子ども同士のかかわりを援助 第23回 「日常の保育場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例 第24回 「行事の場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例 第25回 保護者・家族の支援① 障がいの有無にかかわらず当事者心理に寄り添う教育的ニーズの共有化 第26回 保護者・家族の支援② 障がいのない子を含めた専門機関との連携やきょうだい支援など 第27回 保護者・家族の支援③ 教育相談の進め方 第28回 小学校への接続と連携 第29回 障がい児保育の現状と課題① 保健・医療・福祉分野 第30回 障がい児保育の現状と課題② 教育分野 後期のまとめ 定期試験
第1回 オリエンテーション 障がいの有無にかかわらずすべての子どもが共に学び・育ち合う保育・教育を 第2回 障がい観の変遷及び、障がいの有無にかかわらず子ども個々の発達等に寄り添う保育・教育の現状 第3回 障がい児の保育に関する制度や法律 第4回 特別支援教育と障がい児の就学について 第5回 専門機関や他機関との連携及び個別の支援計画作成 第6回 障がいとは ～問題行動？、定型発達では？～ 第7回 定型発達について① 0歳児～2歳児 第8回 定型発達について② 3歳児～6歳児 第9回 障がいの理解と対応・支援① 視覚・聴覚障がい 第10回 障がいの理解と対応・支援② 知的障がい 第11回 障がいの理解と対応・支援③ 肢体不自由 第12回 障がいの理解と対応・支援④ 言語障がい 第13回 障がいの理解と対応・支援⑤ ASD 第14回 障がいの理解と対応・支援⑥ ADHD、LD 第15回 障がいの理解と対応・支援⑦ 病弱、身体虚弱等、医療的ケア児等 前期のまとめ	第16回 障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握① 行動観察・諸検査など 第17回 障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握② チェックリスト等の活用 第18回 発達障がい児への関わり方の具体的なポイント① 生活リズムや人間関係づくり 第19回 発達障がい児への関わり方の具体的なポイント② コミュニケーションや社会性 第20回 障がい児の保育について① 計画と評価、保育者の連携・協働 第21回 障がい児の保育について② 発達を促す生活や遊びの環境 第22回 障がい児の保育について③ 子ども同士のかかわりを援助 第23回 「日常の保育場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例 第24回 「行事の場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例 第25回 保護者・家族の支援① 障がいの有無にかかわらず当事者心理に寄り添う教育的ニーズの共有化 第26回 保護者・家族の支援② 障がいのない子を含めた専門機関との連携やきょうだい支援など 第27回 保護者・家族の支援③ 教育相談の進め方 第28回 小学校への接続と連携 第29回 障がい児保育の現状と課題① 保健・医療・福祉分野 第30回 障がい児保育の現状と課題② 教育分野 後期のまとめ 定期試験								
評価方法	定期試験60%、提出物（講義前後に課す小レポート等）40%								
教科書	「障害児保育 久保山茂樹・小田豊編著 光生館」その他資料を配付する。資料からの試験出題がある。								
参考書 参考資料等	保育士養成課程 障がい児保育（小田豊監修、光生館、2012年） 実践に生かす 障害児保育・特別支援教育（前田泰弘編著、萌文書林、2019年） 障がい児保育（小橋明子監修、中山書店、2019年）								
備 考	特に記載事項なし。								

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																																
社会的養護Ⅱ	演習	1	選択	必修		1年・後期	斉藤 晋																																																
							担当形態：クラス分け・単独																																																
		科目に含める必要事項																																																					
受講する上での注意事項	<p>保育者になる自覚を持ち、楽しみながら規律を守り、授業中の私語はしないで積極的に学ぶ意識を持って受講すること。</p> <p>演習科目等で授業中に行われるグループワーク等、積極的に参加すること。</p>																																																						
授業の目的・概要	<p>社会福祉施設の中でも子どもや家庭の支援を目的として設置されている施設に児童福祉施設がある。児童福祉施設で取り組まれている養護活動は、児童には家庭に代わる「生活の場」としての養育支援を得るために大切な環境であり、国の責任において実施される「きわめて責任の重い養護活動」である。</p> <p>児童福祉施設で実践されるケアワークは保育士や児童指導員等の支援担当職員を中心に行われており、保育士には児童養護に関する知識や実践が求められる。</p> <p>保育士として必要な「社会的養護内容」の学修を進め、子どもたちの生活を支えるために不可欠である社会的養護の実践について理解を深めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 社会的養護の内容</li> <li>② 社会的養護の実践</li> <li>③ 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価</li> <li>④ 社会的養護に関わる専門技術</li> <li>⑤ 今後の課題と展望</li> </ol>																																																						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>② 施設養護及び家庭養護の実践について理解する。</li> <li>③ 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。</li> <li>④ 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>⑤ 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>																																																						
授業の進め方	<p>授業はプロジェクターを使って行う。授業の中で、理解度を把握するため小テスト、感想等を書かせる。</p> <p>穴埋め式のレジュメを配付し、重要な事柄を学生と一緒に埋めながら進める。</p>																																																						
時間外学修学修上の助言	<p>配付されたレジュメは、ファイリングするなど自己管理をすること。</p> <p>定期試験、小テストに向け、復習をしっかりと行うこと。</p>																																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>社会的養護の内容Ⅰ</td> <td>：社会的養護における子どもの理解</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>社会的養護の内容Ⅱ</td> <td>：日常生活支援</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>社会的養護の内容Ⅲ</td> <td>：治療的支援</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>社会的養護の内容Ⅳ</td> <td>：自立支援</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>社会的養護の実践Ⅰ</td> <td>：施設養護の生活特性及び実際</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>社会的養護の実践Ⅱ</td> <td>：家庭養護の生活特性及び実際</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価Ⅰ</td> <td>：アセスメントと個別支援計画の作成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価Ⅱ</td> <td>：記録及び自己評価</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会的養護に関わる専門技術Ⅰ</td> <td>：保育の専門性に関わる知識</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>社会的養護に関わる専門技術Ⅱ</td> <td>：保育の専門性に関わる技術とその実践</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>社会的養護に関わる専門技術Ⅲ</td> <td>：社会的養護に関わる相談援助の知識</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>社会的養護に関わる専門技術Ⅳ</td> <td>：社会的養護に関わる相談援助の技術とその実践</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>今後の課題と展望Ⅰ</td> <td>：社会的養護における家庭支援</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>今後の課題と展望Ⅱ</td> <td>：社会的養護の課題と展望</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>定期試験</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	社会的養護の内容Ⅰ	：社会的養護における子どもの理解	第2回	社会的養護の内容Ⅱ	：日常生活支援	第3回	社会的養護の内容Ⅲ	：治療的支援	第4回	社会的養護の内容Ⅳ	：自立支援	第5回	社会的養護の実践Ⅰ	：施設養護の生活特性及び実際	第6回	社会的養護の実践Ⅱ	：家庭養護の生活特性及び実際	第7回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価Ⅰ	：アセスメントと個別支援計画の作成	第8回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価Ⅱ	：記録及び自己評価	第9回	社会的養護に関わる専門技術Ⅰ	：保育の専門性に関わる知識	第10回	社会的養護に関わる専門技術Ⅱ	：保育の専門性に関わる技術とその実践	第11回	社会的養護に関わる専門技術Ⅲ	：社会的養護に関わる相談援助の知識	第12回	社会的養護に関わる専門技術Ⅳ	：社会的養護に関わる相談援助の技術とその実践	第13回	今後の課題と展望Ⅰ	：社会的養護における家庭支援	第14回	今後の課題と展望Ⅱ	：社会的養護の課題と展望	第15回	まとめ			定期試験	
第1回	社会的養護の内容Ⅰ	：社会的養護における子どもの理解																																																					
第2回	社会的養護の内容Ⅱ	：日常生活支援																																																					
第3回	社会的養護の内容Ⅲ	：治療的支援																																																					
第4回	社会的養護の内容Ⅳ	：自立支援																																																					
第5回	社会的養護の実践Ⅰ	：施設養護の生活特性及び実際																																																					
第6回	社会的養護の実践Ⅱ	：家庭養護の生活特性及び実際																																																					
第7回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価Ⅰ	：アセスメントと個別支援計画の作成																																																					
第8回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価Ⅱ	：記録及び自己評価																																																					
第9回	社会的養護に関わる専門技術Ⅰ	：保育の専門性に関わる知識																																																					
第10回	社会的養護に関わる専門技術Ⅱ	：保育の専門性に関わる技術とその実践																																																					
第11回	社会的養護に関わる専門技術Ⅲ	：社会的養護に関わる相談援助の知識																																																					
第12回	社会的養護に関わる専門技術Ⅳ	：社会的養護に関わる相談援助の技術とその実践																																																					
第13回	今後の課題と展望Ⅰ	：社会的養護における家庭支援																																																					
第14回	今後の課題と展望Ⅱ	：社会的養護の課題と展望																																																					
第15回	まとめ																																																						
	定期試験																																																						
評価方法	定期試験（50%）、受講態度（30%）、提出物・小テスト（20%）																																																						
教科書	使用しない。																																																						
参考書 参考資料等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>																																																						
備考	実務経験のある教員：北海道内の福祉施設における社会福祉に関する実務経験を活かした授業を行う。																																																						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育相談支援	演習	1	選択	必修	選択	2年・前期	齊藤 晋・榎 宏美 保村 安美
							担当形態：クラス分け・オムニバス
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		科目に含める必要事項					
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的知識を含む。）の理論及び方法					
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	「保育支援」とは、専門性を有する保育者が、安定した親子関係、養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談・助言・支援等を意味する。「保育者の専門性」についての理解を深め、保護者に対する支援の在り方を学ぶことを目的とする。						
到達目標	① 保育相談支援の意義と原則について理解する。 ② 保護者支援の基本を理解する。 ③ 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 ④ 保育所等児童福祉施設における子ども、保護者支援の実際について理解する。						
授業の進め方	事例を中心に授業を進め、演習課題を通して理解、考え方を深めていく。						
時間外学修学修上の助言	保育者自身が支援を行う際のいわば道具であり、技術であることを理解し、日常生活の中で自身の言葉づかい、所作に意識を向けること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション : 保育相談支援とは (担当：榎・保村) 第2回 保育相談支援の意義と目的 (担当：榎・保村) 第3回 保育相談支援の基本Ⅰ : 子どもの最善の利益 (担当：榎・保村) 第4回 保育相談支援の基本Ⅱ : 保護者の養育力の向上と支援 (担当：榎・保村) 第5回 保育相談支援の基本Ⅲ : 信頼関係を築くための姿勢 (担当：榎・保村) 第6回 保育相談支援の基本Ⅳ : 関係機関との連携 (担当：榎・保村) 第7回 保育相談支援の実際Ⅰ : 保護者への保育支援の実際 (担当：榎・保村) 第8回 保育相談支援の実際Ⅱ : 保護者支援の内容 (担当：榎・保村) 第9回 保育相談支援の実際Ⅲ : 保護者支援の方法と技術 (担当：榎・保村) 第10回 保育相談支援の実際Ⅳ : 支援の計画・記録・評価・カンファレンス (担当：榎・保村) 第11回 児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ : 保育所における保育相談支援 (担当：齊藤) 第12回 児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ : 保育所における特別な対応が必要な家庭への支援 (担当：齊藤) 第13回 児童福祉施設における保育相談支援Ⅲ : 要保護児童の家庭に対する支援 (担当：齊藤) 第14回 児童福祉施設における保育相談支援Ⅳ : 障がい児施設における保育相談支援 (担当：齊藤) 第15回 保育者の成長、まとめ : 保育者に求められる保育相談支援 (担当：榎・保村) 定期試験						
評価方法	定期試験（60％）提出課題等、平常点（40％）演習課題・受講態度等を加味する。						
教科書	保育相談支援（大嶋恭二・金子恵美編、建帛社）						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守。 実務経験のある教員：札幌市内の保育所における保育相談に関する実務経験を活かした授業を行う。 実務経験のある教員：北海道内の福祉施設における社会福祉に関する実務経験を活かした授業を行う。						



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1	選択	必修		1年・通年	中村 章子・磯部ゆかり 佐藤由希子・藤本真奈美 下司 貴大・中越亜貴乃 担当形態：オムニバス
科目に含める必要事項							
受講する上での注意事項	将来、保育・福祉分野に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定になる。						
授 業 の 目的・概要	<p>保育実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p> <p>●1年前期～1年後期（15回）：1年次10月の保育実習Ⅰ（保育所）に向けての事前・事後指導を行う。</p>						
到 達 目 標	<p>① 保育実習の意義、目的、内容を理解する。 ② 保育実習の方法を理解する。 ③ 保育実習の心構えを学び、実習課題を明確化する。</p>						
授業の進め方	講義・実技・提出物等を中心に授業を展開する。						
時間外学修学修上の助言	実技を身に付ける。						
授 業 計 画	<p>第1回 実習全般に関するオリエンテーション（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第2回 保育実習の意義（実習の目的、実習の概要）（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第3回 実習の内容と課題の明確化Ⅰ：保育所の1日（担当：中越） 第4回 実習の内容と課題の明確化Ⅱ：発達区分（担当：中越） 第5回 実習の内容と課題の明確化Ⅲ：実習課題の意義と明確化（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第6回 実習の計画と記録（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第7回 実習における観察、記録及び評価（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第8回 実習に際しての留意事項（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第9回 実習生としての心構え（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第10回 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第11回 事後指導における実習の総括と課題の明確化（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第12回 実習の総括と自己評価（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第13回 実習の経験を生かす：事例検討（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第14回 課題の明確化（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 第15回 まとめ（担当：中村・磯部・佐藤・藤本・下司） 定期試験は実施しない</p>						
評 価 方 法	平素の受講態度・実技・実習等を総合評価する。 平常点（30%）授業内提出物等（20%）日誌・報告書提出等（50%）						
教 科 書	事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編、みらい）						
参 考 書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（フレーベル館） 幼稚園教育要領（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1	選択	必修		1年・後期/2年・前期	齊 藤 晋 担当形態：単独
科目に含める必要事項							
受講する上での注意事項	将来、保育・福祉分野に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。						
授 業 の 目的・概要	<p>保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学修内容、課題を明確化するとともに、事前・事後指導を通して、保育所及び施設の総合的な理解・対象児者の理解・保育者としての基礎力を高めていくことが目的である。</p> <p>●1年後期～2年前期（15回）：2年次5月又は7月の保育実習Ⅰ（施設）に向けての事前・事後指導を行う。</p>						
到 達 目 標	<p>① 保育実習の意義、目的、内容を理解する。  ② 保育実習の心構えについて理解する。  ③ 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。  ④ 実習の事前事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p>						
授業の進め方	講義・実技・提出物等を中心に授業を展開する。						
時間外学修学修上の助言	配付されたレジュメは、ファイリングするなど自己管理をすること。 施設実習先の情報を各自で収集すること。						
授 業 計 画	第1回 施設実習の意義Ⅰ : 目的 第2回 施設実習の意義Ⅱ : 概要 第3回 実習の内容と課題の明確化Ⅰ : 児童福祉施設の意義と子どもの権利 第4回 実習の内容と課題の明確化Ⅱ : 児童福祉施設の役割・機能・課題 第5回 実習の内容と課題の明確化Ⅲ : 障がい系施設の対象・現状 第6回 実習の内容と課題の明確化Ⅳ : 障がい系施設における保育士の役割・課題 第7回 実習の内容と課題の明確化Ⅴ : 養護系施設の対象・現状 第8回 実習の内容と課題の明確化Ⅵ : 養護系施設における保育士の役割・課題 第9回 実習に際しての留意事項Ⅰ : 子どもの人権と最善の利益 第10回 実習に際しての留意事項Ⅱ : プライバシーの保護、守秘義務 第11回 実習における計画と記録Ⅰ : 計画と実践 第12回 実習における計画と記録Ⅱ : 観察・記録・評価 第13回 事後指導における実習の総括と課題の明確化Ⅰ : 総括と自己評価 第14回 事後指導における実習の総括と課題の明確化Ⅱ : 施設実習の振り返り 第15回 事後指導における実習の総括と課題の明確化Ⅲ : 事例検討と今後の課題 定期試験は実施しない						
評 価 方 法	平素の受講態度・実技・実習等を総合評価する。 平常点（20%）報告書（20%）実習日誌（20%）各実習施設からの報告書（40%）						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）						
備 考	実務経験のある教員：北海道内の福祉施設における社会福祉に関する実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	選択	必修		1年・後期	保 育 科 教 員
							担当形態：複数
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	<p>保育士資格取得には、保育実習Ⅰ（4単位）と、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。</p> <p>実技（折り紙、ゲーム遊び、制作等）に関する参考書は、各自、参照し実習に備えること。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>保育所の役割や機能を具体的に理解する。観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</p> <p>保育所で日々営まれる保育活動に参加し、生活や遊びを通して、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得する。</p>						
到 達 目 標	<p>① 保育所の内容、機能等を現場での体験を通して理解する。</p> <p>② 既習の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する力を養う。</p> <p>③ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。</p>						
授業の進め方	「保育実習Ⅰ」は、保育所における2週間、保育所以外の施設における2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	<p>保育所実習</p> <p>保育所の役割と機能Ⅰ：保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり</p> <p>保育所の役割と機能Ⅱ：保育所保育指針に基づく保育の展開</p> <p>子どもの理解Ⅰ：子どもの観察とその記録による理解</p> <p>子どもの理解Ⅱ：子どもの発達過程の理解</p> <p>子どもの理解Ⅲ：子どもへの援助や関わり</p> <p>保育内容・保育環境Ⅰ：保育の計画に基づく保育内容</p> <p>保育内容・保育環境Ⅱ：子どもの発達過程に応じた保育内容</p> <p>保育内容・保育環境Ⅲ：子どもの生活や遊びと保育環境</p> <p>保育内容・保育環境Ⅳ：子どもの健康と安全</p> <p>保育の計画・観察・記録Ⅰ：全体的な計画と指導計画及び評価の理解</p> <p>保育の計画・観察・記録Ⅱ：記録に基づく省察・自己評価</p> <p>専門職としての保育士の役割と職業倫理Ⅰ：保育士の業務内容</p> <p>専門職としての保育士の役割と職業倫理Ⅱ：職員間の役割分担や連携・協働</p> <p>専門職としての保育士の役割と職業倫理Ⅲ：保育士の役割と職業倫理</p> <p>まとめ</p>						
評 価 方 法	各実習施設からの評価（100%）						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編著、みらい）</p>						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	選択	必修	/	2年・前期	保 育 科 教 員
							担当形態：複数
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	<p>保育士資格取得には、保育実習Ⅰ（4単位）と、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。実技（折り紙、ゲーム遊び、制作等）に関する参考書は、各自、参照し実習に備えること。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>児童福祉施設で日々営まれる保育活動に参加し、生活や遊びを通して、乳幼児、利用者への理解、児童福祉施設の機能や、そこで働く保育士の職務について学ぶことをねらいとする。 上記ねらいを達成するために、児童福祉施設（保育所以外）における実習行い、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得する。</p>						
到達目標	<p>① 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。 ② 既修の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 ③ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。</p>						
授業の進め方	「保育実習Ⅰ」は、保育所における2週間、保育所以外の施設における2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	<p>福祉施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり、</li> <li>施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもの観察とその記録、</li> <li>個々の状態に応じた援助や関わり</li> </ol> </li> <li>施設における子どもの生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>計画に基づく活動や援助、</li> <li>子どもの心身の状態に応じた生活と対応、</li> <li>子どもの活動と環境、</li> <li>健康管理、安全対策の理解</li> </ol> </li> <li>計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>支援計画の理解と活用、</li> <li>記録に基づく省察、自己評価</li> </ol> </li> <li>専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>保育士の業務内容、</li> <li>職員間の役割分担や連携、</li> <li>保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>						
評 価 方 法	実習施設からの評価（100%）						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編著、みらい）</p>						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
保育実習指導Ⅱ	演習	1	選択	選択必修		2年・前期	中村 章子・磯部ゆかり 佐藤由希子・藤本真奈美 中越亜貴乃																																													
							担当形態：オムニバス																																													
科目に含める必要事項																																																				
受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習指導Ⅱ（1単位）又は保育実習指導Ⅲ（1単位）のいずれかを修得しなければならない科目である。将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。																																																			
授 業 の 目的・概要	<p>1年次の保育実習指導Ⅰを基盤とした2年次に行われる保育実習Ⅱの事前事後指導である。保育実習Ⅰからの成果と課題を受けて、より、質の高い実習を目指し、以下のことを目標としている。</p> <p>実習の意義と目的を再確認しつつ、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科内容とその関連性を踏まえ保育実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>																																																			
到達目標	<p>① 実習への心構え・気構えを準備し、マナーを身に付け、実習を行うことができる。</p> <p>② 実習の課題をしっかりと立てることができる。</p> <p>③ 子どもの発達課題を再学修し、五領域の学びから、指導案・日誌の「ねらい」を立てることができる。</p>																																																			
授業の進め方	実践する中から、学びを深める。 具体的な課題、研究活動、実技を通して、個々の実践力量を高める。																																																			
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>保育実習による総合的な学び</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>・子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</td> <td>(担当：中越)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>・子どもの保育と保護者支援</td> <td>(担当：中越)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育実践力の育成</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>・子どもの状態に応じた適切なかかわり</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>・保育の表現技術を生かした保育実践</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保育計画と実践</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>・保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>・観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>保育者の専門性と職業倫理</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>事後指導における実習の総括と評価</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>・実習の総括と自己評価</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>・課題の明確化</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>自己課題について</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td>(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回	保育実習による総合的な学び	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第2回	・子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	(担当：中越)	第3回	・子どもの保育と保護者支援	(担当：中越)	第4回	保育実践力の育成	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第5回	・子どもの状態に応じた適切なかかわり	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第6回	・保育の表現技術を生かした保育実践	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第7回	保育計画と実践	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第8回	・保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第9回	・観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第10回	保育者の専門性と職業倫理	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第11回	事後指導における実習の総括と評価	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第12回	・実習の総括と自己評価	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第13回	・課題の明確化	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第14回	自己課題について	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)	第15回	まとめ	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)
第1回	保育実習による総合的な学び	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第2回	・子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	(担当：中越)																																																		
第3回	・子どもの保育と保護者支援	(担当：中越)																																																		
第4回	保育実践力の育成	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第5回	・子どもの状態に応じた適切なかかわり	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第6回	・保育の表現技術を生かした保育実践	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第7回	保育計画と実践	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第8回	・保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第9回	・観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第10回	保育者の専門性と職業倫理	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第11回	事後指導における実習の総括と評価	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第12回	・実習の総括と自己評価	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第13回	・課題の明確化	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第14回	自己課題について	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
第15回	まとめ	(担当：中村・磯部・佐藤・藤本)																																																		
評 価 方 法	平素の受講態度・実技・実習等を総合評価する。 平常点（30％）授業内提出物等（20％）日誌・報告書提出等（50％）																																																			
教 科 書	使用しない。																																																			
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編、みらい）</p>																																																			
備 考	提出物の期限厳守。																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習指導Ⅲ	演習	1	選択	選択必修	/	2年・前期	齊 藤 晋
							担当形態：単独
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	<p>保育士資格取得には、保育実習指導Ⅲ（1単位）又は保育実習指導Ⅱ（1単位）のいずれかを修得しなければならない。</p> <p>将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>1年次の保育実習を基盤とした、2年次に行われる保育実習指導Ⅲは事前事後指導である。</p> <p>保育実習Ⅲは児童福祉施設等での実習であり、施設で実習を行う上での心構え、求められる姿勢、施設の専門知識の修得等を目標としている。</p>						
到 達 目 標	<p>① 実習の意義と目的を再確認しつつ、保育について総合的に学ぶ。</p> <p>② 実習や既習の教科内容とその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。</p> <p>③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>④ 保育士の専門性と職業倫理に倫理について理解する。</p> <p>⑤ 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、自己課題を明確にする。</p>						
授業の進め方	<p>授業はプロジェクターを使って行う。施設実習で起こり得る様々な事柄を事例を通し、どのように対応すべきなのか、学生と一緒に考えながら授業を進める。</p>						
時間外学修学修上の助言	<p>配付されたレジュメは、ファイリングする等自己管理をすること。</p> <p>施設実習前に、授業で各児童福祉施設に関する事前学修の指示を受けた内容は、自己学修すること。</p>						
授 業 計 画	<p>第1回 施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ①</p> <p>第2回 施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ②</p> <p>第3回 1度目の施設実習を振り返り2度目の自己課題を明確化する①</p> <p>第4回 1度目の施設実習を振り返り2度目の自己課題を明確化する②</p> <p>第5回 施設実習計画を作成する①</p> <p>第6回 施設実習計画を作成する②</p> <p>第7回 自立支援計画を作成する①</p> <p>第8回 自立支援計画を作成する②</p> <p>第9回 障がい系施設実習場面での様々な対応を考える①</p> <p>第10回 障がい系施設実習場面での様々な対応を考える②</p> <p>第11回 養護系施設実習場面での様々な対応を考える①</p> <p>第12回 養護系施設実習場面での様々な対応を考える②</p> <p>第13回 2度目の施設実習の振り返り自己評価をする</p> <p>第14回 施設実習の振り返り 施設実習での出来事を共有する①</p> <p>第15回 施設実習の振り返り 施設実習での出来事を共有する②</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
評 価 方 法	<p>各実習施設からの実績報告を基に（30%）、実習日誌等（30%）、報告書等（25%）、平常点（15%）</p>						
教 科 書	<p>使用しない。</p>						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>						
備 考	<p>提出物の期限厳守。</p> <p>実務経験のある教員：北海道内の福祉施設における社会福祉に関する実務経験を活かした授業を行う。</p>						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅱ	実習	2	選択	選択必修	/	2年・前期	保育科教員
							担当形態：複数
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	<p>保育士資格取得には、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。</p> <p>実技（折り紙、ゲーム遊び、制作等）に関する参考書は各自参照し、実習に備えること。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。</p> <p>家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p>						
到 達 目 標	<p>① 子どもの個人差、発達の違いに応じた援助の方法を学び、修得する。</p> <p>② 保育の一部分、又は一日の保育を担当する指導計画を立案し、実践する。</p> <p>③ 保育士に必要な資質について理解し、課題を実現させていく具体的方法を考える。</p>						
授業の進め方	「保育実習Ⅱ」は保育所における2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	<p>保育所実習</p> <p>保育所の役割や機能の具体的展開Ⅰ：養護と教育が一体となって行われる保育</p> <p>保育所の役割や機能の具体的展開Ⅱ：保育所の社会的役割と責任</p> <p>観察に基づく保育の理解Ⅰ：子どもの心身の状態や活動の観察</p> <p>観察に基づく保育の理解Ⅱ：保育士等の援助や関わり</p> <p>観察に基づく保育の理解Ⅲ：保育所の生活の流れや展開の把握</p> <p>子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携Ⅰ：環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育</p> <p>子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携Ⅱ：入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援</p> <p>子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携Ⅲ：関係機関や地域社会との連携・協働</p> <p>指導計画の作成・実践・観察・記録・評価Ⅰ：全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</p> <p>指導計画の作成・実践・観察・記録・評価Ⅱ：作成した指導計画に基づく保育実践と評価</p> <p>保育士の業務と職業倫理Ⅰ：多様な保育の展開と保育士の業務</p> <p>保育士の業務と職業倫理Ⅱ：多様な保育の展開と保育士の職業倫理</p> <p>自己の課題の明確化</p>						
評 価 方 法	各実習施設からの評価（100%）						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編著、みらい）</p>						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅲ	実習	2	選択	選択必修		2年・前期	保 育 科 教 員
							担当形態：複数
		科目に含める必要事項					
受講する上での注意事項	<p>保育士資格取得には、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。</p> <p>実技（折り紙、ゲーム遊び、制作等）に関する参考書は各自参照し、実習に備えること。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>保育実習Ⅲは、保育所以外の児童福祉施設等で行う学外実習である。保育士資格の取得を目指す者にとっては、学内で学んだことを実践の場で理解し体得していくための、相互に関連性を有する重要な科目である。</p> <p>多くの先輩が、この学外実習に期待を抱き、それぞれの実習先へ赴き、終了時には専門職としての心構えと技能を持ち帰ってきた。それに倣い、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得させる。</p>						
到達目標	<p>① 施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。</p> <p>② 既修の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。</p> <p>③ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。</p>						
授業の進め方	「保育実習Ⅲ」は保育所以外の児童福祉施設等での2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	<p>福祉施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の機能や役割</li> <li>2. 施設の職員の業務内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の多様な業務と職業倫理</li> </ol> </li> <li>3. 施設の利用者との関わりと支援方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受容と共感</li> <li>(2) ニーズの把握と子ども理解</li> <li>(3) 個別支援（計画書作成と実践）</li> </ol> </li> <li>4. 家庭・地域・関連諸機関との連携の実態 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族への支援と対応</li> <li>(2) 多様な専門職との連携・協働</li> <li>(3) 地域社会との連携</li> </ol> </li> </ol>						
評 価 方 法	各実習施設からの評価（100%）						
教 科 書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編著、みらい）</p>						
備 考	提出物の期限厳守。						



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育・教職実践演習	演習	2	選択	必修	必修	2年・後期	磯部ゆかり・中村 章子 盛合 直人・下司 貴大 佐藤由希子
							担当形態：オムニバス
教育実践に関する科目	科目に含める必要事項						
	教職実践演習						
受講する上での注意事項	将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>本講義開講時期は、机上の講義や実習を踏まえ、保育者像がより現実化し、職業についての期待が膨らむとともに、それに対する不安、自己の課題が見えてきている時期である。そのため保育者養成の最終段階で開講される本科目を通して、これから保育者として生きるための心構えを作ることが期待される。</p> <p>保育の中で起こる様々な課題を乗り越え保育者として成長していくために、保育所（園）、幼稚園等のそれぞれの実践の場で、保育者が直面することや保育者として求められること、問題解決をしていくための糸口等を提供し、学生自身がそれらについて考察することで、保育に積極的に向かう姿勢を身に付けることを目指す。</p>						
到達目標	保育者養成課程の最終段階で、これまで学んだことを振り返るとともに、これからの職場で求められる役割や資質についての情報を得ることにより、職業としての保育者を実践的に意識し、これまで学んできたことや自ら持つ力を保育者としての資質向上につなげていくことを目標とする。						
授業の進め方	学生一人ひとりの自覚と主体的な取り組みによって展開される。そのため、講義、少人数による演習（グループ討議、ロールプレイング）、個別指導等様々な形で、自らの課題に向き合えるような内容を実施する。						
時間外学修学修上の助言	本講義は、2年間の保育の学びの集大成として開講されるものであり、グループ討議、個人研究等、能動的な活動が求められる。						
授 業 計 画	<p>第1回 オリエンテーション : 保育・教職実践演習の意義、目的、内容 (担当：磯部)</p> <p>第2回 学外実習の振り返り : 学外実習の振り返りと履修カルテの記入 (担当：磯部)</p> <p>第3回 実習評価をもとにした個人面談 (担当：磯部)</p> <p>第4回 自己課題の明確化 (担当：磯部)</p> <p>第5回 学外実習から学んだことの交流 (担当：磯部)</p> <p>第6回 学外実習から学んだことのグループ討議、発表 (担当：磯部)</p> <p>第7回 幼稚園教諭の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのグループ討議、発表 (担当：下司)</p> <p>第8回 幼稚園教諭の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのロールプレイング (担当：下司)</p> <p>第9回 保育士の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのグループ討議、発表 (担当：中村)</p> <p>第10回 保育士の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのロールプレイング (担当：中村)</p> <p>第11回 社会性、対人関係能力についてのグループ討議、発表 (担当：磯部)</p> <p>第12回 社会性、対人関係能力についてのロールプレイング (担当：磯部)</p> <p>第13回 幼児理解、学級経営についてのグループ討議、発表 (担当：盛合)</p> <p>第14回 幼児理解、学級経営についてのロールプレイング (担当：盛合)</p> <p>第15回 保育内容等の指導力「音楽分野」についてのグループ討議、発表 (担当：下司)</p> <p>第16回 保育内容等の指導力「音楽分野」についてのロールプレイング (担当：下司)</p> <p>第17回 保育内容等の指導力「社会福祉分野」についてのグループ討議、発表 (担当：磯部)</p> <p>第18回 保育内容等の指導力「社会福祉分野」についてのロールプレイング (担当：磯部)</p> <p>第19回 保育内容等の指導力「保育環境分野」についてのグループ討議、発表 (担当：中村)</p> <p>第20回 保育内容等の指導力「保育環境分野」についてのロールプレイング (担当：中村)</p> <p>第21回 保育内容等の指導力「人間生活分野」についてのグループ討議、発表 (担当：佐藤)</p> <p>第22回 保育内容等の指導力「人間生活分野」についてのロールプレイング (担当：佐藤)</p> <p>第23回 全体会 : 1年生との実習交流会 (担当：佐藤)</p> <p>第24回 事例検討 : 小学校との連携について (担当：盛合)</p> <p>第25回 事例検討 : 生き生きと遊ぶ子どもの生活について (担当：佐藤)</p> <p>第26回 事例検討 : 子どもの思いの理解と保育者の願い (担当：佐藤)</p> <p>第27回 事例検討 : 子ども同士のトラブルのかかわり方 (担当：盛合)</p> <p>第28回 事例検討 : 配慮が必要な子どもに対する援助と連携 (担当：磯部)</p> <p>第29回 個別課題 : 資質能力の確認 (担当：盛合)</p> <p>第30回 個別課題 : まとめ (担当：盛合)</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
評価方法	報告レポート、授業内の課題等を総合的に評価する。(90%) 平常点(10%)平素の授業態度等を加味する。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書 参考資料等	<p>ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習(増田まゆみ・矢藤誠慈郎編著、建帛社)</p> <p>保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力(小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子編著、建帛社)</p> <p>保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 幼稚園保育所編(小櫃智子・矢藤誠慈郎編著、わかば社)</p>						
備 考	特に記載事項なし。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育方法論	講義	2	選択	選択必修	必修	1年・後期	中 村 章 子
							担当形態：単独
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		科目に含める必要事項					
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）					
受講する上での注意事項	将来、教職・児童福祉分野に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>幼児期の特性を踏まえて子どもにとってふさわしい環境とは何かを考え、保育・教育方法の工夫と理解を深めていく。</p> <p>① 子どもの内面及び発達理解と保育方法 ② 保育・教育の展開、指導、援助、形態等の保育・教育方法 ③ 子どもの興味、関心、意欲を引き出す環境づくり</p>						
到達目標	<p>① 教育の目的に適した指導技術を理解し、子どもの生活、遊びを見る目を養う。 ② 子ども達に求められる資質・能力を育成するための指導計画案作成上の観点を理解する。 ③ 保育方法の基本を理解し、情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>						
授業の進め方	保育・教育の方法についての理解を深める。様々な子どもの問題に関心をもち、理解を深める。事例研究を行う。						
時間外学修学修上の助言	各自、授業後に考察し、保育・教育者としての知識を深めていくこと。						
授 業 計 画	<p>第1回 保育・教育方法の基本とは何か 第2回 乳幼児の理解と保育方法：子どもの内面の理解と保育 第3回 乳幼児の理解と保育方法：子どもの発達の理解と保育 第4回 環境による保育とは 第5回 遊びによる総合指導とは：遊びとは何か 第6回 遊びによる総合指導とは：遊びを通しての総合的な指導 第7回 保育における個と集団とは 第8回 子どもにふさわしい園生活と保育者のかかわり 第9回 発達の時期に応じた保育・教育のあり方：入園当初の保育・慣れてきた時期の保育 第10回 発達の時期に応じた保育・教育のあり方：仲間と協力して生活する時期・卒園を前にした時期 第11回 保育の計画と実践 第12回 行事を生かした保育・教育の展開 第13回 保育指導計画と保育指導案について 第14回 情報機器を活用した保育者の成長と保育実践の深まり 第15回 講義のまとめ 定期試験</p>						
評価方法	定期試験（70％）平常点（30％）授業態度等を加味する（提出物等）						
教科書	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p>						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	実務経験のある教員：札幌市内の保育所における保育方法に関する実務経験を活かした授業を行う。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
教育・保育相談	講義	2	選択	選択必修	必修	2年・後期	佐藤 由希子 中越 亜貴乃
							担当形態：クラス分け・オムニバス
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	科目に含める必要事項						
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的知識を含む。）の理論及び方法						
受講する上での注意事項	<p>保育・教育相談を受ける対人援助の役割を担う職に就くことを念頭に置いて、受講態度そのものが学びであることを理解し、人の話を「聴く」という意識を強く持って臨むこと。</p> <p>保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>近年の少子化、男女共同参画社会の時代にあって、保育所（園）、幼稚園に求められるもの、保育者の役割も子どもたちの育ちにかかわることだけでなく、家族関係の悩み等「心の問題」に関した保護者からの相談に応じざるを得ない状況へと変化してきている。</p> <p>保育現場での実際（相談内容）を知り、保育・教育相談に応じる姿勢や考え方を学ぶことを目的とする。</p>						
到達目標	<p>① 保育相談の基本原則、意義と理論について理解する。</p> <p>② カウンセリングの理論及び技法について理解する。</p> <p>③ 保育者としてカウンセリングを行う際の基本的姿勢について理解する。</p> <p>④ 保育現場における保育相談の技法及びその活用の仕方について理解する。</p> <p>⑤ 保育相談における組織的な取組みや連携の必要性を理解する。</p>						
授業の進め方	事例を中心に授業を進め、演習課題を通して理解し、考え方を深めていく。						
時間外学修学修上の助言	「聴く」「話す」ということが相談を受ける際の中心技術となるが、「読む」「書く」ということがその土台となることを理解し、読み取る力、書く力を付ける。						
授 業 計 画	<p>第1回 オリエンテーション (担当：佐藤)</p> <p>第2回 保育・幼児教育とは何か (担当：佐藤)</p> <p>第3回 カウンセリングの理論と技法Ⅰ :「子どもの発達とアセスメント」(担当：佐藤)</p> <p>第4回 カウンセリングの理論と技法Ⅱ :「カウンセリングの基礎理論」(担当：佐藤)</p> <p>第5回 保育相談の基礎 :「傾聴・受容・共感」(担当：佐藤)</p> <p>第6回 保育相談の技法Ⅰ :「言語コミュニケーション」(担当：佐藤)</p> <p>第7回 保育相談の技法Ⅱ :「非言語コミュニケーション」(担当：佐藤)</p> <p>第8回 乳幼児の発達と保育相談 (担当：佐藤)</p> <p>第9回 保護者の理解と対応の仕方Ⅰ :「子育て支援の視点から」(担当：佐藤)</p> <p>第10回 保護者の理解と対応の仕方Ⅱ :「保護者の要望・抗議とどう向き合うか」(担当：佐藤)</p> <p>第11回 気になる子どもとその保護者への対応 (担当：中越)</p> <p>第12回 発達障がいのみられる子どもとその保護者への対応 (担当：中越)</p> <p>第13回 保育所（園）・地域における専門家との連携 (担当：中越)</p> <p>第14回 保育者の専門性と相談活動 (担当：佐藤)</p> <p>第15回 援助者自身のケアとメンタルヘルス (担当：佐藤)</p> <p>定期試験</p>						
評価方法	定期試験（60%）、平常点（40%）演習課題・受講態度等を総合評価する。						
教科書	子どもの理解と保育・教育相談（小田豊・秋田喜代美編、みらい）						
参考書 参考資料等	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>						
備 考	提出物の期限厳守。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
教育・保育社会学	講義	2	選択	選択必修	必修	2年・後期	高 橋 均																																													
							担当形態：単独																																													
教育の基礎的理解に関する科目		科目に含める必要事項																																																		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）																																																		
受講する上での注意事項	<p>将来、子どもの教育・支援に携わる職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。</p> <p>保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を取得すること。</p>																																																			
授 業 の 目的・概要	<p>保育・幼児教育・学校教育という営みは、子どもの育ちに深く関わり、社会生活のあり方を方向付け、社会の存続（維持・再生産）と変容を左右する。それは、私たちが生きるこの社会を創っていく土台となるものでもある。保育者を志す者にとって、保育・幼児教育・学校教育を含めた「教育」という営みの特質や教育制度・行政・経営（危機・安全管理）について深く理解することは、子どものよりよい育ちを支えることはもちろんのこと、よりよい社会を創出するためにも不可欠な課題であるといえよう。</p> <p>本講義では、社会学的な視点から、保育・幼児教育制度から学校教育制度にいたる子どもの育ちに関わる教育システムを取り上げ、その機能・役割について考察する。また、保育・幼児教育・学校教育経営及び行政や子どもの生活に関わる現代的問題を取り上げ、子どもの育ちと教育制度・社会的環境が相互に関連し合うという認識を養い、具体的な課題解決に向けて、自分なりの考察を展開できるようにする。</p>																																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育・保育社会学とは、何をどのような方法で明らかにする学問なのか、また、どのような性格を持つ学問なのかを理解する。</li> <li>② 社会学的な視点から保育・幼児教育・学校教育制度や教育行政について理解し、分析・考察する能力を身に付ける。</li> <li>③ 社会学において用いられる概念や理論について理解を深めつつ、保育・幼児教育・学校教育をめぐる現状や子どもの生活上の課題について分析・考察を展開できる。</li> <li>④ 保育所・幼稚園と地域との連携及び保育所・幼稚園における子どもたちの安全管理について理解を深める。</li> </ol>																																																			
授業の進め方	講義形式が中心となるが、学修内容の確認・定着を図るため、適宜、小レポートやピア・レビューを課す。講義内容理解の手助けとなるよう、各回のテーマに即したプリントを配付する。																																																			
時間外学修学修上の助言	講義を通じて関心を抱いたテーマに関連した文献にあたるなどして、受講者各自で発展的な学修をすること。																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>教育・保育社会学とは何か</td> <td>: 客観的視点と社会学的想像力</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>保育所・幼稚園・学校とは何か</td> <td>: 教育法規・教育改革の動向との関連をふまえて</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>保育所・幼稚園・学校の社会的役割</td> <td>: 公教育学校の経営・PDCAサイクルの意義</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>子ども観・子どもの生活の変化とその社会的背景</td> <td>: メディア環境・情報化社会との関連</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>保育・幼児・学校教育制度と社会Ⅰ</td> <td>: 戦前期の日本における制度の変遷と制度上の課題</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>保育・幼児・学校教育制度と社会Ⅱ</td> <td>: 戦後期の日本における制度の変遷と制度上の課題</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保育所・幼稚園・学校と教育行政</td> <td>: 教育行政の理念とその仕組み</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>子どもの発達と教育</td> <td>: 現代社会の子どもの生活の変容と発達課題</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>子どもの社会化・しつけ</td> <td>: 子どもの生活習慣・生活規律の変容</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>家族・学校・地域社会Ⅰ</td> <td>: 保護者・学校外の関係諸機関の連携</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>家族・学校・地域社会Ⅱ</td> <td>: 地域に開かれた学校づくりと「チームとしての学校」</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>家族の教育戦略と教育格差</td> <td>: ペアレントクランシー化のなかの子育て・教育</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>保育・幼児教育施設・学校における安全危機管理</td> <td>: 自然災害・人災・事故に強い保育所・幼稚園・学校づくり</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>諸外国の保育・幼児教育・学校教育事情</td> <td>: 海外での先進的な取り組みについて学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>グローバル化する社会における保育・幼稚園・学校</td> <td>: 定期試験は実施しない</td> </tr> </table>							第1回	教育・保育社会学とは何か	: 客観的視点と社会学的想像力	第2回	保育所・幼稚園・学校とは何か	: 教育法規・教育改革の動向との関連をふまえて	第3回	保育所・幼稚園・学校の社会的役割	: 公教育学校の経営・PDCAサイクルの意義	第4回	子ども観・子どもの生活の変化とその社会的背景	: メディア環境・情報化社会との関連	第5回	保育・幼児・学校教育制度と社会Ⅰ	: 戦前期の日本における制度の変遷と制度上の課題	第6回	保育・幼児・学校教育制度と社会Ⅱ	: 戦後期の日本における制度の変遷と制度上の課題	第7回	保育所・幼稚園・学校と教育行政	: 教育行政の理念とその仕組み	第8回	子どもの発達と教育	: 現代社会の子どもの生活の変容と発達課題	第9回	子どもの社会化・しつけ	: 子どもの生活習慣・生活規律の変容	第10回	家族・学校・地域社会Ⅰ	: 保護者・学校外の関係諸機関の連携	第11回	家族・学校・地域社会Ⅱ	: 地域に開かれた学校づくりと「チームとしての学校」	第12回	家族の教育戦略と教育格差	: ペアレントクランシー化のなかの子育て・教育	第13回	保育・幼児教育施設・学校における安全危機管理	: 自然災害・人災・事故に強い保育所・幼稚園・学校づくり	第14回	諸外国の保育・幼児教育・学校教育事情	: 海外での先進的な取り組みについて学ぶ	第15回	グローバル化する社会における保育・幼稚園・学校	: 定期試験は実施しない
第1回	教育・保育社会学とは何か	: 客観的視点と社会学的想像力																																																		
第2回	保育所・幼稚園・学校とは何か	: 教育法規・教育改革の動向との関連をふまえて																																																		
第3回	保育所・幼稚園・学校の社会的役割	: 公教育学校の経営・PDCAサイクルの意義																																																		
第4回	子ども観・子どもの生活の変化とその社会的背景	: メディア環境・情報化社会との関連																																																		
第5回	保育・幼児・学校教育制度と社会Ⅰ	: 戦前期の日本における制度の変遷と制度上の課題																																																		
第6回	保育・幼児・学校教育制度と社会Ⅱ	: 戦後期の日本における制度の変遷と制度上の課題																																																		
第7回	保育所・幼稚園・学校と教育行政	: 教育行政の理念とその仕組み																																																		
第8回	子どもの発達と教育	: 現代社会の子どもの生活の変容と発達課題																																																		
第9回	子どもの社会化・しつけ	: 子どもの生活習慣・生活規律の変容																																																		
第10回	家族・学校・地域社会Ⅰ	: 保護者・学校外の関係諸機関の連携																																																		
第11回	家族・学校・地域社会Ⅱ	: 地域に開かれた学校づくりと「チームとしての学校」																																																		
第12回	家族の教育戦略と教育格差	: ペアレントクランシー化のなかの子育て・教育																																																		
第13回	保育・幼児教育施設・学校における安全危機管理	: 自然災害・人災・事故に強い保育所・幼稚園・学校づくり																																																		
第14回	諸外国の保育・幼児教育・学校教育事情	: 海外での先進的な取り組みについて学ぶ																																																		
第15回	グローバル化する社会における保育・幼稚園・学校	: 定期試験は実施しない																																																		
評 価 方 法	期末レポート（50%）、小レポート及びピア・レビュー（40%）、受講態度・発言内容（10%）を総合的に評価する。																																																			
教 科 書	<p>保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館）</p> <p>育児言説の社会学—家族・ジェンダー・再生産（天童睦子編、世界思想社）</p> <p>想像力を拓く教育社会学（高橋均編、東洋館出版社）</p>																																																			
参 考 書 参 考 資 料 等	新版 教育社会学を学ぶ人のために（石戸教嗣編、世界思想社）																																																			
備 考	特に記載事項なし。																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
児童文学	講義	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	久保田 知恵子
							担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項					
		領域に関する専門的事項（国語）					
受講する上での注意事項	<p>将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。</p> <p>保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>絵本を含む児童文学は、やさしい言葉で書かれているが、深い意味をもつ文学である。特に絵本は子どもが人生の最初に出会う文学であり、保育の現場においても重要視されるべき文化財である。</p> <p>本講義では、グリムやアンデルセンの古典から現代までの児童文学を絵本を中心に幅広く取り上げ、その内容について解説していきたい。質の高い、すぐれた絵本にふれ、その深さを実感することで、子どもの育ちを支える絵本の力について、理解を深めてもらうことが本講義の目的である。</p>						
到 達 目 標	<p>① 絵本とは何か。その特性についての理解を深めること。</p> <p>② 絵本を子ども達に読み聞かせることの意味について理解を深めること。</p>						
授業の進め方	<p>講義形式が中心になるが、グループごとに一冊の絵本をじっくりと見てもらい、発見したことや感想などを書いてもらうこともある。</p> <p>定期試験は行わないが、児童文学（絵本を含む）を一冊読み、1200字程度にまとめた感想文を讀書レポートとして提出してもらう。</p>						
時間外学修学修上の助言	<p>授業で紹介する児童文学や絵本を積極的に読んでほしい。図書館を積極的に活用し、多くの絵本に触れてほしい。</p>						
授 業 計 画	<p>第1回 ガイダンス 児童文学、及び絵本とは何か</p> <p>第2回 絵本の歴史 子ども観の変遷と絵本の発展</p> <p>第3回 昔話・童話をもとにした絵本① イソップ、グリム</p> <p>第4回 昔話・童話をもとにした絵本② 様々な昔話絵本</p> <p>第5回 昔話・童話をもとにした絵本③ アンデルセン童話</p> <p>第6回 創作物語絵本の始まり 「ピーターラビットシリーズ」他</p> <p>第7回 創作物語絵本の発展① アメリカ絵本（ワング・ガアグ、マージョリー・フラックなど）</p> <p>第8回 創作物語絵本の発展② アメリカ絵本（バージニア・リー・バートン、マリー・ホール・エッツなど）</p> <p>第9回 創作物語絵本の発展③ アメリカ絵本（モーリス・センダック、レオ・レオニなど）</p> <p>第10回 日本の絵本の歴史 戦後を中心にして</p> <p>第11回 絵本の魅力や力とは何か。子どもの心の豊かな発達と絵本を読み聞かせることの意味について</p> <p>第12回 子どもの心と絵本① 赤ちゃん絵本・オノマトペ絵本</p> <p>第13回 子どもの心と絵本② 物語絵本</p> <p>第14回 子どもの心と絵本③ 物語絵本</p> <p>第15回 絵本と社会 バリアフリー絵本、平和絵本、科学絵本など</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
評 価 方 法	<p>讀書レポート（50%）、平常点（50%）平素の受講態度等を加味する。</p>						
教 科 書	<p>幼稚園・保育園で使いたい 読み聞かせ絵本（北海道えほん研究会・編）他、配付資料を用いる。</p>						
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>授業の中で適宜紹介する。</p>						
備 考	<p>提出物の期限厳守。</p>						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
音楽総合表現	演習	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	宮越 聡美
							担当形態：クラス分け・単独
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項					
		領域に関する専門的事項（音楽）					
受講する上での注意事項	<p>保育者になる自覚を持ち、楽しみながらも規律を守り、積極的に学ぶ意識を持って受講すること。            保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。</p>						
授業の目的・概要	<p>豊かな音楽表現のためには、幅広い音楽の素養が必要である。これまでに身に付けてきた演奏技術や伴奏法をより確かなものとするために、基礎的な音楽理論やソルフェージュを学ぶ。また、さまざまな音楽に触れ、背景を知ることによって保育者としての音楽的教養を身に付ける。</p> <p>音楽表現の楽しさを子どもに伝えるには、保育者自身がそれを身をもって体験し、その楽しさや魅力を実感することが重要である。わらべうたや唱歌等の子どもの歌を修得し、子どもの遊びに即した歌遊び、リズム遊びとその発展例を実践することで、音楽の楽しさを実感する。さらに、平易な素材から簡単な編曲も取り入れ、幅広い音楽表現のあり方を考えていく。</p>						
到達目標	<p>① 基礎的な音楽理論を理解し、コードネームによる伴奏ができる。            ② わらべうた、唱歌等の子どもの歌を修得し、歌あそびやリズムあそび等、音楽を使った遊びのレパートリーを広げる。            ③ 基本的なリズム演奏から応用としてのリズムアンサンブルを学ぶ。また、リズム楽器を使用した簡易的な編曲と、それを生かした合奏指導を実践する。</p>						
授業の進め方	<p>必要に応じプリントを配付しながら進めていく。            第9回までは授業を前半と後半に分け、前半で理論を、後半ではリズムに関することを実践しながら学んでいく。第10回からはリトミックを体験しながら学んでいく。</p>						
時間外学修学修上の助言	<p>個人又はグループによる実技の実践と発表を毎時間行うので、積極的に授業に参加し、各自での練習・復習を怠らないこと。</p>						
授業計画	<p>理論的内容とその実践</p> <p>第1回 オリエンテーション・楽典            第2回 伴奏法① コードの基礎知識            第3回 伴奏法② I・IV・V／ハ長調            第4回 伴奏法③ ト長調            第5回 伴奏法④ ヘ長調            第6回 伴奏法⑤ その他の調／移調            第7回 伴奏法⑥ 小テスト            第8回 日本の子どもの歌①            第9回 日本の子どもの歌②            第10回 リトミック①            第11回 リトミック②            第12回 リトミック③            第13回 リトミック④ 指導実践            第14回 リトミック⑤ 指導実践            第15回 まとめ            定期試験は実施しない</p>						<p>リズムとその実践</p> <p>①基礎リズム            ②基礎リズムによるアンサンブル            ③様々なリズムによるアンサンブル            ④世界のリズム／ボディ・パーカッション①            ボディ・パーカッション②            ボディ・パーカッション③発表            簡易編曲法①            簡易編曲法②            簡易編曲法③ 指導実践</p>
評価方法	<p>個人・グループでの発表（50%）、提出物・小テスト（30%）、平常点（20%）            授業への取り組み等参加姿勢を重視する。</p>						
教科書	<p>こどものうた200（チャイルド本社）、続こどものうた200（チャイルド本社）            その他必要に応じプリント資料を配付する。</p>						
参考書 参考資料等	<p>適宜紹介する。</p>						
備考	<p>提出物の期限厳守。</p>						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
図画工作	演習	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	今 裕 子																																													
							担当形態：クラス分け・単独																																													
領域及び保育内容の指導法に関する科目		科目に含める必要事項																																																		
		領域に関する専門的事項（図画工作）																																																		
受講する上での注意事項	<p>将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。</p> <p>ハサミ、カッター、ホチキス、木工ボンド、両面テープ（1cm幅）セロテープ（1cm幅）は道具箱にまとめて毎時間持参すること。</p> <p>準備や後片付け等も学習の一つであることを意識できるようにする。</p> <p>保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。</p>																																																			
授 業 の 目的・概要	<p>本講義では、幼児の表現、造形活動に必要な知識を学び、幼児一人ひとりの創造力を支える力を養うことを目的とする。また、幼児のための造形環境を保育者としての立場から創造することをテーマに制作を行い、作品の展示方法を研究する。</p>																																																			
到 達 目 標	<p>① 季節や行事等、目的に即した造形制作を通じて幼児期の子どもを主体とした造形環境の必要性を理解し、そのために必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>② 幼児期の発達を理解するとともに低年齢児との描画・造形活動への取組み方を学ぶ。</p>																																																			
授業の進め方	<p>課題に対して資料・プリントを参考に企画シートを作成し、計画的に制作する。</p>																																																			
時間外学修学修上の助言	<p>様々な造形材を扱うことで、素材への知識や関心が高まることを期待している。</p>																																																			
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 子どもと造形表現</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>伝える</td> <td>: ポスター制作 伝える基礎基本</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>伝える</td> <td>: ポスター制作 伝える工夫を生かしてつくる</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>知らせる</td> <td>: 立体表示による伝言</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>知らせる</td> <td>: 立体表示による造形制作</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>つくる</td> <td>: ライトアップした装飾作品の理解と制作計画</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>つくる</td> <td>: ライトアップした作品制作</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>つくる</td> <td>: ライトアップした装飾の工夫交流</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>かざる</td> <td>: 図形を活用した装飾の基礎基本</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>かざる</td> <td>: 図形を活用した装飾の工夫</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>手作り絵本</td> <td>: オリジナル絵本の基本</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>手作り絵本</td> <td>: オリジナル絵本の制作</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>手作り絵本</td> <td>: オリジナル絵本の制作と発表交流</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>おめでとうシアター</td> <td>: シアターの企画・制作</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>おめでとうシアター</td> <td>: シアターの発表交流</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない</p>							第1回	オリエンテーション	: 子どもと造形表現	第2回	伝える	: ポスター制作 伝える基礎基本	第3回	伝える	: ポスター制作 伝える工夫を生かしてつくる	第4回	知らせる	: 立体表示による伝言	第5回	知らせる	: 立体表示による造形制作	第6回	つくる	: ライトアップした装飾作品の理解と制作計画	第7回	つくる	: ライトアップした作品制作	第8回	つくる	: ライトアップした装飾の工夫交流	第9回	かざる	: 図形を活用した装飾の基礎基本	第10回	かざる	: 図形を活用した装飾の工夫	第11回	手作り絵本	: オリジナル絵本の基本	第12回	手作り絵本	: オリジナル絵本の制作	第13回	手作り絵本	: オリジナル絵本の制作と発表交流	第14回	おめでとうシアター	: シアターの企画・制作	第15回	おめでとうシアター	: シアターの発表交流
第1回	オリエンテーション	: 子どもと造形表現																																																		
第2回	伝える	: ポスター制作 伝える基礎基本																																																		
第3回	伝える	: ポスター制作 伝える工夫を生かしてつくる																																																		
第4回	知らせる	: 立体表示による伝言																																																		
第5回	知らせる	: 立体表示による造形制作																																																		
第6回	つくる	: ライトアップした装飾作品の理解と制作計画																																																		
第7回	つくる	: ライトアップした作品制作																																																		
第8回	つくる	: ライトアップした装飾の工夫交流																																																		
第9回	かざる	: 図形を活用した装飾の基礎基本																																																		
第10回	かざる	: 図形を活用した装飾の工夫																																																		
第11回	手作り絵本	: オリジナル絵本の基本																																																		
第12回	手作り絵本	: オリジナル絵本の制作																																																		
第13回	手作り絵本	: オリジナル絵本の制作と発表交流																																																		
第14回	おめでとうシアター	: シアターの企画・制作																																																		
第15回	おめでとうシアター	: シアターの発表交流																																																		
評 価 方 法	<p>作品・レポート等（80%）、平常点（20%）平素の受講態度等を加味する。</p>																																																			
教 科 書	<p>幼児造形の基礎（樋口一成著、萌文書林）</p>																																																			
参 考 書 参 考 資 料 等	<p>適宜紹介する。</p>																																																			
備 考	<p>提出物の期限厳守。</p> <p>実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校における図画工作教育に関する実務経験を活かした授業を行う。</p>																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実践研究	演習	2	選択	選択必修	/	2年・前期	今 裕 子
							佐 藤 由希子
担当形態：クラス分け・複数							
科目に含める必要事項							
受講する上での注意事項	<p>将来、保育関係又は教職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。            保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。</p>						
授 業 の 目的・概要	<p>保育者として保育現場で実践する上での、具体的な指導法を総合的に深める。            保育を展開していく上で指導計画は、必要不可欠であり大きな意味を持つが、常に計画通りに進むわけではない。子どもの状態に合わせた柔軟な考え方、臨機応変に対応して行ける実践力を養成する。            指導計画の立案と模擬実践を中心に授業を進める。実際に子どもたちの前に立っているつもりで下準備をしっかり整え、意欲的に取り組むことが望まれる。</p>						
到達目標	<p>① 指導計画の意味を理解し、明確なねらいの立て方、適切な記載表現等を身に付ける。            ② 実勢を検討、評価することにより、創意工夫、柔軟な考え方を身に付ける。            ③ 保育現場で活用できる身体的な技法、実践力を身に付ける。</p>						
授業の進め方	個人毎に指導計画の立案と模擬実践を行う。その後クラス全体の振り返りを行う。						
時間外学修学修上の助言	紙面上、頭の中だけの計画で実践に臨むのではなく、事前練習をしておくこと。(絵本を声を出して読む、制作物を作ってみる、動かしてみる、時間配分のシュミレーション等)						
授 業 計 画	<p>第1回 オリエンテーション／指導案の書き方            第2回 部分実習実践 : 行事を楽しむ            第3回 部分実習実践 : 保健指導～歯科検診・歯磨き指導～            第4回 部分実習実践 : 年齢別の指導案 0.1.2歳児            第5回 部分実習実践 : 指導案の実践交流            第6回 部分実習実践 : 年齢別の指導案 3歳児            第7回 部分実習実践 : 指導案の実践交流            第8回 部分実習実践 : 年齢別の指導案 4歳児            第9回 部分実習実践 : 指導案の実践交流            第10回 部分実習実践 : 年齢別の指導案 5歳児            第11回 部分実習実践 : 指導案の実践交流            第12回 部分実習実践 : 年齢別の指導案 異年齢            第13回 部分実習実践 : 指導案の実践交流            第14回 部分実習実践 : 幼小の接続について            第15回 まとめ            定期試験は実施しない</p>						
評価方法	模擬実践(50%)、指導計画案(提出状況と内容)(30%)、平常点(20%)						
教科書	使用しない。						
参 考 書 参 考 資 料 等	保育所保育指針(厚生労働省編、フレーベル館) 幼稚園教育要領(文部科学省編、フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館)						
備 考	特に記載事項なし。						



授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
教育実習	実習	5	選択	選択	必修	1年・前期/2年・前期	藤本真奈美・下司 貴大 佐藤由希子・中村 章子 磯部ゆかり 担当形態：複数
教育実践に関する科目	科目に含める必要事項						
	教育実習（学校体験活動）						
受講する上での注意事項	将来、教職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践にかかわることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえで能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>そのために、本科目は、実習指導と実習（幼稚園）の2つの柱から構成される。</p> <p>実習指導では、実習生が実習を充実したものにできるように実習前と実習後にガイダンスを行う。実習前には、幼稚園の機能、保育者の役割、幼児教育という営み、指導計画（指導案）の作成方法等、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる準備を進める。実習後には、教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。</p> <p>実習（幼稚園）では、学内で学んだ知識や技術を実践を通じて理解し、体得していくことを目指す。教育実習は、幼稚園教諭としての基礎的な知識を定着し能力を高めていく重要な機会となる。</p> <p>これらの実習及び実習指導は、1、2年次を通じて行う。1年次には附属認定こども園での実習とそれにかかわる事前・事後指導を行う。2年次には、学外での実習とそれにかかわる事前・事後指導を行う。両年次の実習と実習指導を修得して、教育実習の単位認定となる。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 幼児との適切なかわりを通して、その実態や課題を把握する。</li> <li>② 指導担当教諭の保育を観察し、事実即して記録する。</li> <li>③ 実習園の教育方針や特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解する。</li> <li>④ 担任の役割と職務内容を理解し、補助的な役割を担う。</li> <li>⑤ 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、実践する。</li> <li>⑥ 保育に必要な基礎的な技術を身に付け、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用する。</li> </ol>						
授業の進め方	<p>1年生：附属認定こども園実習の事前指導、5日間実習</p> <p>2年生：学外幼稚園実習の事前・事後指導、3週間の学外実習</p> <p>実習を通して、幼稚園教育とは何か、幼稚園の役割等を理解する。日誌を日々書く中で、記録の重要性を理解し、子どもを観察する力を養う。</p>						
時間外学修学修上の助言	幼稚園教諭としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	<p>【1年生】</p> <p>第1回 附属認定こども園実習事前指導①：教育実習の概要、目的と意義</p> <p>第2回 附属認定こども園実習事前指導②：附属認定こども園とは（教育目標、1日の流れ、行事等）</p> <p>第3回 附属認定こども園実習事前指導③：実習に臨む態度、身だしなみ、実技指導</p> <p>第4回 附属認定こども園実習事前指導④：附属認定こども園実習オリエンテーション</p> <p>●5日間の附属認定こども園実習</p> <p>【2年生】</p> <p>第5回 学外教育実習の意義と概要</p> <p>第6回 幼児の理解① : 3、4歳児の発達過程について</p> <p>第7回 幼児の理解② : 5歳児の発達過程について</p> <p>第8回 幼稚園実習の実際① : 実習課題の立て方</p> <p>第9回 幼稚園実習の実際② : 指導案、日誌作成について1</p> <p>第10回 幼稚園実習の実際③ : 指導案、日誌作成について2</p> <p>第11回 幼稚園実習へ向けて① : 先輩の体験談を聞く</p> <p>第12回 幼稚園実習へ向けて② : 附属認定こども園の先生より幼稚園教諭の実際を知る</p> <p>第13回 直前指導 : 教育実習に向けての確認事項</p> <p>●3週間の学外幼稚園実習</p> <p>第14回 教育実習の振り返り : 実習報告書の作成</p> <p>第15回 まとめ : 教育実習の振り返り、1年間のまとめの記入</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
評価方法	附属認定こども園実習評価（20%）、学外幼稚園実習評価（60%）、実習指導：提出物、報告書、平常点（20%）。						
教科書	事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編、みらい）						
参考書等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）						
備 考	提出物の期限厳守。						